福岡市埋蔵文化財年報
VOL.22

—平成19年(2007)年度版—

2009

福岡市教育委員会

序

福岡市では、文化財保護法の趣旨に基づき、埋蔵文化財の適切な保存と活用を図ることを目的として、公共及び民間の各種開発事業の事前審査、記録保存のための緊急調査、また重要遺跡確認調査等を実施しております。

本書は、平成19年度における埋蔵文化財保護行政の概要を報告するものです。開発事業に起因する事前審査及び緊急調査件数は、平成12年度をピークに以後減少しましたが、平成15年度から一転して増加に転じる傾向にあります。平成19年度の事前審査件数は平成18年度に比べ、公共事業は増加、民間事業は若干の減少がありました。また、窓口照会はやや減少し、FAXなどの照会は微増となり、これまでの増加一辺倒の流れが初めて頭打ちとの様相を迎えました。これは本年6月に施行されたいわゆる改定建築基準法の影響や、福岡市内のほとんどの開発行為に対して、公共、民間共に埋蔵文化財保護への対応が遅滞なく正確に行われた結果であると思われます。今後とも埋蔵文化財保護業務について適正で迅速な対応を進めたいと思います。

本書が文化財保護に対するご理解の一助となり、また学術資料として活用いただければ幸いです。

平成21年3月31日

福岡市教育委員会
教育長　山田　裕嗣

例言

・本書は、埋蔵文化財第1・2課等が平成19年度に福岡市内で実施した各種開発事業に伴う事前審査と発掘調査の概要及び本報告、ならびに新指定文化財の概要について収録したものである。
・本書に記載ある報告のうち、調査番号0711、0716、0720、0730、0733、0736、0753、0756、0760の9調査は、この年報をもって本報告とする。その他については別途、本報告書が刊行される予定または、既刊であり、刊行年度については各概要の文末に記載している。
・Ⅴの各調査の概要及び調査報告は各調査担当者が分担執筆した。Ⅶについては文化財整備課が執筆した。
・上記以外の執筆並びに本書の編集は吉留秀敏が担当した。

表紙写真：大塚遺跡14次（調査番号0726）の弥生時代環濠と、元岡・桑原遺跡群42次（0451）出土の「ひょうたん形土器」

目次

Ⅰ　平成19年度文化財部の組織と分掌事務　2
Ⅱ　開発事前審査　3
Ⅲ　発掘調査　14
Ⅳ　公開活動　20
Ⅴ　平成19年度発掘調査概要および報告　21
Ⅵ　平成19年度刊行報告書一覧　107
Ⅶ　平成19年度新指定文化財　109
付　報告書抄録　112

Ⅰ　平成19年度文化財部の組織と分掌事務

文化財部の組織と分掌事務

文化財部

- 文化財管理課　9
  - 管理係（事6・文1）　文化財指定、史跡の保存・整備
  - 主査（文1）　やきもの歴史館・文化財資料室開設準備
- 文化財整備課　8
  - 整備第1係（文2事1）　文化財指定、史跡の指定・保存・整備
  - 整備第2係（文2事1）　福岡城及び鴻臚館跡の調査・整備
  - 主査（学1）　文化財調査等
- 埋蔵文化財第1課　15
  - 事前審査係（文4）　公共及び民間開発事業係る事前審査
  - 主任文化財主事（文1）
  - 調査係（文6）　課の庶務・第1・2課の予算・決算・東部地区の埋蔵文化財の発掘調査及び保存
  - 主任文化財主事（文3）
- 埋蔵文化財第2課　13
  - 調査第1係（文4）　国庫補助事業総括・課の庶務・西部地区の埋蔵文化財の発掘調査及び保存
  - 主任文化財主事（文2）
  - 調査第2係（文4）　九大移転地及び周辺地区に係る埋蔵文化財の発掘調査及び保存
  - 主任文化財主事（文1）
  - 主査（文1）　今宿古墳群保存担当
- 埋蔵文化財センター　7
  - 運営係（文3事2）　施設の管理運営、考古学的資料の収集・保存・展示
  - 主任文化財主事（文1）

埋蔵文化財第1，2課の職員構成（職員はすべて文化財専門職）

◇埋蔵文化財第1課長　山口譲治

調査係長　米倉秀紀

係員（文化財主事）　榎本義嗣　加藤良彦　久住猛雄　屋山　洋　本田浩二郎

主任文化財主事　小林義彦　池崎譲二　濱石哲也

事前審査係長　吉留秀敏

係員（文化財主事）　星野恵美　藏冨士寛　上角智希

主任文化財主事　宮井善朗

◇埋蔵文化財第2課長　力武卓二

調査第1係長　杉山富雄

係員（文化財主事）　加藤隆也　今井隆博　阿部泰之

主任文化財主事　松村道博　山崎龍雄

調査第2係長　常松幹雄

係員(文化財主事)　池田祐司　木下博文　森本幹彦

主任文化財主事　田中壽夫　菅波正人

Ⅱ　開発事前審査

1. 概　要

本市では、土木工事等の各種開発事業に係る埋蔵文化財の取り扱いについて、福岡市文化財分布地図を基本資料とし、これまでの発掘調査及び試掘調査等の成果を参考にしながら、書類審査・現地踏査・試掘調査等を実施し、開発事業計画地における埋蔵文化財の有無を確認した上で、保存に係わる協議等を行っている。分布地図には埋蔵文化財包蔵地の範囲を示し、その範囲内および隣接地（包蔵地範囲から外へ50mまで）の開発については埋蔵文化財確認の申請を求めている。

公共事業については、関係機関・部局に次年度の事業計画の照会を行い、市域内で実施予定の公共事業計画を全般的に把握し、埋蔵文化財の保存上問題になると判断される事業についてはその取り扱いについて協議を行っている。また個々の事業の実施にあたっては改めて申請を求めている。

民間の開発事業については、都市計画法に基づく1,000㎡以上の開発事業、建築基準法に基づく建築事業等を対象として事前協議を求めている。また、開発業者、不動産取引関係者、一般市民等の文化財分布地図の閲覧や建築等の計画策定段階での照会にも窓口で応じ、埋蔵文化財の保存上の措置について必要な指示を行っている。

2. 平成19年度の事前審査

平成19年度の開発事業等に伴う事前審査件数は、公共事業930件（うち事業照会769件）、民間事業1,011件の計1,941件であった（表1）。公民の比はおよそ9対10である。審査件数は平成12年度をピークに減少傾向をみせていたが、15年度以降は増加をはじめ、近年1年ごとに増減を繰り返している。19年度は公共事業は14%増であったが、民間事業はやや減少した（表2）。

なお、文化財保護法第93条による届出は632件（17年度798件、18年度717件）、第94条による通知は108件（17年度56件、18年度65件）となっている。

申請内容

公共事業のうち法94条に伴う108件の申請内容をみると、事業者は国機関21件（19%）、福岡県3件（3%）、福岡市71件（66%）、その他が13件（12%）である。事業別では上下水道が32件（30%）、道路18件（17%）、学校17件（16%）、空港関係14件(13%)、公民館等建物10件（9%）と続き、他は17件である。今年度注目されるのは福岡空港の増築、改修工事に伴う事前調査の増加である。これには国の災害対策空港としての指定を受けたことによる福岡空港の滑走路、誘導路の補強工事に関わる事前調査が含まれている。これは次年度にも継続して行う予定である。ちなみに事業照会では上下水道321件（42%）、道路227件（30%）、学校70件（9%）、建物等49件（6%）と続き、その他102件（13%）である。

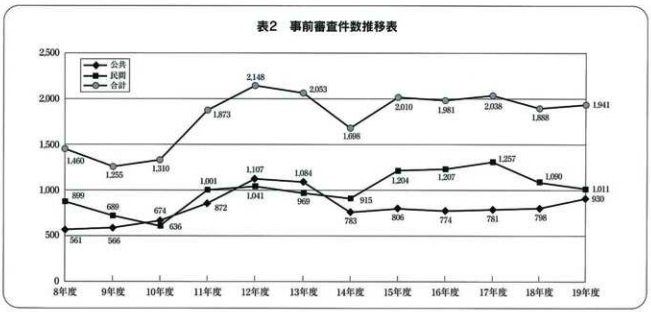
民間事業1,011件の申請内容は、申請者が個人385件（38.2%）、一般企業395件（39.2）、個人事業者208件（20.6%）、法人等の民間事業者20件（2%）である。事業別では個人住宅343件（34%）、共同住宅246件（24.4%）、これにその他の住宅をあわせると全体の70.8%を住宅建築で占めることになる。その次は店舗68件（6.7%）と不動産取引等68件（6.7%）が同数で並び、次に事務所・社屋28件（2.8%）となり、昨年と逆転した。他は3%内外にとどまる。住宅建築は18年度に対しやや減少傾向にあるが、相対的位置に変化はない。

申請地を区別に見ると、公共・民間ともにここ数年の傾向として都心部の博多区及び西部地区に偏る傾向がある。19年度（表2）も同様で、具体的には、博多区の233件（23%）が最も多く、早良区の202件（20%）、西区の190件（19%）、南区157件（16%）、城南区109件（11%）、東区90件（9%）、中央区が最も少なく27件（3%）となる。18年度と比べ南・中央区の増加がみられる。なお申請地のうち、約22%にあたる225件は埋蔵文化財包蔵地外（うち隣接地161件）であるが、隣接地の解除などにより割合・件数とも前年度より少なくなっている。

表1　平成8～19年度事前審査件数推移

事業	内　訳	8年度	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
公共	事業照会審査件数	561	566	674	872	1,107	1,084	783	671	662	668	665	769
	申請件数								135	112	113	133	161
	審査件数計	561	566	674	872	1,107	1,084	783	806	774	781	798	930
民間	窓口照会件数				2,832	3,597	4,540	4,662	4,292	5,842	6,126	8,309	8,278
	FAX照会件数								524	1,499	2,296	3,354	3,999
	照会件数計				2,832	3,597	4,540	4,662	4,816	7,341	8,422	11,663	12,277
	申請（審査）件数	899	689	636	1,001	1,041	969	915	1,204	1,207	1,257	1,090	1,011
公・民審査件数計		1,460	1,255	1,310	1,873	2,148	2,053	1,698	2,010	1,981	2,038	1,888	1,941

19年度は3月31日までの集計



審査内容

次年度への継続（44件）および取り下げ（1件）等を除いた公民合わせた1,079件の申請審査は、書類（671件、62%）、試掘（384件、36%）、踏査（24件、2%）で埋蔵文化財取り扱いの判断を行い、その結果、開発同意67件（6%）、慎重工事859件(80%)、工事立会73件（7%）、発掘調査64件（6%）、要協議（開発未定で遺跡有り）11件（1%）の回答を行った（表3）。発掘調査の回答はほぼ前年度並みであるが、慎重工事の割合はさらに微増している。事業照会では、事業にあたって協議が必要なもの288件（包蔵地内213件、隣接地67件、その他8件）、協議が不用なもの481件（包蔵地外460件、包蔵地解除等21件）であった。

試掘調査

試掘調査（包蔵地内での確認調査、隣接地・包蔵地外での試掘調査を総称）は国庫補助を受けて実施しているが、試掘時期の関係等から事業者が重機を用意して行う場合もある。試掘件数は1申請に対し1件としての扱いであり、面積等によっては1申請に対し複数回の調査を行う事もある。

19年度は公共事業59件、民間事業325件のあわせて384件（うち18年度以前申請分49件）について実施した（表4）。18年度に比べ59件の増加となった。これは公共、民間事業共に申請は微減しているものの、包蔵地内に事案が増加しているためである。事業別では共同住宅（129件）、個人住宅（107件）、社屋等住宅以外の建物（50件）の上位三事業で74%をしめ、その次は土地取引等に伴う49件が続く。他の事業は20件に満たない。区別では博多区123件（32%）、早良区69件（18%）、西区62件（16%）、南区56件（15%）、城南区33件（9%）、東区35件（9%）、中央区6件（2%）となり、博多区が全体の三分の一を占める。博多区は依然として、博多、比恵、那珂遺跡群での共同住宅等の開発が多い。早良区、西区が18年度とほぼ同数であるのに対し、南区、城

表3　平成19年度事前審査内訳

区名	事業	審査種別（書類審査・現地踏査・試掘調査）でみた判断指示の結果																		区別審査件数		照会件数（註）
		開発同意			慎重工事			工事立合			発掘調査			協　議			審査継続	取り下げ	公民別計	区計	
		書類	踏査	試掘	書類	踏査	試掘	書類	踏査	試掘	書類	踏査	試掘	書類	踏査	試掘					
東	公共	0	0	0	6	0	8	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	18	108	157
	民間	15	0	1	43	3	15	2	0	3	0	0	8	0	0	0	0	0	90		1,722
博多	公共	3	0	0	28	0	15	1	0	5	1	0	5	0	0	3	1	0	62	295	158
	民間	4	0	0	98	3	62	9	0	11	4	0	27	1	0	0	13	1	233		2,472
中央	公共	1	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	5	32	88
	民間	1	0	1	17	0	6	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	27		2,277
南	公共	0	0	1	3	0	4	0	0	1	1	0	1	0	0	0	0	0	11	169	83
	民間	13	0	1	74	1	42	9	0	5	0	0	8	0	0	0	3	2	158		1,839
城南	公共	0	0	1	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	115	42
	民間	6	1	0	58	4	33	3	0	1	1	0	0	0	0	0	4	0	111		1,033
早良	公共	0	3	1	10	1	5	1	0	1	0	0	3	0	0	1	0	0	26	227	77
	民間	13	0	0	104	3	59	5	0	9	3	1	2	0	0	0	2	0	201		1,555
西	公共	1	0	0	16	0	9	3	0	0	1	0	3	0	0	1	1	0	35	226	164
	民間	8	1	0	121	1	44	3	1	0	2	0	4	0	0	0	6	0	191		1,344
小計	公共	14	2	1	69	1	21	14	0	2	0	0	4	0	0	1	8	3	161	1,172	769
	民間	68	4	4	651	5	232	38	0	25	12	3	40	0	0	0	6	0	1,011		12,277
合計		147	6	5	720	6	253	52	0	27	12	3	44	0	0	1	14	3			

（註）照会の公共は事業照会件数、小計には市外の2件を含む。民間は窓口およびFAX照会の合計、小計には不明95件を含む。

南区の増加が認められる。この地域は地下鉄七隈線開通後の開発が一旦沈静化したものの、新たに外環状線延長が進み、その影響があると見られる。なお、試掘・確認調査地点は包蔵地内が345件（90%）、包蔵地外が39件（10%）となっている。

窓口等照会

民間業者等による窓口における埋蔵文化財の有無に係わる照会等は8,278件、ファックスでの照会は3,999件、民間照会あわせて12,277件で、18年度に比べ全体で約5%の微増となり、件数としては600件強増加したに過ぎない。これは一昨年からの宅地取引、土地評価等に関わる埋蔵文化財の有無の調査がほぼ落ち着いてきたことによるものと考えられる。ちなみに照会を区別の割合でみると、多い順に博多区20.1%、中央区18.5%、南区14.8%、東区14%、早良区12.7%、西区10.9%、城南区8.4%となり、18年度とほぼ同様の傾向であり、また博多区以外は遺跡の多寡もあり必ずしも申請件数とつながらない。埋蔵文化財の周知化が徹底し、窓口等照会件数は安定に転じたと考えられる。

3. 埋蔵文化財包蔵地の改訂

試掘調査や踏査、また発掘調査などの結果に基づき、43遺跡（重複有り）で埋蔵文化財包蔵地の改訂を行った。平成19年度に新たに発見、登録されたのは33遺跡である。この増加は、道路新設に伴う事前調査による発見と、過去の福岡市内埋蔵文化財地図や関連文献の調査、さらに現地踏査を通じた再登録によるものである。また、試掘調査の成果などから包蔵地範囲の拡大が10遺跡、縮小や一部解除はなかった。また6遺跡について全域ないし一部の隣接地解除を行った。

表4　試掘調査一覧

凡例：審査番号は年度（平成）-申請者種別（1 公共　2 民間）-申請者種別ごとの受付通し番号。開発内容のその他は売買、土地調査など。有無は試掘で遺構、遺物が確認されたもの○、なし×。指示の要協議は遺跡があったものの開発計画が未定のもの。発掘調査の数字は平成19年度に調査に入った遺跡の調査番号。各区とも試掘調査日順で列べた。

東区

審査番号	所在地	遺跡名	申請者	開発内容	試掘日	有無	指示	試掘番号	発掘調査
18-2-1045	箱崎1丁目2642-1他	箱崎遺跡	一般業者	共同住宅	H19.4.10	○	発掘調査	9	
18-2-1053-1054	香椎924～926、927、928	香椎B遺跡	個人	宅地造成	H19.4.10	×	慎重工事	8	
19-1-1	下原地内	包蔵地外	国土交通省	道路	H19.4.19	×	包蔵地外	22	
19-1-1	香椎2丁目地内	新規（堀堤遺跡）	国土交通省	道路	H19.4.20	○	発掘調査	23	0725
19-2-51	箱崎1丁目2699-1	箱崎遺跡	一般業者	共同住宅	H19.4.25	○	発掘調査	25	
19-1-12	馬出1丁目85-7	箱崎遺跡	福岡県	土地取引等	H19.5.23	×	慎重工事	59	
19-2-149	名島3丁目2469-23	名島城跡	個人	個人住宅	H19.6.7	×	慎重工事	82	
19-2-251・252	箱崎1丁目2595-4/5	箱崎遺跡	一般業者	共同住宅	H19.6.28	○	発掘調査	102	
19-2-256	和白1丁目503-6他	唐ノ原遺跡	一般業者	遊技場店舗	H19.7.2	×	慎重工事	108	
19-2-122	箱崎1丁目2589-3他	箱崎遺跡	個人	個人住宅	H19.7.3	○	慎重工事	111	
19-1-30	箱崎2丁目2-45	箱崎遺跡	福岡市	学校施設	H19.7.4	×	慎重工事	112	
19-1-32	三苫2丁目3,11他	三苫黒山遺跡	福岡市	土地取引等	H19.7.11	×	慎重工事	120	
19-2-248	香椎4丁目1147	香椎A遺跡	個人	分譲住宅	H19.7.11	○	発掘調査	121	0742
19-2-283	名島2丁目2273-152	名島城跡	個人	個人住宅	H19.8.1	×	慎重工事	141	
19-1-99	馬出1丁目12-33	箱崎遺跡	福岡市	公民館	H19.8.7	×	慎重工事	144	
19-2-361	箱崎3丁目2412-1	箱崎遺跡	個人	共同住宅	H19.8.23	○	発掘調査	158	0749
19-2-374	蒲田3丁目191-9外	蒲田水ヶ元遺跡	大企業	倉庫・事務所	H19.8.29	○	発掘調査	165	0817
19-2-221	名島2丁目2289-7	名島城跡	大企業	事務所	H19.8.29	×	慎重工事	166	
19-1-39	名島2丁目地内	名島城跡	福岡市	公民館	H19.9.7	×	慎重工事	185	
19-1-39	名島2丁目地内	名島城跡	福岡市	公民館	H19.9.7	×	慎重工事	186	
19-2-376	馬出5丁目504-1の一部	箱崎遺跡	個人	個人住宅	H19.9.7	○	発掘調査	183	0736
19-2-418	箱崎2丁目3208-22他	箱崎遺跡	一般業者	共同住宅	H19.9.10	×	慎重工事	189	
19-2-461	唐原3丁目772-57	唐ノ原遺跡	個人	個人住宅	H19.9.18	×	慎重工事	205	
19-2-453	名島3丁目2482-24他	名島城跡	個人	個人住宅	H19.9.25	×	慎重工事	215	
19-2-248	香椎4丁目1147	香椎A遺跡	個人	分譲住宅	H19.10.4	○	発掘調査	235	0742
19-2-477	箱崎2丁目3208-13	箱崎遺跡	個人	個人住宅	H19.10.11	×	慎重工事	243	
19-2-514	馬出2丁目681-1他	箱崎遺跡	一般業者	共同住宅	H19.10.16	×	慎重工事	253	
19-2-515	馬出2丁目637-1他	箱崎遺跡	個人	土地取引等	H19.10.16	×	慎重工事	254	
19-1-65	箱崎1丁目27-17	箱崎遺跡	福岡市	公民館建設	H19.10.18	○	発掘調査	257	0826
19-1-47	名子1丁目地内	名子遺跡	福岡市	道路	H19.10.26	○	発掘調査	266	0758
19-1-47	名子1丁目地内	名子遺跡	福岡市	道路	H19.10.29	○	発掘調査	267	0758
10-1-20	馬出5丁目地内	箱崎遺跡	福岡市	道路	H19.10.29	○	発掘調査	268	0825
19-2-563	馬出5丁目地内	箱崎遺跡	宗教法人	墓地改修	H19.10.29	○	発掘調査	269	0762
19-2-547	馬出2丁目634-1外5筆	箱崎遺跡	個人	土地取引等	H19.11.1	×	慎重工事	273	
16-1-19	馬出6丁目地内	箱崎遺跡	福岡市	道路	H19.11.5	×	慎重工事	277	
19-2-188	下原3丁目907-4外2筆	包蔵地外	一般業者	宅地造成	H19.11.19	×	開発同意	299	
19-2-631	下原4丁目960-1	高節遺跡	個人	個人住宅	H19.11.19	×	慎重工事	298	
19-2-563	馬出5丁目508、510	箱崎遺跡	宗教法人	墓地改修	H19.12.6	○	発掘調査	330	0762
19-1-47	名子1丁目地内	名子遺跡	福岡市	道路	H19.12.19	○	工事立会	349	
19-2-851	箱崎1丁目2760-1他	箱崎遺跡	一般業者	土地取引等	H20.3.4	×	慎重工事	411	
19-2-982	蒲田3丁目751-2	蒲田部木原遺跡	一般業者	育苗場建設	H20.3.25	○	発掘調査	442	0845

博多区

審査番号	所在地	遺跡名	申請者	開発内容	試掘日	有無	指示	試掘番号	発掘調査
18-2-1039	東光寺町2丁目	那珂遺跡群	個人	商業ビル	H19.4.3	○	発掘調査	1	0710
18-2-1088	昭南町3丁目12-3	雑餉隈遺跡	個人	個人住宅	H19.4.5	×	慎重工事	4	
18-2-869	銅場町78-1	博多遺跡群	大企業	共同住宅	H19.4.10	×	慎重工事	7	
18-2-1080	古門戸町166-2	博多遺跡群	一般業者	共同住宅	H19.4.12	×	慎重工事	11	
18-2-1044	中呉服町184他	博多遺跡群	一般業者	共同住宅	H19.4.12	×	慎重工事	12	
18-2-1015	博多駅南5-113-1	比恵遺跡群	個人	個人住宅	H19.4.12	×	慎重工事	13	
18-2-925	那珂1-772	那珂遺跡群	個人	個人住宅	H19.4.17	×	慎重工事	16	
19-2-8	店屋町135,136	博多遺跡群	一般業者	事務所ビル	H19.4.19	○	発掘調査	19	0728

審査番号	所在地	遺跡名	申請者	開発内容	試掘日	有無	指示	試掘番号	発掘調査
18-2-869	綱場町78-1	博多遺跡群	大企業	共同住宅	H19.4.25	×	慎重工事	26	
19-1-16	福岡空港内	雀居遺跡	国土交通省	空港内滑走路	H19.4.26	×	工事立会	31	
18-2-1035	下呉服町90-3	博多遺跡群	一般業者	個人住宅	H19.4.26	×	慎重工事	30	
19-2-18	青木2丁目182-1、181-1、173-3	松崎遺跡	個人	土地取引等	H19.5.2	×	慎重工事	36	
18-2-434	店屋町6-18	博多遺跡群	一般業者	店舗増築	H19.5.7	×	慎重工事	37	0711
19-2-38	祇園町548他	博多遺跡群	一般業者	商業施設（店舗）	H19.5.8	×	慎重工事	38	
19-2-23	麦野5丁目8-27	麦野A遺跡	個人	共同住宅	H19.5.10	○	工事立会	42	0724
19-1-17	福岡空港内	久保園遺跡	国土交通省	空港整備	H19.5.11	○	発掘調査	44	
19-1-17	福岡空港内	久保園遺跡	国土交通省	空港整備	H19.5.15	○	発掘調査	48	
18-2-1023	麦野4丁目14-24	麦野A遺跡	個人	共同住宅	H19.5.15	○	発掘調査	47	
19-2-99	博多駅南5-41-1	比恵遺跡群	一般業者	共同住宅	H19.5.17	○	工事立会	52	
19-2-59	板付5丁目	板付遺跡	個人	共同住宅	H19.5.17	×	慎重工事	50	
19-2-15	青木2丁目205	席田青木遺跡	個人	土地取引等	H19.5.17	×	慎重工事	51	
19-1-17	福岡空港内	久保園遺跡	国土交通省	空港整備	H19.5.18	○	発掘調査	53	
18-2-1064	那珂2丁目188	那珂遺跡群	個人	個人住宅	H19.5.22	×	慎重工事	56	
19-2-128	大字那珂字堂ノ上1150-4/5	那珂遺跡群	個人	共同住宅	H19.5.22	×	発掘調査	57	0721
19-2-95	相生町3-21-13	南八幡遺跡	個人	共同住宅	H19.5.22	×	慎重工事	55	
19-2-55	中呉服町149-1他	博多遺跡群	一般業者	共同住宅	H19.5.23	×	慎重工事	60	
19-2-105	諸岡4丁目612外	諸岡A遺跡	一般業者	共同住宅	H19.5.23	×	慎重工事	61	
19-2-130	諸岡4丁目181	諸岡遺跡	個人	個人住宅	H19.5.23	○	発掘調査	62	0720
19-1-14	那珂6丁目地内	那珂遺跡群	福岡市	水道工事	H19.5.29	○	発掘調査	68	0717
19-2-110	板付4丁目11-21	高畑遺跡	個人	土地取引等	H19.5.31	×	慎重工事	76	
19-2-181	博多駅南6丁目15-2	比恵遺跡群	一般業者	事務所ビル	H19.6.1	○	工事立会	77	
19-2-104	竹丘町2丁目1-2他	麦野C遺跡	一般業者	店舗	H19.6.7	○	発掘調査	83	0731
19-2-210	那珂1丁目615-1、580	那珂遺跡群	個人	個人住宅	H19.6.11	○	発掘調査	84	
18-2-885	上呉服町6-5	博多遺跡群	個人	個人住宅兼事務所	H19.6.21	○	発掘調査	94	
19-1-21	那珂2丁目18-1	那珂遺跡群	福岡市	学校施設	H19.6.27	○	発掘調査	99	0729
19-2-192	馬出1丁目270	箱崎遺跡	個人	共同住宅	H19.6.28	○	発掘調査	103	
19-2-230	諸岡3丁目8-8	諸岡A遺跡	大企業	店舗	H19.7.2	×	慎重工事	106	
18-2-885	上呉服町6-5	博多遺跡群	個人	個人住宅兼事務所	H19.7.2	○	発掘調査	107	
19-2-15	東比恵3丁目27-5	東比恵三丁目遺跡	一般業者	分譲住宅	H19.7.3	×	慎重工事	110	
19-2-223	吉塚3丁目415-2	吉塚遺跡	個人	共同住宅	H19.7.3	○	慎重工事	109	
19-2-247	麦野1丁目30-2	麦野A遺跡	個人	個人住宅	H19.7.4	○	慎重工事	113	
19-2-100	下川端町127-1他	博多遺跡群	個人	店舗	H19.7.9	×	慎重工事	117	
19-2-241	御供所町173、155-1	博多遺跡群	個人	個人住宅	H19.7.10	○	慎重工事	119	0730
19-2-229	諸岡1丁目6-8	諸岡A遺跡	個人	共同住宅	H19.7.10	×	慎重工事	118	
19-2-247	麦野1丁目30-2	麦野A遺跡	個人	個人住宅	H19.7.17	○	慎重工事	126	
19-2-300	諸岡2丁目7-4	諸岡B遺跡	個人	個人住宅	H19.7.19	○	発掘調査	129	0733
19-2-278	諸岡2丁目7-6	諸岡B遺跡	個人	個人住宅	H19.7.24	×	慎重工事	131	
19-2-212	博多駅南6丁目85-1他	比恵遺跡群	個人	共同住宅	H19.7.31	○	発掘調査	139	0745
19-1-13	東比恵3丁目13	東比恵遺跡	福岡市	雨水調整池	H19.8.1	×	慎重工事	140	
19-2-301	須崎町126	博多遺跡群	一般業者	共同住宅	H19.8.1	×	慎重工事	142	
19-2-314	堅粕3丁目30,30-1	堅粕遺跡	一般業者	共同住宅	H19.8.7	×	慎重工事	145	
19-2-323	那珂1丁目817-2	那珂遺跡群	個人	個人住宅	H19.8.7	○	工事立会	146	
19-2-375	麦野5丁目8-59外4筆	麦野A遺跡	一般業者	共同住宅	H19.8.21	○	工事立会	155	
19-2-366	板付5丁目8-12	高畑遺跡	一般業者	土地取引等	H19.8.23	×	慎重工事	159	
19-1-35	諸岡4丁目地内	諸岡B遺跡	福岡市	公園建設	H19.8.30	○	発掘調査	168	0744
19-2-377	空港前5丁目24-11外	席田青木遺跡	個人	個人住宅	H19.8.30	×	慎重工事	169	
19-2-362	井相田1丁目10	仲島遺跡	一般業者	土地取引等	H19.9.6	○	発掘調査	180	
19-2-436	麦野1丁目22-9、22-10	麦野A遺跡	個人	個人住宅	H19.9.6	×	慎重工事	179	
19-2-360	麦野3丁目10-11	麦野A遺跡	個人	分譲住宅	H19.9.6	○	発掘調査	181	0755
19-2-415	東那珂2丁目214-1他	東那珂遺跡	一般業者	工場	H19.9.10	×	慎重工事	188	
19-2-341	博多駅南4丁目122-2	比恵遺跡群	個人	共同住宅	H19.9.10	○	発掘調査	190	0761
19-2-387	博多駅南5丁目152-1	比恵遺跡群	一般業者	共同住宅	H19.9.11	△	工事立会	192	
17-1-99	竹下5丁目、那珂2丁目地内	那珂遺跡群	福岡市	公園建設	H19.9.13	○	発掘調査	199	0627
19-1-40	吉塚2丁目地内	吉塚祝町遺跡	福岡市	公園建設	H19.9.13	○	慎重工事	198	
19-2-286	麦野6丁目15-3	麦野C遺跡	個人	共同住宅	H19.9.13	○	発掘調査	200	0746
18-2-1023	麦野4丁目14-24	麦野A遺跡	個人	共同住宅	H19.9.18	×	慎重工事	204	
19-2-281	千代2丁目160他	堅粕遺跡	大企業	共同住宅	H19.9.25	×	慎重工事	216	
19-2-452	博多駅南5丁目54	比恵遺跡群	一般業者	共同住宅	H19.9.25	×	慎重工事	218	

審査番号	所在地	遺跡名	申請者	開発内容	試掘日	有無	指示	試掘番号	発掘調査
19-2-483	千代1丁目880他	堅船遺跡	一般業者	土地取引等	H19.9.25	×	慎重工事	217	
19-2-460	住吉2丁目39-2	住吉神社遺跡	大企業	共同住宅	H19.10.2	×	慎重工事	228	
19-2-487	東比恵3丁目178	東比恵三丁目遺跡	一般業者	土地取引等	H19.10.2	×	慎重工事	227	
18-2-1022	諸岡5丁目13-11	笹原遺跡	法人組織	保育園建設	H19.10.2	×	慎重工事	229	
19-2-452	博多駅南5丁目54	比恵遺跡群	一般業者	共同住宅	H19.10.5	×	慎重工事	236	
19-2-335	東雲町3丁目4-16	井相田C遺跡	一般業者	共同住宅	H19.10.11	×	慎重工事	244	
19-2-503	竹下1丁目35、339の一部	那珂遺跡群	個人	個人住宅	H19.10.11	○	工事立会	245	
19-2-499	須崎町49	博多遺跡群	個人	個人住宅	H19.10.16	×	慎重工事	252	
18-2-533	井相田1丁目10	仲島遺跡	一般業者	土地取引等	H19.10.17	×	慎重工事	255	
19-2-498	空港前2丁目487-3外	下臼井遺跡	個人	個人住宅	H19.10.23	×	慎重工事	262	
18-2-763	吉塚1丁目545-1他	堅船遺跡	個人	共同住宅	H19.10.23	○	工事立会	261	
19-2-38	祇園町548他	博多遺跡群	一般業者	商業施設（店舗）	H19.10.30	×	慎重工事	272	
19-1-62・63	西月隈4-2、4-7	立花寺B遺跡	福岡市	花壇建設	H19.11.8	×	慎重工事	281	
19-2-606	竹下2丁目4-29	比恵遺跡群	一般業者	共同住宅	H19.11.8	×	慎重工事	284	
19-2-545	青木1丁目430-1	席田青木遺跡	個人	土地取引等	H19.11.8	×	慎重工事	282	
19-2-546	青木1丁目431	席田青木遺跡	個人	土地取引等	H19.11.8	×	慎重工事	283	
19-2-150	東比恵3丁目2-31	東比恵三丁目遺跡	一般業者	個人住宅	H19.11.12	×	慎重工事	288	
19-2-561	千代1丁目85,87-1,101	堅船遺跡	一般業者	共同住宅	H19.11.13	×	慎重工事	290	
19-2-618	麦野4丁目15-29	麦野A遺跡	個人	個人住宅	H19.11.13	×	慎重工事	289	
19-1-64	月隈1丁目7	水町遺跡	福岡市	花壇建設	H19.11.15	○	発掘調査	296	
19-1-50	上臼井柳井	下月隈C遺跡	防衛省	滑走路整備	H19.11.21	○	慎重工事	306	
19-2-573	三筑1丁目7の一部	三筑遺跡	一般業者	社屋建築	H19.11.21	○	発掘調査	305	
19-1-50	上臼井柳井	下月隈C遺跡	防衛省	滑走路整備	H19.11.22	○	慎重工事	307	
19-1-97	月隈3丁目28	上月隈遺跡	福岡市	駐車場整備	H19.11.27	○	慎重工事	314	
19-2-612	光丘町2丁目6	中ノ原遺跡	一般業者	個人住宅	H19.11.27	○	慎重工事	316	0756
18-1-56	博多駅前1～4丁目	博多遺跡群	福岡市	水道工事	H19.11.28	×	慎重工事	317	
19-2-532	三筑1丁目3-13の一部	三筑遺跡	一般業者	共同住宅	H19.11.29	×	慎重工事	318	
19-2-465	西原町3丁目34-1、34-2	中ノ原遺跡	一般業者	共同住宅	H19.11.29	×	慎重工事	319	
19-2-527	博多駅前3丁目59	比恵遺跡群	個人	共同住宅	H19.11.29	○	発掘調査	320	0801
19-1-98	福岡空港内	上牟田遺跡	国土交通省	空港整備	H19.12.3	×	慎重工事	321	
19-1-98	福岡空港内	上牟田遺跡	国土交通省	空港整備	H19.12.4	×	慎重工事	322	
19-2-647	箱崎3丁目2415-5	箱崎遺跡	一般業者	共同住宅	H19.12.6	×	慎重工事	329	
19-2-690	榎田1丁目9-5他	榎田遺跡	個人	土地取引等	H19.12.6	×	慎重工事	328	
19-2-674	博多駅南5丁目90-1他	比恵遺跡群	個人	個人住宅	H19.12.13	○	発掘調査	343	
19-2-638	古門戸町3-6	博多遺跡群	一般業者	個人住宅	H19.12.20	○	慎重工事	350	0760
19-2-722	銀天町3-12	麦野C遺跡	一般業者	共同住宅	H19.12.21	×	慎重工事	351	
19-2-635	博多駅前3丁目95	比恵遺跡群	一般業者	店舗	H20.1.7	×	慎重工事	355	
19-1-44	元町3丁目1-1	雑餉隈遺跡	福岡市	学校施設	H20.1.9	×	慎重工事	358	
19-2-737	東比恵3丁目189	東比恵3丁目遺跡	一般業者	共同住宅	H20.1.9	×	慎重工事	359	
19-2-677	竹下2丁目3-9	比恵遺跡群	大企業	事務所・駐車場駐車場	H20.1.10	×	慎重工事	360	
19-2-719	那珂2丁目138の一部	那珂遺跡群	個人	共同住宅	H20.1.10	○	発掘調査	361	
19-2-598	上呉服町563、564	博多遺跡群	一般業者	共同住宅	H20.1.15	×	慎重工事	362	
19-2-440	青木2丁目205他7筆	席田青木遺跡	一般業者	土地取引等	H20.1.15	×	慎重工事	363	
19-1-116	那珂4丁目5-1	那珂君休遺跡	福岡市	下水道施設	H20.1.22	×	慎重工事	371	
19-2-803	板付5丁目7-117	板付遺跡	一般業者	土地取引等	H20.1.29	○	発掘調査	380	
19-2-761	東雲町3丁目25、25-2	麦野C遺跡	一般業者	土地取引等	H20.1.29	×	慎重工事	378	
19-2-462	那珂6丁目310	那珂遺跡群	個人	個人住宅	H20.2.3	○	発掘調査	384	
19-2-778	那珂2丁目347他	那珂遺跡群	一般業者	共同住宅	H20.2.5	○	発掘調査	387	0813
19-2-762	中呉服町194他	博多遺跡群	個人	店舗付共同住宅	H20.2.5	×	慎重工事	385	
19-2-808	那珂3丁目88	那珂遺跡群	大企業	店舗	H20.2.12	×	慎重工事	392	
19-2-805	麦野6丁目11-2	麦野C遺跡	大企業	事務所	H20.2.12	○	発掘調査	391	0805
19-2-841	東光寺町1丁目147-1	那珂遺跡群	個人	事務所・倉庫	H20.2.12	×	慎重工事	393	
19-2-853	堅船4丁目517-1	吉塚遺跡	一般業者	土地取引等	H20.2.15	○	発掘調査	399	
19-2-852	板付5丁目9-17	高畑遺跡	一般業者	土地取引等	H20.2.15	×	慎重工事	398	
19-2-866	諸岡5丁目35他	笹原遺跡	一般業者	土地取引等	H20.2.20	○	発掘調査	404	
19-2-636	博多駅南4丁目206-1	比恵遺跡群	個人	共同住宅	H20.2.20	×	慎重工事	405	
19-2-810	青木2丁目209-1他	席田青木遺跡	個人	土地取引等	H20.2.20	×	慎重工事	406	
19-2-862	竹下5丁目468-1	那珂遺跡群	一般業者	共同住宅	H20.2.26	○	発掘調査	408	
19-2-860	古門戸町203	博多遺跡群	一般業者	共同住宅	H20.2.26	×	慎重工事	407	
19-2-778	那珂2丁目347他	那珂遺跡群	一般業者	共同住宅	H20.3.4	○	発掘調査	409	0813

審査番号	所在地	遺跡名	申請者	開発内容	試掘日	有無	指示	試掘番号	発掘調査
19-2-869	銀天町2丁目13-1	麦野C遺跡	一般業者	共同住宅	H20.3.4	×	慎重工事	410	
19-2-776	御供所町2-4	博多遺跡群	法人	寺社建築	H20.3.11	○	発掘調査	422	0815
19-2-868	東那珂1丁目337-2	東那珂遺跡	個人	個人住宅	H20.3.19	×	慎重工事	436	
19-2-899	箱崎3丁目3371-1他	箱崎遺跡	個人	共同住宅	H20.3.19	○	発掘調査	435	0811
19-2-550	吉塚2丁目326-1他	吉塚遺跡	個人	共同住宅	H20.3.19	×	慎重工事	434	
19-2-896	相生2丁目	南八幡遺跡	一般業者	商業ビル	H20.3.28	○	発掘調査	444	

中央区

審査番号	所在地	遺跡名	申請者	開発内容	試掘日	有無	指示	試掘番号	発掘調査
19-2-13	大濠2丁目12-25	福岡城長土堤	一般業者	共同住宅	H19.5.10	×	慎重工事	43	
19-2-178	知行1丁目11-24	元寇防塁	個人	住宅兼事務所	H19.6.7	×	慎重工事	81	
19-2-408	地行3丁目16-5外	元寇防塁	個人	個人店舗	H19.8.30	×	慎重工事	170	
17-1-80	知行3丁目16-4他	元寇防塁	福岡県	共同住宅	H19.9.27	×	慎重工事	220	
19-2-346	赤坂1丁目45-1他	福岡城跡	一般業者	共同住宅	H19.10.3	×	慎重工事	231	
19-2-687	地行3丁目4-5	元寇防塁	個人	土地取引等	H20.1.29	×	慎重工事	379	

南区

審査番号	所在地	遺跡名	申請者	開発内容	試掘日	有無	指示	試掘番号	発掘調査
19-1-3	若久2丁目3-13	若久B遺跡	福岡市	仮設ﾌﾟﾚﾊﾌﾞ教室	H19.4.19	×	慎重工事	21	
18-2-905	井尻5丁目13-8他	井尻B遺跡	一般業者	共同住宅	H19.4.19	×	工事立会	20	
19-2-27	三宅2丁目940-1	三宅B遺跡	一般業者	土地取引等	H19.4.26	×	慎重工事	29	
19-2-131	南大橋1丁目1190-1	大橋遺跡	個人	共同住宅	H19.5.21	×	慎重工事	54	
19-2-92	井尻1丁目14-10	井尻B遺跡	個人	個人住宅	H19.5.24	○	発掘調査	65	
19-2-159~161	野間4丁目105・106の一部	中村町遺跡	個人	個人住宅	H19.5.24	×	慎重工事	63	
19-2-32	柏原1丁目81	花畑A遺跡	個人	土地取引等	H19.5.24	×	慎重工事	64	
19-2-101	野間4丁目168、169	中村町遺跡	一般業者	宅地造成	H19.5.29	×	慎重工事	71	
19-2-68	野多目2丁目19-31	野多目C遺跡	一般業者	土地取引等	H19.5.31	×	慎重工事	74	
19-2-155	五十川2丁目277−24他	五十川遺跡	個人	個人住宅	H19.6.5	○	発掘調査	79	
19-2-96	五十川2丁目534-1他	五十川遺跡	個人	土地取引等	H19.6.5	○	発掘調査	78	
19−2-166	西長住3丁目576-2、576-11	樋井川B遺跡	零細事業者	公衆浴場建設	H19.6.12	×	慎重工事	85	
19-2-6	井尻1丁目769-1	井尻B遺跡	個人	共同住宅	H19.6.12	○	発掘調査	86	
19-2-175	日佐2丁目141-7	日佐遺跡	個人	個人住宅	H19.6.21	×	慎重工事	95	
19-1-23	筑紫丘2丁目28-1	大橋A遺跡	福岡市	学校施設	H19.6.27	×	慎重工事	100	
19-2-220	五十川2丁目545-4他	五十川遺跡	個人	共同住宅	H19.6.28	○	慎重工事	104	
19-2-273	日佐3丁目91-2	弥永原遺跡	個人	個人住宅	H19.7.17	×	慎重工事	127	0727
19-2-274	井尻5丁目260-7	井尻B遺跡	個人	共同住宅	H19.7.19	○	工事立会	130	
19-2-275	花畑2丁目880-1	花畑遺跡	個人	土地取引等	H19.7.19	×	慎重工事	128	
19-2-289	大橋4丁目631の一部	大橋E遺跡	一般業者	店舗	H19.7.26	×	慎重工事	135	
19-2-321	日佐3丁目42-1	弥永原遺跡	その他	学校建築	H19.7.31	×	慎重工事	138	
19-1-41	桧原1丁目地内	赤牟田遺跡	福岡市	公園建設	H19.8.8	×	慎重工事	147	
19-2-325	三宅1丁目1107-4	大橋E遺跡	個人	土地取引等	H19.8.9	×	慎重工事	152	
19-2-350・351	井尻1丁目311-23	井尻B遺跡	一般業者	共同住宅	H19.8.17	×	慎重工事	153	
19-1-43	花畑3丁目34-1	花畑A遺跡	福岡市	学校施設	H19.8.23	×	慎重工事	157	
19-2-378	井尻1丁目7369-6	井尻B遺跡	個人	個人住宅	H19.9.13	○	慎重工事	197	
19-2-412	大橋1丁目1232-78	大橋C遺跡・三宅遺跡	一般業者	土地取引等	H19.9.14	×	慎重工事	201	
19-2-448	三宅2丁目934-2	三宅B遺跡	一般業者	土地取引等	H19.9.14	×	慎重工事	202	
19-2-424	井尻3丁目70-14他	笹原遺跡	一般業者	土地取引等	H19.9.14	×	慎重工事	203	
12-1-136	大橋4丁目地内	大橋E遺跡	福岡市	道路	H19.9.20	○	発掘調査	209	0752
15-1-29	横手3丁目地内	笠抜遺跡	福岡市	道路	H19.9.20	○	発掘調査	210	0803
19-1-57	鶴田3丁目地内	包蔵地外	福岡市	道路	H19.9.20	×	慎重工事	211	
19-2-516	弥永1丁目819他	警弥郷A遺跡	法人組織	寺社増築	H19.10.5	×	慎重工事	237	
19-2-133	井尻4丁目903-1	井尻B遺跡	一般業者	共同住宅	H19.10.9	×	慎重工事	238	
19-2-381	野多目1丁目531-4	野多目A遺跡	個人	個人住宅	H19.11.2	×	慎重工事	276	
19-2-570	井尻1丁目20-26	井尻B遺跡	一般業者	個人住宅	H19.11.6	×	慎重工事	280	
19-2-455	井尻2丁目37-39	諸岡A遺跡	個人	土地取引等	H19.11.6	×	慎重工事	278	
19-2-589	井尻2丁目51-2	諸岡A遺跡	個人	共同住宅	H19.11.12	×	慎重工事	287	
19-2-494	日佐2丁目578-1	包蔵地外	個人	店舗	H19.11.15	×	慎重工事	295	
19-2-593	三宅1丁目725	大橋E遺跡	個人	個人住宅	H19.11.16	×	慎重工事	297	
19-2-584	大橋1丁目1232-166他	大橋C遺跡・三宅遺跡	一般業者	土地取引等	H19.11.20	×	慎重工事	303	
19-2-504	井尻5丁目234-67の一部	井尻B遺跡	個人	個人住宅	H19.11.27	×	慎重工事	313	

審査番号	所在地	遺跡名	申請者	開発内容	試掘日	有無	指示	試掘番号	発掘調査
19-2-627	横手3丁目311	横手遺跡	個人	個人住宅	H19.12.4	×	慎重工事	324	
19-2-358	横手3丁目12-8	横手遺跡	個人	共同住宅	H19.12.4	×	慎重工事	323	
19-2-607	五十川2-280-8	五十川遺跡	個人	個人住宅兼店舗	H19.12.11	○	工事立会	338	
19-2-662	和田1丁目43-11	三宅遺跡	個人	個人住宅	H19.12.18	×	慎重工事	347	
19-2-731・732	井尻1-311-24・26	井尻B遺跡	一般業者	共同住宅	H19.12.25	○	慎重工事	353	
19-2-678	太平寺1丁目247、248、250	太平寺遺跡	個人	共同住宅	H20.1.8	○	工事立会	357	
19-2-657	老司1丁目20-26	野多目C遺跡	個人	個人住宅	H20.1.22	×	慎重工事	372	
19-2-741	井尻5丁目160-6	井尻B遺跡	個人	個人住宅	H20.1.31	○	発掘調査	381	0765
19-2-721	五十川2-590-4	五十川遺跡	個人	個人住宅	H20.1.31	○	発掘調査	382	0766
19-2-798	横手3丁目310の一部	横手遺跡	個人	共同住宅	H20.2.1	×	慎重工事	383	
19-2-836	柳瀬1丁目127-15	弥永原遺跡	一般業者	土地取引等	H20.2.14	×	慎重工事	396	
19-2-838	弥永2丁目1-1外	警弥郷A遺跡	個人	共同住宅	H20.2.14	×	慎重工事	397	
19-2-768	向野2丁目17-2	野間B遺跡	個人	個人住宅兼共同住宅	H20.2.19	○	発掘調査	400	0767
19-2-913	井尻5丁目234-22他	井尻B遺跡	個人	共同住宅	H20.3.18	○	工事立会	431	

城南区

審査番号	所在地	遺跡名	申請者	開発内容	試掘日	有無	指示	試掘番号	発掘調査
18-2-1028	片江1丁目1114-42他	片江B遺跡	一般業者	共同住宅	H19.4.5	×	慎重工事	5	
18-2-1058	七隈2丁目1216-14他	飯倉B遺跡	個人	個人住宅	H19.4.17	×	慎重工事	14	
18-2-1036	南片江4丁目129-1	鳥越古墳群A群	個人	土地取引等	H19.5.8	×	慎重工事	39	
19-2-157	片江1丁目24-22	片江B遺跡	個人	店舗	H19.5.30	×	慎重工事	73	
19-2-163	七隈3丁目13-33	飯倉C遺跡	個人	個人住宅	H19.6.14	×	慎重工事	88	
19-2-232	田島1丁目432	田島A遺跡	個人	個人住宅	H19.6.23	○	工事立会	96	
19-2-93	片江5丁目1577-11	西ノ堤遺跡	個人	共同住宅	H19.6.26	×	慎重工事	97	
19-2-263	梅林5丁目154-1他	飯倉G・H遺跡	一般業者	事務所・駐車場	H19.7.12	×	慎重工事	123	
19-2-250	茶山6丁目505-1	茶山遺跡	個人	土地取引等	H19.7.12	×	慎重工事	124	
19-1-33	七隈6丁目345	飯倉F遺跡	福岡市	公園建設	H19.7.26	×	慎重工事	134	
19-2-328	別府5丁目228-3	別府遺跡	個人	土地取引等	H19.8.27	×	慎重工事	160	
19-2-292	田島3丁目1-4	田島A遺跡	個人	個人住宅	H19.8.28	○	慎重工事	163	
19-2-439	七隈5丁目351-6	飯倉E遺跡	個人	個人住宅	H19.9.10	×	慎重工事	191	
19-2-399	片江1丁目1038-1他	片江B遺跡	個人	個人住宅	H19.9.20	×	慎重工事	214	
19-2-414	別府6丁目420	茶山遺跡	個人	個人住宅	H19.10.11	×	慎重工事	242	
19-2-472	神松寺3丁目66の一部	ｶﾙﾒﾙ修道院遺跡	個人	個人住宅	H19.10.12	×	慎重工事	248	
19-2-297	田島6丁目130	田島遺跡	個人	土地取引等	H19.10.18	×	慎重工事	260	
19-2-523	別府6丁目450	別府遺跡	個人	土地取引等	H19.10.18	×	慎重工事	258	
19-2-572	荒江1丁目465-7、465-8の一部	飯倉B遺跡	個人	個人住宅	H19.11.1	×	慎重工事	274	
19-2-474	田島5丁目302	田島B遺跡	一般業者	個人住宅	H19.11.8	×	慎重工事	285	
19-2-596	田島2丁目576	田島和尚頭遺跡	一般業者	銀行店舗・寮	H19.11.8	×	慎重工事	286	
19-2-585	荒江1丁目337-1	飯倉B遺跡	一般業者	個人住宅	H19.11.20	×	慎重工事	304	
19-2-576	片江3丁目255-13	片江A遺跡	個人	共同住宅	H19.11.27	×	慎重工事	311	
19-2-656	七隈2丁目831-7	飯倉C遺跡	個人	個人住宅	H19.12.18	×	慎重工事	348	
19-2-684	七隈1-1142-20	飯倉B遺跡	個人	個人住宅	H19.12.25	×	慎重工事	354	
19-2-747	七隈2丁目418-17	飯倉G遺跡	個人	個人住宅	H20.1.8	×	慎重工事	356	
19-2-774	長尾5丁目329、330	長尾遺跡	一般業者	共同住宅	H20.1.24	×	慎重工事	376	
19-2-754	梅林4丁目124-71他	飯倉G遺跡	個人	個人住宅	H20.2.6	×	慎重工事	388	
19-2-738	片江3丁目1258-4他	片江A遺跡	一般業者	寮建設	H20.2.7	×	慎重工事	390	
19-2-847	七隈3丁目803-2	飯倉C遺跡	一般業者	土地取引等	H20.2.19	×	慎重工事	401	
19-2-401	田島4丁目16、17	田島A遺跡	個人	個人住宅兼共同住宅	H20.2.19	×	慎重工事	402	
19-2-930・931	片江5丁目1562-20外	西ノ堤遺跡	個人	土地取引等	H20.3.10	×	慎重工事	419	
19-2-961	片江1丁目1010	片江B遺跡	個人	共同住宅	H20.3.24	×	慎重工事	440	

早良区

審査番号	所在地	遺跡名	申請者	開発内容	試掘日	有無	指示	試掘番号	試掘調査
18-2-1060	東入部2丁目1779-1他	ヒワタシ遺跡	個人	個人住宅	H19.4.3	×	慎重工事	2	
18-2-1052	野芥1丁目13-31	野芥遺跡	個人	共同住宅	H19.4.12	×	慎重工事	10	
17-1-60	賀茂4丁目	免遺跡隣接	福岡市	河川改修工事	H19.4.18	○	発掘調査	18	0712
19-2-72	南庄3-142-1、143-1	有田遺跡群	個人	個人住宅	H19.4.27	×	慎重工事	33	
18-2-1020	有田2丁目10-20	有田遺跡群	学校法人	幼稚園増築	H19.4.27	×	慎重工事	34	
18-2-1057	小田部3丁目5	有田遺跡群	個人	個人住宅	H19.5.10	×	慎重工事	41	
19-2-82	有田1丁目8-8	有田遺跡群	一般業者	分譲住宅	H19.5.15	○	発掘調査	45	

審査番号	所在地	遺跡名	申請者	開発内容	試掘日	有無	指示	試掘番号	発掘調査
19-2-22	梅林6丁目355-1	ｸｴﾌﾞﾉ遺跡	一般業者	土地取引等	H19.5.15	○	慎重工事	46	
16-1-83	小田部5丁目	有田遺跡群	福岡市	道路	H19.5.16	○	慎重工事	49	
18-2-1037	荒江2丁目119	飯倉B遺跡	一般業者	共同住宅	H19.5.22	×	慎重工事	58	
19-2-80	田村1丁目828の一部	田村遺跡	個人	共同住宅	H19.5.24	×	慎重工事	66	
19-2-117	原6丁目857-2～4	原遺跡	一般業者	分譲住宅	H19.5.29	×	慎重工事	69	
19-2-152	小田部1丁目177-5	有田遺跡群	個人	倉庫建築	H19.6.6	○	工事立会	80	
19-2-124	賀茂4丁目443-1	次郎丸高石遺跡	一般業者	宅地造成	H19.6.12	×	慎重工事	87	
19-2-199	有田3丁目69-1	有田遺跡群	一般業者	分譲住宅	H19.6.14	×	慎重工事	89	
19-2-236	有田3丁目56-1の一部	有田遺跡群	一般業者	分譲住宅	H19.6.19	○	慎重工事	92	
19-2-239	有田3丁目56-1の一部	有田遺跡群	一般業者	分譲住宅	H19.6.19	○	慎重工事	93	
19-2-199	有田3丁目69-1	有田遺跡群	一般業者	分譲住宅	H19.6.19	×	慎重工事	91	
19-2-103	小田部1丁目156	有田遺跡群	個人	個人住宅	H19.6.27	○	工事立会	98	
19-2-147	賀茂2丁目47-1他	弘蔵地外	一般業者	分譲住宅	H19.7.5	×	慎重工事	116	
19-2-219	四箇4丁目133-7他	四箇園田遺跡	一般業者	土地取引等	H19.7.5	×	慎重工事	115	
19-2-238	賀茂4丁目469-2他	次郎丸高石遺跡	個人	共同住宅	H19.7.12	×	慎重工事	122	
19-2-279	東入部3丁目1800-2他	熊木遺跡	大企業	店舗	H19.7.24	×	慎重工事	132	
19-2-202	四箇4丁目59-5	四箇吉川遺跡	個人	個人住宅	H19.7.26	×	慎重工事	136	
19-2-299	小田部2丁目34、135-2	有田遺跡群	大企業	店舗	H19.7.31	×	慎重工事	137	
19-2-348	梅林7丁目137-27他	ｸｴﾌﾞﾉ遺跡	一般業者	分譲住宅	H19.8.8	×	慎重工事	148	
19-2-326	重留7丁目1071-1	四箇遺跡	個人	個人住宅	H19.8.21	×	慎重工事	154	
19-1-38	早良2～5丁目地内	松木田遺跡他	福岡市	農地整備	H19.8.28	○	発掘調査	164	
19-1-38	早良2～5丁目地内	松木田遺跡他	福岡市	農地整備	H19.8.29	○	発掘調査	167	
19-2-396	有田3丁目69-1	有田遺跡群	個人	個人住宅	H19.9.3	×	慎重工事	172	
19-2-372	田隈2丁目190-1他	田隈遺跡	一般業者	分譲住宅	H19.9.4	×	慎重工事	174	
19-2-271	有田1丁目8-6	有田遺跡群	個人	個人住宅	H19.9.4	○	慎重工事	173	
19-1-38	早良2～5丁目地内	松木田遺跡他	福岡市	農地整備	H19.9.5	○	発掘調査	177	
19-1-38	早良2～5丁目地内	松木田遺跡他	福岡市	農地整備	H19.9.6	○	発掘調査	182	
19-1-38	早良2～5丁目地内	松木田遺跡他	福岡市	農地整備	H19.9.7	○	発掘調査	187	
19-1-38	早良2～5丁目地内	松木田遺跡他	福岡市	農地整備	H19.9.11	○	発掘調査	195	
19-1-38	早良2～5丁目地内	松木田遺跡他	福岡市	農地整備	H19.9.12	○	発掘調査	196	
19-1-38	早良2～5丁目地内	松木田遺跡他	福岡市	農地整備	H19.9.18	○	発掘調査	207	
19-2-264	高取1丁目97、99	西新町遺跡	一般業者	倉庫・事務所	H19.9.18	×	慎重工事	206	
19-1-38	早良2～5丁目地内	松木田遺跡他	福岡市	農地整備	H19.9.19	×	慎重工事	208	
19-2-420	小田部1丁目177-3	有田遺跡群	個人	個人住宅	H19.9.20	○	工事立会	213	
19-1-38	早良2～5丁目地内	松木田遺跡他	福岡市	農地整備	H19.9.26	×	慎重工事	219	
19-2-359	有田2丁目19-21	有田遺跡群	個人	個人住宅	H19.9.27	×	慎重工事	221	
19-1-38	早良2～5丁目地内	松木田遺跡他	福岡市	農地整備	H19.9.28	×	慎重工事	222	
19-2-16	次郎丸6丁目11-46	次郎丸高石遺跡	大企業	事務所	H19.9.28	×	慎重工事	223	
19-2-359	有田2丁目19-21の一部	有田遺跡群	個人	個人住宅	H19.9.29	×	慎重工事	224	
19-2-427	有田7丁目387-8他	有田遺跡群	個人	店舗兼個人住宅	H19.10.1	×	慎重工事	225	
19-1-38	早良2～5丁目地内	松木田遺跡他	福岡市	農地整備	H19.10.2	○	発掘調査	226	
19-1-38	早良2～5丁目地内	松木田遺跡他	福岡市	農地整備	H19.10.3	○	発掘調査	230	
19-2-464	野芥1丁目294-5	ｸｴﾌﾞﾉ遺跡	個人	個人住宅	H19.10.4	×	慎重工事	233	
19-1-38	早良2～5丁目地内	松木田遺跡他	福岡市	農地整備	H19.10.10	○	発掘調査	239	
18-2-791	大字脇山字内山	弘蔵地外	大企業	鉄塔建設	H19.10.10	×	慎重工事	240	
19-1-38	早良2～5丁目地内	松木田遺跡他	福岡市	農地整備	H19.10.11	×	慎重工事	246	
18-2-791	大字脇山字内山	弘蔵地外	大企業	鉄塔建設	H19.10.11	×	慎重工事	241	
19-2-531	田村1丁目813-1	田村遺跡	個人	共同住宅	H19.10.12	×	慎重工事	249	
19-2-469	原3丁目17-36	原遺跡	個人	共同住宅	H19.10.12	×	慎重工事	247	
19-1-38	早良2～5丁目地内	松木田遺跡他	福岡市	農地整備	H19.10.16	○	発掘調査	251	
19-1-38	早良2～5丁目地内	松木田遺跡他	福岡市	農地整備	H19.10.17	×	慎重工事	256	
19-2-518	小田部1丁目387-1	有田遺跡群	個人	個人住宅	H19.10.18	○	発掘調査	259	
19-1-38	早良2～5丁目地内	松木田遺跡他	福岡市	農地整備	H19.10.23	○	発掘調査	263	
19-1-38	早良2～5丁目地内	松木田遺跡他	福岡市	農地整備	H19.10.24	×	慎重工事	264	
19-1-38	早良2～5丁目地内	松木田遺跡他	福岡市	農地整備	H19.10.26	×	慎重工事	265	
19-1-38	早良2～5丁目地内	松木田遺跡他	福岡市	農地整備	H19.10.29	○	発掘調査	270	
19-2-522	賀茂2丁目72-1	野芥大藪遺跡	個人	個人住宅	H19.10.30	×	慎重工事	271	
19-2-580	田村1丁目1063-12他	田村遺跡	一般業者	個人住宅	H19.11.6	×	慎重工事	279	
19-1-68	大字曲渕700-1	石原遺跡	福岡市	公民館他	H19.11.14	×	慎重工事	291	
17-1-40	大字椎原689-3～1108-2他	椎原A遺跡	福岡市	道路	H19.11.20	×	慎重工事	300	

審査番号	所在地	遺跡名	申請者	開発内容	試掘日	有無	指示	試掘番号	発掘調査
19-2-602	有田1丁目21-4	有田遺跡群	個人	分譲住宅	H19.11.20	○	工事立会	302	
19-2-599	小田部3丁目249、250	有田遺跡群	個人	個人住宅	H19.11.22	×	慎重工事	308	
19-2-652･653	有田1丁目2-8の一部	有田遺跡群	一般業者	分譲住宅	H19.12.7	○	工事立会	333	
19-2-560	高取1丁目100	西新町遺跡	一般業者	共同住宅	H19.12.11	×	慎重工事	339	
19-1-105	四箇4･5丁目地内	四箇古川遺跡	福岡市	道路	H19.12.12	○	発掘調査	340	0843
19-2-698	重留1丁目1219	重留村下遺跡	一般業者	共同住宅	H19.12.17	○	発掘調査	344	
19-2-716	四箇6丁目510-6	四箇遺跡	一般業者	個人住宅	H19.12.17	○	工事立会	345	
19-2-619	飯倉4-18-35	原東遺跡	個人	個人住宅	H19.12.25	×	慎重工事	352	
19-1-113	賀茂2丁目100-1外1筆	野芥大藪遺跡	福岡市	公営住宅	H20.1.16	○	発掘調査	366	0804
19-1-118	田隈2丁目197-7外3筆	次郎丸高石遺跡	福岡市	事務所	H20.1.16	×	慎重工事	367	
19-2-744	高取2丁目2	藤崎遺跡	一般業者	共同住宅	H20.1.17	×	慎重工事	369	
19-2-729	田村1丁目832-1	田村遺跡	個人	共同住宅	H20.1.17	×	慎重工事	368	
19-2-779	賀茂2丁目241-27	免遺跡	個人	個人住宅	H20.1.23	×	慎重工事	375	
19-2-764	飯倉2-455-62	飯倉A遺跡	一般業者	分譲住宅	H20.1.25	×	慎重工事	377	
19-2-772	田隈2丁目634-5他	田隈遺跡	個人	共同住宅	H20.2.7	×	慎重工事	389	
18-2-791	大字西字ゾヲザ2561-2	包蔵地外	大企業	鉄塔建設	H20.2.13	×	慎重工事	394	
19-2-858	次郎丸3丁目562-1外	次郎丸遺跡	個人	商業ﾋﾞﾙ	H20.2.13	×	慎重工事	395	
19-2-859	荒江2丁目109～111	飯倉B遺跡	個人	共同住宅	H20.2.19	×	慎重工事	403	
19-2-698	重留1丁目1219	重留村下遺跡	一般業者	共同住宅	H20.3.5	○	発掘調査	415	
19-2-894	飯倉6丁目116-7外	飯倉C遺跡	一般業者	分譲住宅	H20.3.6	×	慎重工事	417	
19-2-845	小田部3丁目405外	有田遺跡群	個人	共同住宅	H20.3.6	×	慎重工事	416	
19-2-882	次郎丸4丁目302-1	次郎丸遺跡	個人	共同住宅	H20.3.6	×	慎重工事	418	
19-2-883	西新2丁目8-19	元寇防塁	一般業者	分譲住宅	H20.3.13	×	慎重工事	426	
19-2-895	有田7丁目400-1外4筆	有田遺跡群	個人	個人住宅	H20.3.13	×	慎重工事	427	
19-2-877	賀茂2丁目94-4	野芥大藪遺跡	個人	個人住宅	H20.3.13	×	慎重工事	425	
19-2-944	飯倉5丁目162-2外	飯倉A遺跡	個人	個人住宅	H20.3.18	×	慎重工事	433	

西区

審査番号	所在地	遺跡名	申請者	開発内容	試掘日	有無	指示	試掘番号	発掘調査
18-2-1070	今宿3丁目800-1他	今宿遺跡	個人	個人住宅	H19.4.3	×	慎重工事	3	
19-2-4	姪浜2丁目3443-1	姪浜遺跡	一般業者	共同住宅	H19.4.5	○	発掘調査	6	
18-2-1076	戸切2丁目1329-1の一部	戸切遺跡	個人	個人住宅	H19.4.17	×	慎重工事	15	
18-1-123	吉武字七反田他	都地・吉武遺跡	福岡市	道路改良	H19.4.18	×	慎重工事	17	
13-1-233	今宿町	大塚遺跡	福岡市	区画整理	H19.4.23	○	発掘調査	24	0702
18-1-120	大字宮浦	宮ノ浦畑中遺跡隣接	福岡市	区画整理	H19.4.25	○	慎重工事	27	
18-1-120	大字宮浦	宮ノ浦畑中遺跡隣接	福岡市	区画整理	H19.4.26	○	慎重工事	28	
13-1-233	今宿町	大塚遺跡	福岡市	区画整理	H19.4.27	○	発掘調査	35	0715
19-2-49	大字飯氏982-1、985-12外	周船寺遺跡	個人	共同住宅	H19.4.27	×	慎重工事	32	
18-1-119	戸切地内	戸切遺跡	福岡市	道路建設	H19.5.9	○	発掘調査	40	0738･0739 0740･0847
18-2-915	泉2丁目1002-1、泉3丁目1003-1	周船寺遺跡	一般業者	分譲住宅	H19.5.28	×	慎重工事	67	
19-2-127	野方6丁目645-1	野方平原遺跡	個人	個人住宅	H19.5.29	×	慎重工事	70	
19-2-115	今宿駅前1丁目10-55	今宿遺跡	個人	共同住宅	H19.5.30	×	慎重工事	72	
18-2-499	野方6丁目601-1	野方平原遺跡	個人	個人住宅	H19.5.31	×	慎重工事	75	
19-2-190	下山門2丁目495-4	下山門乙女田遺跡	個人	個人住宅	H19.6.14	×	慎重工事	90	
18-1-119	戸切地内	戸切遺跡他	福岡市	道路建設	H19.6.28	○	発掘調査	101	0828･0829･0839
19-2-176	周船寺字ｳﾍﾉ264-2-1	蓮町遺跡	個人	個人住宅	H19.7.2	×	慎重工事	105	
19-2-237	福重4丁目287-2	福重稲木遺跡	個人	店舗	H19.7.5	×	慎重工事	114	
19-2-255	羽根戸815-5	羽根戸原遺跡	一般業者	携帯無線基地	H19.7.12	○	発掘調査	125	
19-2-280	上山門2丁目1046-4	宮の前遺跡	個人	共同住宅	H19.7.24	×	慎重工事	133	
19-2-258	泉3丁目1015-1他	周船寺遺跡	一般業者	分譲住宅	H19.8.2	×	慎重工事	143	
19-2-337	周船寺1丁目571-2、589	周船寺遺跡	一般業者	共同住宅	H19.8.9	×	慎重工事	149	
19-2-345	周船寺1丁目530-1他	周船寺遺跡	一般業者	看板設置	H19.8.9	×	慎重工事	150	
19-2-306	泉3丁目983-3	周船寺遺跡	個人	共同住宅	H19.8.9	×	慎重工事	151	
13-1-233	今宿町	大塚遺跡	福岡市	区画整理	H19.8.22	○	発掘調査	156	0726
19-2-205	姪浜2丁目11-53	姪浜遺跡	一般業者	寺院建設	H19.8.28	×	慎重工事	161	
19-2-292	上山門1丁目495-4	拾六町ﾂｲｼﾞ遺跡	個人	個人住宅	H19.8.28	×	慎重工事	162	
19-2-182	今宿2丁目1087-9	今宿遺跡	個人	個人住宅	H19.9.3	×	慎重工事	171	
13-1-233	今宿町	大塚遺跡	福岡市	土地区画整理	H19.9.4	○	発掘調査	176	0769
19-2-364	泉2丁目1051-12	周船寺遺跡	個人	分譲住宅	H19.9.4	×	慎重工事	175	

審査番号	所在地	遺跡名	申請者	開発内容	試掘日	有無	指示	試掘番号	発掘調査
13-1-233	大字徳永	徳永B遺跡	福岡市	土地区画整理	H19.9.5	○	発掘調査	178	0750
13-1-233	大字女原	女原遺跡	福岡市	土地区画整理	H19.9.7	×	慎重工事	184	
19-2-329	大字小田字小夜浦75-5	小田支石墓	個人	個人住宅	H19.9.11	×	慎重工事	194	
19-2-390	今宿上ノ原字堀ノ内25-1他	堀ノ内遺跡	法人組織	老人ホーム	H19.9.11	×	慎重工事	193	
19-2-409	上山門1481-1	城ノ原遺跡	個人	個人住宅	H19.9.20	×	慎重工事	212	
19-2-457	野方5丁目552-1他	野方久保遺跡	一般業者	分譲住宅	H19.10.4	×	慎重工事	232	
19-2-459	野方3丁目259-3他	羽根戸原A遺跡	一般業者	土地取引等	H19.10.4	×	慎重工事	234	
19-2-536	拾六町5-518-4、518-5	大林遺跡	一般業者	分譲住宅	H19.11.2	×	慎重工事	275	
19-2-542	大字女原320-14	女原古墳群A群	一般業者	老人ホーム	H19.11.14	×	慎重工事	292	
19-2-539	大字女原字笠影126-1、128-2	女原遺跡	個人	個人住宅	H19.11.14	×	慎重工事	293	
19-2-542	女原320-14	女原古墳群A群	個人	老人ホーム	H19.11.14	×	慎重工事	250	
18-2-929	大字羽根戸字地蔵尾875-1	羽根戸古墳群F群	個人	土砂採掘	H19.11.15	○	発掘調査	294	
19-2-441	戸切3丁目111-7	戸切遺跡	個人	個人住宅	H19.11.20	×	慎重工事	301	
19-2-594	石丸3丁目246-1他	下山門敷町遺跡	大企業	養護老人施設	H19.11.22	○	慎重工事	310	
19-2-615・616	今宿駅前1丁目1164-2	今宿遺跡・元寇防塁	一般業者	個人住宅	H19.11.22	×	慎重工事	309	
18-1-120	大字宮浦	宮ノ浦畑中遺跡隣接	福岡市	区画整理	H19.11.27	○	慎重工事	315	
19-2-591	周船寺3丁目357-10	飯氏遺跡	個人	土地取引等	H19.11.27	×	慎重工事	312	
19-2-623	周船寺1丁目501-1の一部	周船寺遺跡	個人	診療所	H19.12.4	×	慎重工事	325	
19-1-94	大字今津地内	今津古墳群Ｂ群	福岡市	道路	H19.12.5	×	慎重工事	327	
19-1-95	大字今宿字青木地内	鋤崎遺跡	福岡市	道路	H19.12.5	×	慎重工事	326	
19-2-645	次郎丸2丁目372-8	次郎丸遺跡	一般業者	分譲住宅	H19.12.7	×	慎重工事	331	
19-2-640	次郎丸2丁目561-1他	次郎丸遺跡	個人	美容院店舗	H19.12.7	×	慎重工事	332	
13-1-233	女原地内	女原遺跡	福岡市	土地区画整理	H19.12.10	×	慎重工事	336	
19-2-675	石丸3丁目224-51	下山門敷町遺跡	個人	個人住宅	H19.12.10	×	慎重工事	335	
19-2-654	大字飯氏字下州町981-1	周船寺遺跡	個人	共同住宅	H19.12.10	×	慎重工事	334	
19-2-670	大字千里字ミドリ431-1	周船寺遺跡	個人	共同住宅	H19.12.11	×	慎重工事	337	
19-1-20	石丸3丁目9-25	石丸B遺跡	福岡市	学校施設	H19.12.12	×	慎重工事	341	
19-2-695	福重4丁目286-1	福重稲木遺跡	個人	土地取引等	H19.12.13	×	慎重工事	342	
19-2-489	今宿1丁目1162-6	今宿遺跡	一般業者	個人住宅	H19.12.17	×	慎重工事	346	
19-1-112	戸切3丁目109-5外4筆	戸切遺跡	福岡市	公営住宅	H20.1.16	○	発掘調査	364	
19-1-84	戸切3丁目1311外5筆	戸切遺跡	福岡市	公営住宅	H20.1.16	×	慎重工事	365	
19-2-648	野方3丁目235-1、235-11	戸切遺跡	個人	個人住宅	H20.1.17	×	慎重工事	370	
19-2-730	周船寺1丁目20-23	周船寺遺跡	一般業者	共同住宅	H20.1.22	×	慎重工事	373	
19-2-763	野方6丁目748-2の一部	打ヶ浦遺跡	個人	個人住宅	H20.1.22	×	慎重工事	374	
19-1-143	金武2028-1	都地遺跡	福岡市	学校施設	H20.2.5	×	慎重工事	386	
19-1-142	拾六町3丁目21-1	コノリC遺跡	福岡市	学校施設	H20.3.5	×	慎重工事	412	
19-1-80	金武2028-1	都地遺跡	福岡市	学校施設	H20.3.5	×	慎重工事	414	
19-1-38	大字金武内	金武青木A・B遺跡	福岡市	農地整備	H20.3.10	×	慎重工事	420	
13-1-233	今宿町	女原遺跡	福岡市	土地区画整理	H20.3.10/11	×	慎重工事	423	
19-1-38	大字金武内	金武青木A・B遺跡	福岡市	農地整備	H20.3.11	○	発掘調査	421	
19-1-38	大字金武内	金武青木A・B遺跡	福岡市	農地整備	H20.3.12	○	発掘調査	424	
19-1-38	大字金武内	金武青木A・B遺跡	福岡市	農地整備	H20.3.14	○	発掘調査	428	
19-1-38	大字金武内	金武青木A・B遺跡	福岡市	農地整備	H20.3.17	×	慎重工事	429	
19-1-38	大字金武内	金武青木A・B遺跡	福岡市	農地整備	H20.3.18	×	慎重工事	430	
19-2-921	野方4丁目1056-9外	羽根戸原A遺跡	一般業者	土地取引等	H20.3.18	×	慎重工事	432	
19-1-148	大字内野	包蔵地外	福岡市	共同住宅	H20.3.21	×	開発同意	438	
19-1-38	大字金武内	金武青木A・B遺跡	福岡市	農地整備	H20.3.21	×	慎重工事	437	
19-1-38	大字金武内	金武青木A・B遺跡	福岡市	農地整備	H20.3.24	○	発掘調査	439	
19-1-38	大字金武内	金武青木A・B遺跡	福岡市	農地整備	H20.3.25	×	慎重工事	441	
19-1-38	大字金武内	金武青木A・B遺跡	福岡市	農地整備	H20.3.26	○	発掘調査	443	

Ⅲ　発掘調査

1．概　要

本市における埋蔵文化財の発掘調査は、東部地区（中央区、博多区、東区、南区）を埋蔵文化財第1課調査係が担当し、西部地域（早良区、城南区、西区）を埋蔵文化財第2課調査第1係、西区の九州大学移転用地及び周辺部については同課第2係が担当している。また史跡整備にともなう確認調査を文化財整備課整備第1係、特に福岡城、鴻臚館跡の調査については同課整備2係が実施している。

発掘調査にあたっては、本市の「埋蔵文化財資料の整理・収蔵要項」（昭和62年）に基づき、個々の遺跡に調査番号をつけ、遺構・遺物及び記録類の登録を行っている。調査番号は、西暦年度下2桁と年度中の番号を組み合わせた4桁で表している。1遺跡の調査が複数年にまたがる場合は、開始年度の登録番号のみとなる。なお、同一調査事業で複数の遺跡を調査する場合は、原則として遺跡ごと、場合によっては同一遺跡の地区によって調査番号を付し、それぞれを発掘調査件数として扱っている。

2．平成19年度の発掘調査

市域内で実施された本年度の発掘調査件数は、表6に示したように14～18年度からの継続事業が8件、19年度新規事業が69件の計77件である。このうち9件が平成20年度に継続した。この発掘件数には本発掘調査69件のほか、詳細分布調査1件（0759）、確認調査2件（0701・0732）、記録作製を行った試掘調査4件（0711・0716・0736・0760）、および史跡整備工事に伴う調査1件（0706）のあわせて8件も含んでいる。

公民別では公共事業に伴う調査が33件、民間事業に伴う調査が44件である。原因となった事業別では共同住宅15件（20%）、個人住宅13件（17%）、各種建物12件（16%）、道路12件（16%）、学校7件（9%）、区画整理7件（9%）、上下水道等3件、確認調査3件、店舗2件、史跡等整備1件、公園1件があり、その他は墓地改修1件である。このうち住宅建築は計37%あり、やや減少気味であるもののなお全体の三分の一強を占める（表8左）。

今宿地区古墳群詳細分布調査（調査番号0759）を除いた76件の発掘調査総面積は66,380㎡で、前年度に比べ約26,334㎡減少した（表5・表7）。公民別では公共事業が48,729㎡、民間事業が約17,651㎡であり、公共が73%を占める。総面積の減少は圃場整備が終了したためである。民間事業は件数の減少に対し総面積は16%増加し、公共事業は件数の増加に対し総面積は13%の減少となった。個々の発掘調査の面積は、100㎡以下が14件、101～300㎡が21件、301～500㎡が9件、501～1,000㎡が19件、1,001～5,000㎡が10件、5001㎡～10,000㎡が3件、10,001㎡以上は0件となり、1,000㎡以下の調査面積が主体となる。調査面積が最も狭いのは釜ヶ谷遺跡第1次（0716）で、林道開削による不時発見の炭窯の緊急調査で1㎡（本発掘調査では博多遺跡群第177次（0730）の6.5㎡）であった。最も広いのは九州大学移転地内の元岡・桑原遺跡群第42次（0451）の8,000㎡である。平均は862㎡（18年度1,212㎡）であるが、公民別では民間380㎡、公共1,505㎡であり差が大きい。なお博多遺跡群、箱崎遺跡などでは遺構面が複数あり、これを面ごとに調査しているため、実際の発掘面積はさらに増加する。

調査地点を区別に見ると（表8中）、博多区が最も多く31件（18年度28件）、西区17件（同15件）、東区11件（同10件）、早良区10件（同9件）、南区7件（同11件）、中央区1件（同3件）、城南区0件（同4件）と続く。昨年までと異なり博多区、西区、東区、早良区は増加し、南区、中央区が減少している。なお、城南区の調査はなかった。ただし博多区の件数が一番多く、西区がそれに次ぐ傾向は変わらない。博多区では博多遺跡群（12件）に集中するほか、那珂遺跡群（5件）、諸岡B遺跡（3件）、東区の箱崎遺跡（5件）が増加し、再び都市部での調査例が増えてきた。これまで調査例が多かった南区の井尻B遺跡（2件）や早良区の有田遺跡群（2件）、西新遺跡（1件）は減少傾向にある。西区では九州大学移転用地の調査が終盤となり、元岡・桑原遺跡群

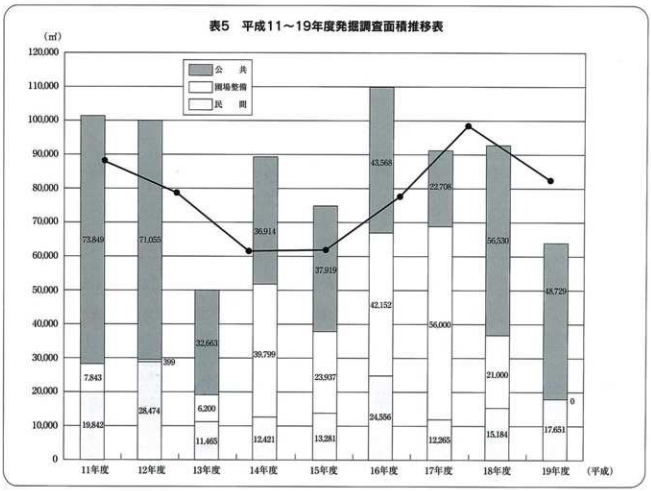


表6　発掘調査件数の推移　（　）は前年度からの継続件数

事　業	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
民　間	37(0)	43(0)	47(0)	67(0)	52(0)	52(0)	44(0)
圃場整備	2(0)	1(0)	2(0)	4(0)	4(0)	1(0)	0(0)
公　共	22(0)	18(0)	27(0)	28(0)	27(0)	27(0)	33(0)
合　計	61(0)	62(0)	76(0)	99(0)	83(0)	80(0)	77(0)

表7　発掘調査面積の推移（㎡）

事　業	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
民　間	11,465	12,421	13,281	24,556	12,265	15,184	17,651
圃場整備	6,200	39,799	23,937	42,152	56,000	21,000	0
公　共	32,663	36,914	37,919	43,568	22,708	56,530	48,729
合　計	50,328	89,134	75,137	110,276	90,973	92,714	66,380

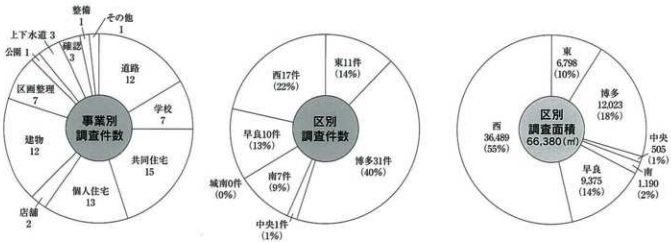


表8　発掘調査内訳

（5件）の発掘調査が再び増加し、また関連する交通路や周辺整備に関わる区画整理などで大塚遺跡（5件）、今宿五郎江遺跡（1件）、徳永B遺跡（1件）などの調査が行われた。このように大規模事業を抱える西区が全市の調査面積の過半数（55%）を占めている（表8左）。

予算別（表9）では、国庫補助を受けた事業が31件（国補23件〈試掘含む〉、国補＋民間受託8件、国庫＋令達0件）、公共受託事業が7件、民間受託事業が20件、令達事業が18件である。国庫補助事業は昨年とほぼ同数であるが、民間受託は三分の二に減少した。これは都市部での開発が小規模化し、内容も個人経営や個人住宅が増えたことによるところが大きい。

調査主体別（表9）では埋蔵文化財課第1課が50件、埋蔵文化財課第2課が23件、文化財整備課の確認調査等が1件である。

以上のように19年度は18年度より発掘調査件数や面積はやや減少している。19年度の調査一覧は前年度からの継続分も含め表10に示した。

なお、文化財保護法による第99条の書類提出は64件（17年度62件、18年度60件）であった。

表9　平成19年度発掘調査総括表

区名	事業別	調査費用							県教委	総計	調査主体別内訳				
		令達	受託	補助事業			市単費	小計	民間		埋蔵文化財第1課	埋蔵文化財第2課	文化財整備課	福岡教委	民間調査機関
				補助	補助+民受	補助+令達									
東	公共	2	2	1	0	0	0	5	0	11	5	0	0	0	0
	民間		2	3	1	0	0	6	0		6	0	0	0	0
博多	公共	1	0	2	0	0	0	3	0	31	3	0	0	0	0
	民間		14	7	7	0	0	28	0		28	0	0	0	0
中央	公共	0	0	1	0	0	0	1	0	1	0	0	1	0	0
	民間		0	0	0	0	0	0	0		0	0	0	0	0
南	公共	1	0	1	0	0	0	2	0	7	2	0	0	0	0
	民間		0	5	0	0	0	5	0		5	0	0	0	0
城南	公共	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	民間		0	0	0	0	0	0	0		0	0	0	0	0
早良	公共	4	0	1	0	0	0	5	1	10	1	4	0	10	0
	民間		3	1	0	0	0	4	0		0	4	0	0	0
西	公共	10	5	1	0	0	0	16	0	17	0	16	0	0	0
	民間		1	0	0	0	0	1	0		0	1	0	0	0
小計	公共	18	7	7	0	0	0	32	1	77	11	20	1	1	0
	民間		20	16	8	0	0	44	0		39	5	0	0	0
合計		18	27	23	8	0	0	76	1		50	25	1	1	0

※補助事業には試掘4件を含む（博多区2件、東区1件、早良区1件で民間3件、公共1件）

表10　平成19年度調査一覧（前年度からの継続含む）

調査番号	遺跡名	次数	地点	区	所在地	調査原因 事業者	予算種別	申請面積（㎡）	調査面積（㎡）	古墳	調査開始 調査終了	担当者	審査番号	遺跡略号
0651	元岡・桑原遺跡群	42		西	大字元岡	大学移転用地造成 国立大学法人	公受	2,750,000	8,000.00		2004/10/1 継続中	米倉	2014.1.18	MOT
0652	田村遺跡	21		早良	田村4丁目地内	道路建設 福岡市土木局	令達		3,977.00		2006/11/8 2007/4/27	加藤良彦	13-1-820	TMR
0662	大塚遺跡	11		西	今宿町字大塚	伊都区画整理 福岡市都市整備局	令達	4,018.0	4,018.00		2007/1/23 2007/9/10	宮井・ 木下	13-1-233	OTS
0664	箱崎遺跡	55		東	馬出５丁目地内	道路建設 福岡市土木局	令達	22,000	545		2007/2/1 2007/5/29	蔵富士・ 濱石	2010.1.20	HKZ
0665	箱崎遺跡	56		東	箱崎1丁目2505他	共同住宅 一般企業	民受	405.8	424		2007/2/1 2007/4/27	赤坂	18-2-692	HKZ
0669	博多遺跡群	170		博多	祇園町76-2	共同住宅 一般企業	民受	168.2	185		2007/2/13 2007/4/24	小林	17-2-1050	HKT
0670	博多遺跡群	171		博多	祇園町566、585-1	自走式駐車場 一般企業	民受	1,025.2	511		2007/2/19 2007/6/15	屋山	18-2-308	HKT
0671	箱崎遺跡	57		東	箱崎1丁目2493	共同住宅 一般企業	民受	242.2	245		2007/3/12 2007/4/27	荒牧・ 濱石	18-2-657	HKZ
0701	老司瓦窯跡	3		南	老司4丁目584-2、 594-2、589	確認調査 福岡市教育委員会	国補 （確認）	271.0	183		2007/4/1 2007/8/24	榎本	18-1-79	RJK
0702	大塚遺跡	12		西	今宿町342-1外	伊都区画整理 福岡市都市整備局	令達	800.0	800		2007/4/9 2007/5/7	今井	13-1-233	OTS
0703	井相田C遺跡	8		博多	井相田2丁目2-17	共同住宅 個人	民受・ 国補	214.2	213.2		2007/4/16 2007/5/29	久住	18-2-947	ISC
0704	麦野A遺跡	18		博多	麦野3丁目10-12	共同住宅 一般企業	民受	1,521.5	1,565.00		2007/4/23 2007/8/28	阿部	18-2-799	MGA
0705	博多遺跡群	172		博多	冷泉町63番	オフィスビル 一般企業	民受	2,515.0	2,539.00		2007/4/20 2008/6/10	池崎・ 本田	18-2-918	HKT
0706	福岡城跡	59	鴻雋館25次	中央	城内	史跡整備 福岡市教育委員会	国補 （史跡）		504.5		2007/4/1 2008/3/7	吉武		FUE
0707	板付遺跡	71		博多	板付5丁目7-5、6、 7-8、9、10、15、155	共同住宅 一般企業	民受	528.7	540		2007/4/26 2007/6/14	加藤隆	18-2-895	ITZ
0708	博多遺跡群	173		博多	祇園町2-21	ホテル建設 一般企業	民受	520.8	645		2007/5/1 2007/9/18	山崎	18-2-108	HKT
0709	元岡・桑原遺跡群	50		西	大字桑原字牛坂	学校建築 国立大学法人	公受	600.0	811		2007/4/1 2007/8/27	池田	16-1-109	MOT
0710	那珂遺跡群	116		博多	東光寺町2丁目88-1	テナントビル 個人	国補	55.9	55.3		2007/5/8 2007/5/21	田中	18-2-1039	NAK
0711	博多遺跡群	174		博多	店屋町194-1	店舗増築 一般企業	民受	200.0	8		2007/4/17 2007/5/7	本田	18-2-434	HKT
0712	免遺跡	3		早良	賀茂４丁目地内	河川改良 福岡市下水道局	令達	330.0	250		2007/5/14 2007/6/29	今井	17-1-60	MEN
0713	東比恵３丁目遺跡	2		博多	東比恵3丁目 1番地外	事務所ビル 一般企業	民受	1,014.3	910.8		2007/5/18 2007/7/28	加藤良彦	18-2-829	HGH
0714	博多遺跡群	175		博多	祇園町76番4	ビジネスホテル 一般企業	民受	1,010.8	985		2007/6/1 2008/4/18	田中	18-2-934	HKT
0715	大塚遺跡	13		西	今宿町地内	伊都区画整理 福岡市都市整備局	令達	1,276.0	1,276.00		2007/5/16 2007/7/6	森本	13-1-233	OTS
0716	釜ヶ谷遺跡	1	1号窯跡	早良	曲渕地内	林道工事 福岡県土木局	国補	1.0	1.0		2007/5/22 2007/5/22	星野・ 宮井	2019.1.7	KMD
0717	那珂遺跡群	117		博多	那珂６丁目地内	水道敷設 福岡市水道局	公受	651.0	304		2007/6/4 2007/9/28	久住	2019.1.14	NAK
0718	今宿五郎江遺跡	13		西	今宿町地内	伊都区画整理 福岡市都市整備局	令達	1,200.0	820		2007/6/1 2007/10/23	曽波	13-1-233	IZG
0719	那珂遺跡群	118		博多	那珂１丁目390-1	個人住宅 個人	国補	140.9	80		2007/6/11 2007/6/27	濱石	19-2-61	NAK
0720	諸岡B遺跡	21		博多	諸岡４丁目181番	個人住宅 個人	国補	42.5	38.1		2007/6/14 2007/6/25	榎本	19-2-130	MRB

調査番号	遺跡名	次数	地点	区	所在地	調査原因 事業者	予算種別	申請面積（㎡）	調査面積（㎡）	古墳	調査開始 調査終了	担当者	審査番号	遺跡略号
0721	那珂遺跡群	119		博多	大字那珂字堂ノ上1150-4,5	個人住宅 個人	民受-国補	162.0	156.9		2007/6/25 2007/7/6	屋山	19-2-128	NAK
0722	寛平古墳群E群	1	2号墳	早良	東入部2丁目16番17号	老人ホーム 社会福祉法人	民受	1,717.3	1,717.00	2	2007/7/2 2007/8/18	加藤隆	19-2-42	AHK-E
0723	飯氏遺跡	12		西	大字飯氏地内	下水	公受	51.0	60		2007/7/2 2007/7/11	今井	2019.1.8	IIJ
0724	麦野A遺跡	19		博多	麦野5丁目8-27、8-29、8-34	共同住宅 個人	民受-国補	506.0	374.8		2007/7/17 2007/8/9	小林	2019.2.23	MGA
0725	板屋遺跡	1		東	香椎駅東1丁目地内	道路建設 国土交通省	公受	660.0	480		2007/7/17 2007/9/30	濱石	2019.1.1	SKT
0726	大塚遺跡	14		西	今宿字大塚	伊都区画整理 福岡市都市整備局	令達	6,340.0	6,200.00		2007/7/12 2008/2/1	森本	13-1-233	OTS
0727	弥永原遺跡	10		南	日佐3丁目91-2	個人住宅 個人	国補	74.0	69.2		2007/8/1 2007/8/11	加藤良彦	19-2-273	YNB
0728	博多遺跡群	176		博多	店屋町135、136	事務所ビル 一般企業	民受	425.1	207.9		2007/8/20 2007/11/15	屋山	2019.2.8	HKT
0729	那珂遺跡群	120		博多	那珂2丁目18番1号	体育館改修 福岡市教育委員会	公受	88.0	128		2007/8/8 2007/8/28	小林	2019.1.21	NAK
0730	博多遺跡群	177		博多	御供所町173番、155番11	個人住宅 個人	国補	52.2	6.5		2007/8/20 2007/8/21	加藤	19-2-241	HKT
0731	麦野C遺跡	11		博多	竹丘町2丁目3-2、13	銀行支店建築 一般企業	民受	354.0	294		2007/8/23 2007/9/25	小林	19-2-104	MGC
0732	名島城跡	5		東	名島1丁目地内	確認調査 福岡市教育委員会	国補	600.0	338		2007/8/27 2007/11/22	榎本		NZE
0733	諸岡B遺跡	22		博多	諸岡2丁目7-5、7-6	個人住宅 個人	国補	216.0	118.5		2007/9/3 2007/9/21	加藤良彦	19-2-300	MRB
0734	井尻B遺跡	30		南	井尻5丁目143-17	倉庫兼店舗 個人	国補	126.7	129		2007/9/4 2007/9/28	加藤隆也	19-2-342	IGB
0735	有田遺跡群	226		早良	小田部2丁目139、140、141、141-1、142、144	スポーツクラブ 一般企業	民受	910.0	810		2007/9/19 2007/11/22	今井	19-2-216	ART
0736	箱崎遺跡	58		東	馬出5丁目504番1号の一部	個人住宅 個人	国補	20.0	13		2007/9/25 2007/9/25	本田	19-2-376	HKZ
0737	香椎A遺跡	4		東	香椎2丁目	道路建設 国土交通省	公受	10,000.0	3,200.00		2007/10/1 2008/3/31	濱石	2019.1.1	KSA
0738	上臈遺跡	1		西	戸切地内	道路建設 福岡県土木局	令達	340.0	203		2007/10/1 2007/11/7	加藤隆也	18-1-119	KAG
0739	戸切辺り町遺跡	1		西	戸切2丁目地内	道路建設 福岡県土木局	令達	940.0	403		2008/1/7 2008/3/18	加藤隆也	18-1-119	TRM
0740	兵塚遺跡	1		西	戸切2丁目地内	道路建設 福岡県土木局	令達	735.0	727		2007/11/1 2008/3/18	加藤隆也	18-1-119	HYG
0741	元岡・桑原遺跡群	51		西	大字桑原字金屋	学校建設 国立大学法人	公受	4,000.0	6,888.00		2007/8/29 2008/10/3	池田	16-1-109	MOT
0742	香椎A遺跡	5		東	香椎4丁目1147、1148-1、1148-2、1149-2、1151-1	共同住宅 個人	国補	42.0	36.7		2007/10/23 2007/10/24	禾倉、宮井、上角	19-2-248	KSA
0743	藤崎遺跡	36		早良	藤崎1丁目93-4、93-5	共同住宅 個人	民受	182.0	187		2007/10/1 2007/10/29	阿部	17-2-278	FUA
0744	諸岡B遺跡	23		博多	諸岡4丁目地内	公園建設 福岡市都市整備局	令達	25.0	145.4		2007/10/15 2007/10/22	小林	19-1-35	MRB
0745	比恵遺跡群	112		博多	博多駅南6丁目85-1、2	共同住宅 個人	民受-国補	420.0	352.3		2007/10/15 2007/11/30	加藤良彦	19-2-212	HIE
0746	麦野C遺跡	12		博多	麦野6丁目15-3	共同住宅 個人	民受-国補	304.0	203.8		2007/10/15 2007/11/20	小林	19-2-286	MGC
0747	田村遺跡	22		早良	田村4丁目地内	道路建設 福岡県土木局	令達	883.0	496		2007/11/1 2008/1/31	阿部	13-1-820 18-1-35	TMR
0748	博多遺跡群	178		博多	冷泉町46番地	ホテル建設 一般企業	民受	77.0	65		2007/10/15 2007/10/31	山崎	19-2-54	HKT

調査番号	遺跡名	次数	地点	区	所在地	調査原因 事業者	予算種別	申請面積（㎡）	調査面積（㎡）	古墳	調査開始 調査終了	担当者	審査番号	遺跡略号
0749	鶴崎遺跡	59		東	鶴崎３丁目2412-1	共同住宅 個人	民受、国補	252.8	156.4		2007/11/5 2007/12/15	山崎	19-2-361	HKZ
0750	徳永B遺跡	2		西	徳永地内	伊都区画整理 福岡市都市整備局	令違	943.0	682.6		2007/11/5 2008/1/25	木下	13-1-233	TOB
0751	博多遺跡群	179		博多	下川端町177、178-1、173、172	共同住宅 一般企業	民受	644.0	546		2007/11/15 2008/5/18	久住	18-2-490	HKT
0752	大橋E遺跡	11		南	大橋４丁目地内	道路建設 福岡市土木局	令違	1,000.0	380		2007/11/19 2008/1/21	小林	12-1-136	OOE
0753	有田遺跡群	227		早良	小田部1丁目387番1	個人住宅 個人	国補	82.8	81		2007/11/21 2007/12/15	今井	18-2-806	ART
0754	博多遺跡群	180		博多	祇園町343、346、348、349、350、351、354	事務所、店舗ビル 一般企業	民受	134.8	135		2007/12/10 2008/2/19	加藤良彦	19-2-422	HKT
0755	麦野A遺跡	20		博多	麦野３丁目10-11	共同住宅 個人	民受、国補	420.9	515.5		2007/12/3 2008/2/12	榎本	19-2-360	MGA
0756	中ノ原遺跡	2		博多	光丘町2丁目6番	個人住宅 個人	国補（試掘）	473.9	15.8		2007/11/27 2007/11/27	上角	19-2-612	NNH
0757	西新町遺跡	22		早良	西新町６丁目1-10	学校建設（体育館） 福岡県教育委員会	（県）	1,527.0	1,257.00		2007/11/28 2008/2/28	下原（県）		NSJ
0758	名子遺跡	3		東	名子	道路建設 福岡市環境局	令違	778.0	730		2007/12/6 2008/2/1	今井	19-1-47	NAO
0759	今宿地区古墳群	4	4回目	西	今宿地域	詳細分布調査 福岡市教育委員会	国補（確認）		0		2007/12/6 2008/3/31	曽波		
0760	博多遺跡群	181		博多	古門戸町3-6	個人住宅 一般企業	国補（試掘）	33.6	19.8		2007/12/20 2007/12/20	宮井、上角	19-2-638	HKT
0761	比恵遺跡群	113		博多	博多駅南４丁目122-1	共同住宅 個人	民受、国補	179.0	158.2		2008/1/10 2008/2/18	屋山	19-2-341	HIE
0762	鶴崎遺跡	60		東	馬出５丁目510番	墓地改葬 宗教法人	国補	904.5	630		2008/1/21 2008/3/27	小林	19-2-563	HKZ
0763	元岡・桑原遺跡群	52		西	大字元岡	学校建設 国立大学法人	民受	3,000.0	3,000.00		2008.1.21 継続中	常松		MOT
0764	四箇古川遺跡	3		早良	四箇4.5丁目	道路建設 福岡市土木局	令違	680.0	600		2008/2/1 2008/3/31	阿部		SHK
0765	井尻B遺跡	31		南	井尻5丁目160番6	個人住宅 個人	国補	143.0	103.5		2008/3/3 2008/3/21	屋山	19-2-741	IGB
0766	五十川遺跡	16		南	五十川2丁目590-4	個人住宅 個人	国補	150.3	115.2		2008/3/3 2008/3/21	榎本	19-2-721	GJK
0767	野間B遺跡	4		南	向野2丁目17-2	個人住宅兼共同住宅 個人	国補	314.5	210.4		2008/3/3 2008/3/27	加藤良彦	19-2-768	NOB
0768	元岡・桑原遺跡群	53		西	大字桑原	学校建設 国立大学法人	公受	675.0	770		2008/2/15 2008/4/9	池田		MOT
0769	大塚遺跡	15		西	今宿字大塚	伊都区画整理 福岡市都市整備局	令違	1,600.0	1,830.00		2008/2/28 2008/5/8	森本		OTS

Ⅳ 公開活動

1. 現地説明会

市域内の発掘調査のなかで特に注目される事例については、市民への公開を目的とした記者発表や現地説明会を開催している。平成19年度は6ヶ所の調査に対し計7回の記者発表と、3回の現地説明会を実施した。説明会は博多区、西区で開催し、延べ650名の見学者があった(表11)。

2. 体験学習

文化財部では市内小中学校の体験学習の一環として発掘調査への参加を受け入れている。平成19年度は博多区博多遺跡群175次調査に2校の生徒が参加したのを始め、市域内で9校の中学校参加を受け入れた。また西区元岡遺跡群42次では高校1校の参加を受け入れた。さらに板付遺跡など史跡内での活用事業も実施している。

表11　平成19年度福岡市現地説明会一覧

番号	調査番号	遺跡名	次数	所在地	調査開始 調査終了	現場担当者	記者発表 現地説明会	天候	見学者 (人)	備考
1	0707	板付遺跡	71	博多区板付5丁目	2007/4/26 2007/6/14	加藤隆也	2007/5/31 2007/6/2	曇り	150	弥生初期の水田関連遺構群発見
2	0662	大塚遺跡	11	西区今宿地内	2007/1/23 2007/9/10	菅波・木下	2007/7/11 2007/8/4	曇り	300	弥生時代の青銅器・木製品多数出土
3	0726	大塚遺跡	14	西区今宿地内	2007/1/12 2008/2/1	菅波・木下	2007/8/1 2007/8/4			弥生時代終末期の竈と鍛冶工房発見
4	0451	元岡桑原遺跡群	42	西区大字元岡	2004/10/1 継続	常松	2007/8/22			ひょうたん形土器(完形品)の発見
5	0706	福岡城跡(鴻臚館跡25次)	59	中央区城内	2007/4/1 2008/3/7	吉武	2007/10/18 2007/10/20	晴れ	200	海岸線にも鴻臚館関係の施設発見
6	0718	今宿五郎江遺跡	13	西区今宿地内	2007/6/1 2007/10/23	菅波・木下	2007/11/29			古代印章「寶」の発見
7	0451	元岡桑原遺跡群	42	西区大字元岡	2004/10/1 継続	常松	2008/3/3			獣骨類多数出土

1．現地説明会（大塚遺跡14次）

2．発掘体験学習（元岡・桑原遺跡群42次）

3．板付遺跡秋祭り

4．板付遺跡土器づくり体験

V　平成19年度発掘調査概要および報告

調査概要及び報告は前年度からの継続分を含め表10の調査番号順に掲載している。ただし調査番号0652、0664、0665、0669、0671の5調査は昨年度の年報に掲載済みなので割愛した。下に五十音順の索引をつけたが、このうち**太字**のものは報告である。各概要・報告中の図「1．調査地点の位置」の（　）内は、左から福岡市都市計画地図図副番号・図副名称・遺跡番号・地図の縮尺である。

発掘遺跡索引

	遺跡名	調査番号	位置番号	頁
あ	有田遺跡群226次	0735	1	67
	有田遺跡群227次	0753	1	86
	荒平古墳群E群1次	0722	2	49
い	板付遺跡71次	0707	3	31
	飯氏遺跡12次	0723	4	50
	井尻B遺跡30次	0734	5	66
	井尻B遺跡31次	0765	5	102
	井相田C遺跡8次	0703	6	27
	今宿五郎江遺跡13次	0718	7	43
	今宿地区古墳群4次	0759	8	95
お	大塚遺跡11次	0662	9	24
	大塚遺跡12次	0702	9	26
	大塚遺跡13次	0715	9	40
	大塚遺跡14次	0726	9	53
	大塚遺跡15次	0769	9	106
	大橋E遺跡11次	0752	10	85
か	香椎A遺跡4次	0737	11	70
	香椎A遺跡5次	0742	11	75
	釜ヶ谷遺跡1次	0716	12	41
	上能遺跡1次	0738	13	71
こ	五十川遺跡16次	0766	14	103
さ	坂堤遺跡1次	0725	15	52
し	四箇古川遺跡3次	0764	16	101
た	田村遺跡22次	0747	17	80
と	戸切迫り町遺跡1次	0739	18	72
	徳永B遺跡2次	0750	19	83
な	那珂遺跡群116次	0710	20	34
	那珂遺跡群117次	0717	20	42
	那珂遺跡群118次	0719	20	44
	那珂遺跡群119次	0712	20	48
	那珂遺跡群120次	0729	20	56
	中ノ原遺跡2次	0756	21	90
	名子遺跡3次	0758	22	94
	名島城跡5次	0732	23	62
に	西新町遺跡22次	0757	24	93
の	野間B遺跡4次	0767	25	104
は	博多遺跡群172次	0705	26	29
	博多遺跡群173次	0708	26	32
	博多遺跡群174次	0711	26	35
	博多遺跡群175次	0714	26	39
	博多遺跡群176次	0728	26	55
	博多遺跡群177次	0730	26	57
	博多遺跡群178次	0748	26	81
	博多遺跡群179次	0751	26	84
	博多遺跡群180次	0754	26	88
	博多遺跡群181次	0760	26	96
	箱崎遺跡58次	0736	27	68
	箱崎遺跡59次	0749	27	82
	箱崎遺跡60次	0762	27	99
ひ	比恵遺跡群112次	0745	28	78
	比恵遺跡群113次	0761	28	98
	東比恵３丁目遺跡2次	0713	29	38
	兵庫遺跡1次	0740	30	73
ふ	福岡城跡59次（鳴雷館跡）	0706	31	30
	藤崎遺跡36次	0743	32	76
む	麦野A遺跡18次	0704	33	28
	麦野A遺跡19次	0724	33	51
	麦野A遺跡20次	0755	33	89
	麦野C遺跡11次	0731	34	61
	麦野C遺跡12次	0746	34	79
め	免遺跡3次	0712	35	37
も	元岡・桑原遺跡群42次	0451	36	23
	元岡・桑原遺跡群50次	0709	36	33
	元岡・桑原遺跡群51次	0741	36	74
	元岡・桑原遺跡群52次	0763	36	100
	元岡・桑原遺跡群53次	0768	36	105
	諸岡B遺跡21次	0720	37	45
	諸岡B遺跡22次	0733	37	63
	諸岡B遺跡23次	0744	37	77
や	弥永原遺跡10次	0727	38	54
ろ	老司瓦窯跡3次	0701	39	25

平成19年度発掘調査地点位置図

（●番号は21頁の発掘調査遺跡索引の位置番号と一致する）

0451 元岡・桑原遺跡群第42次調査（MOT-42）

所在地	福岡市西区元岡字二又	調査面積	8,000㎡
調査原因	大学移転用地造成	担当者	常松幹雄
調査期間	2004.10.1～継続中	処置	記録保存

位置と環境　42次調査区は、糸島半島の東に位置する今津湾の最奥部に面した丘陵の南斜面に立地する。北側は52次調査区で、南側は前原市と接する。

検出遺構　検出遺構は調査区の東西にはしる旧河川と両者にはさまれた中州上の建物群である。

地区内道路に沿って貫流する東側河川は、調査区南東隅で西に大きく湾曲し、西側河川と合流する。今年度は東側河川湾曲部東側の落ち際を確認した。またこの付近の土層ベルトでヒョウタン形土器が出土した。この種の土器はこれまで壱岐と那珂・比恵遺跡群で破片が出土していたが、今回はじめて全形復元に成功した。

西側河川の両岸には土器の集積が複数確認された。土器の集積は弥生時代中期後半から古墳時代前期までの多量の土器がほぼ時系列にそって堆積したものである。

南東隅の土器群103では弥生中期と後期中頃の小児甕棺各1基が検出され、後期の棺内から管玉が出土した。対岸の土器群106で出土した中国地方の塩町式土器は、凹線文土器と北部九州の中期後半の併行関係をしめす資料として重要である。

土器の集積では動物遺体が良好な状態で検出された。主なものにイノシシの下顎骨、シカの角、鯨骨製円盤などがある。

西側の台地部から流れ込んだ土器群の中には原三国時代の扁球の壺を模した在来の土器が検出された。このほか河川で勒島タイプの朝鮮系無文土器が出土した。

出土遺物は土器のほか石錘や石包丁、砥石、擦石などの石器類がある。その量はコンテナケース約7,000箱にのぼる膨大な数量である。

まとめ　弥生時代を通じて両河川の周辺で長期間にわたって執り行われた祭祀をうかがわせる。

1. 調査区西側全景（東から）

2. ヒョウタン形土器

3. イノシシ下顎骨出土状況

0662 大塚遺跡第11次調査（OTS-11）

所 在 地　福岡市西区今宿町字大塚　　調査面積　4018㎡
調査原因　伊都土地区画整理　　担 当 者　宮井善朗・木下博文
調査期間　2007.2.1～9.10　　処　　置　記録保存

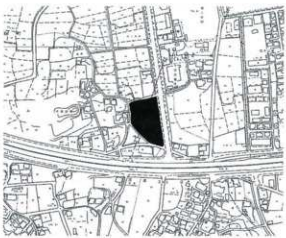
位置と環境　大塚遺跡は高祖山から伸びる南北の丘陵上に位置する。今回の調査地点の西側には古墳後期の今宿大塚古墳がある。また弥生後期の大溝が検出された今宿五郎江遺跡11次・12次調査地点の南、同9次調査地点の西に道路を挟んで隣接し、大塚遺跡と今宿五郎江遺跡の境界付近に当たる。

検出遺構　弥生時代後期の環濠、掘立柱建物、溝、同終末の竪穴住居とそれに伴う区画溝、土器棺墓を検出した。

出土遺物　弥生時代後期～終末期の土器、外来系土器（楽浪系）、石器(石斧・石錘・石包丁・砥石)、木器(鋤・鍬刃)、ガラス製品(小玉・勾玉など)、玉類(碧玉管玉・水晶切子玉未成品)、金属器（鉄斧・青銅製鍬先・中国製内行花文鏡片・銅鈴・銅鏃）が出土した。コンテナケース624箱分にのぼる。

ま と め　今回検出した弥生時代後期の大溝は今宿五郎江遺跡第9・12次調査の大溝とつながることが判明し、今宿五郎江遺跡は東西200m、南北推定270mの長楕円形を呈する環濠集落であることが確定した。環濠内から大量の土器とともに、中国製銅鏡片やガラス製玉類、輝緑凝灰岩製石包丁の未成品などが出土しており、今宿五郎江集落の対外的性格や生産面で一考を要する成果が挙げられた。環濠外でも区画溝を伴う掘立柱建物、土器棺墓などが検出され、弥生後期～終末期の集中的土地利用がうかがわれる。

調査報告書は2010年度に刊行予定である。



1.調査地点の位置（120　今宿　0625 1:8000）

2．環濠内全景（南西から）

3．環濠ＳＤ65（北西から）

0701 老司瓦窯跡第3次調査（RJK-3）

所在地	南区老司4丁目584-2	調査面積	183㎡
調査原因	重要遺跡確認調査	担当者	榎本 義嗣
調査期間	2007.4.9～8.31	処置	埋め戻し保存

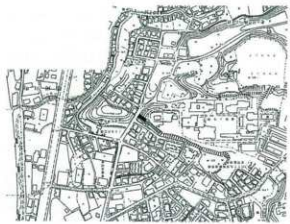
位置と環境　老司瓦窯跡は、福岡平野を北流する那珂川の西岸に位置し、片縄山から派生する花崗岩基盤の丘陵上に占地している。調査地点は東側に派生する支丘の東側斜面上に立地し、現況の標高は、東側（谷側）で約22m、西側（尾根側）で約31mを測る。なお、同瓦窯跡は、1936年の道路開削工事中に発見され、その後、出土瓦が大宰府観世音寺の創建瓦であることが判明しているものの、窯の規模や構造、範囲等は不明確なまま現在に至っていたが、昨年度の第1次調査（0654）によって8世紀前半に位置付けられる1号瓦窯跡を確認した。ただし、防災工事上の理由から、一旦調査を中断していたものを、今回、第3次調査として、あらためて発掘調査を再開したものである。

検出遺構　確認した主な遺構は、丘陵東側斜面に構築された全長約11mの瓦窯跡1基（1号瓦窯跡）、付随する灰原および1号瓦窯跡の窯尻部を切る排水溝1条である。窯は天井およびその上部が落盤し、上層に大規模な撹乱も認められたが、焚口から煙道までが良好に遺存する。築造当初の窯体構造は地下式有階無段登窯であるが、最終床面の段階では、階部が埋められ、無階となっている。焼成部床面の傾斜角度は約22～25°を測る。また、焚口下方に確認できた灰原は、斜面を盛土造成した上に形成されている。

出土遺物　老司Ⅰ式の軒瓦をはじめ、平瓦、丸瓦、熨斗瓦、瓦塼、円筒土管、須恵器、壁体等がコンテナケースにして32箱出土し、第1次調査と併せると71箱となる。

ま と め　窯や灰原等の土層堆積から複数回の操業がなされている。また、重複する排水溝の存在等から1号瓦窯跡以外に数基の瓦窯跡が存在したことが推測される。

調査報告書は2008年度に刊行予定である。



1. 調査地点の位置（40　老司　2408 1:8000）

2. 調査区全景（南東から）

3. 灰原遺物出土状況（南から）

0702　大塚遺跡第12次調査（OTS-12）

所 在 地　西区今宿町342-1外　　調査面積　800㎡
調査原因　区画整理事業　　担 当 者　今井隆博
調査期間　2007.4.9～5.7　　処　　置　記録保存

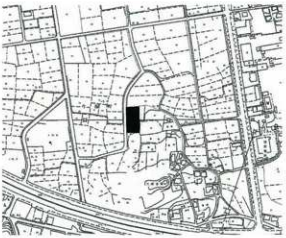
位置と環境　大塚遺跡は糸島平野の東端部に位置する。高祖山麓東北部、北へ長く伸びる低丘陵の先端近くに立地し、本調査地点は遺跡の北端付近に位置する。周辺には石斧製作で有名な今山遺跡や環濠集落である今宿五郎江遺跡がある。また、周囲には前方後円墳が多数あり、今宿古墳群として史跡指定されている。

検出遺構　現地表より－30～90cm程で黄褐色・赤褐色粘質土となり、この面を遺構面とした。検出した遺構は土坑4基と掘立柱建物、ピットである。ピットは径20cm前後のものが大半で、覆土は黒褐色土と灰色土である。北壁付近のピットは掘立柱建物としてまとまる。2×1間の庇をもつ建物2軒か、あるいは2×3間で4面に庇をもつ1軒の建物である。土坑は焼土坑、土壙墓と思われるものがある。

出土遺物　出土遺物は少なく、土師器小片を中心にコンテナケース1箱分である。土坑墓（SK04）からは9世紀頃の土師器杯が出土している。SK03からは刀子が1点出土した。時期を判断できるものは他になく、掘立柱建物の時期は不明である。

ま と め　対象地中央部以東は削平によりほとんど遺構は見られず、大半は北西の緩斜面上で検出された。掘立柱建物2軒あるいは1軒と土坑が検出され、当時の集落の様相を知る一資料を得ることができた。今回の調査は出土遺物が少ないため時期決定の決め手に欠ける。建物の主軸方向が第10次地点のものとほぼ共通することから、本調査区の遺構も第10次地点と同じく9世紀前後であろうか。大塚遺跡では近年継続して調査が行われており、これらの成果を総合して大塚地区の歴史を復元することが今後の課題であろう。

調査報告書は2008年度に刊行予定である。



1. 調査地点の位置（112 今宿 0625　1:8000）

2. 調査区全景（北から）

3. SK03（東から）

0703 井相田C遺跡第8次調査（ISC-8）

所在地	博多区井相田2丁目2－17	調査面積	213.2㎡
調査原因	共同住宅建設	担当者	久住 猛雄
調査期間	2007.4.16～5.29	処置	記録保存

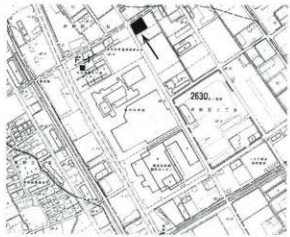
位置と環境　井相田C遺跡は博多区の南東端に位置し、東に接する大野城市側の仲島遺跡とは一連の遺跡群である。遺跡は御笠川中流左岸に形成された沖積平野の低位段丘面に立地する。調査地は遺跡の北縁中央に位置する。周囲の現況は水田を埋め立てた平坦地形であり、その標高は12.0m前後、水田面の標高は11.0～11.5mである。

検出遺構　地表下－100cm前後で旧水田層となり、その下部の－130cm前後で遺物包含層となり、さらに－140cm前後で粗砂まじりシルトないし砂層の地山上面となり遺構を検出した。調査は廃土処理の都合上2区に分けている。南側のⅠ区は遺構密度が薄く、また包含層も薄く遺物が少ない。Ⅰ区北縁から北側のⅡ区にかけて遺構が密となり、包含層遺物も多くなる。遺物包含層は、下部の遺構の遺存が悪いことから、遺構面削平後の二次的形成であろう。主な遺構には、溝状遺構4条、大型土坑2基がある。他に中小の柱穴がある。溝はおおむね同じ方向（略東西）に走行する。いずれの溝も底面の凹凸が激しく、小穴が多くある。溝もいずれもほぼ同じ時期（6世紀中頃～末前後）である。土坑SK005は3.1×2.0mの不整楕円形、深さ1.1mの断面鉢状。6世紀後半の遺物が一括出土した。

出土遺物　総量はコンテナケース25箱である。包含層や遺構から、古墳時代後期～飛鳥時代の須恵器・土師器が最も多く出土し、また弥生時代前・中期の土器、古墳時代前・中期、奈良時代の土師器・須恵器、石器が出土した。古墳時代後期の土坑からは木製品などの有機質遺物も出土した。

まとめ　遺構検出面は北側がやや低く、南側が集落の主体であり（6次など）、集落縁辺に掘削された溝状遺構群は灌漑水路であろう。6世紀代の有力な集落と周囲の水田の存在が推定される。

調査報告書は2008年度に刊行予定である。



1. 調査地点の位置（12　麦野　2630　1:8000）

2. Ⅰ区全景（南西から）

3. Ⅱ区全景（南西から）

0704 麦野A遺跡第18次調査（MGA-18）

所在地	博多区麦野3丁目10-12	調査面積	1,565.0㎡
調査原因	宅地造成	担当者	阿部泰之
調査期間	2007.4.23～8.28	処置	記録保存

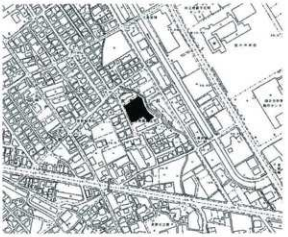
位置と環境　麦野A遺跡は、御笠川と那珂川に挟まれ、概ね南北にに延びる低丘陵上に立地する。第18次調査区は、丘陵の東の落ち際に位置する。

検出遺構　今回の調査で検出された遺構は、竪穴住居5軒・大溝（堀）1条・土壙6基・貯蔵穴23基・ピット多数である。

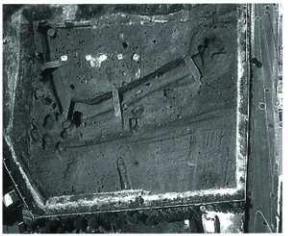
出土遺物　今回の調査で出土した遺物は、戦国期の大溝から土師器・瓦質土器・輸入陶磁器が、貯蔵穴から廃絶に際して投げ込まれたと推測される弥生土器（小壺・鉢・蓋）が出土したほか、扶入柱状磨製石斧が1点出土した。また、遺構の埋土に含まれる形で旧石器時代の遺物（ナイフ形石器・チップなど）が少数出土している。

ま と め　今回の調査では、竪穴住居・大溝・貯蔵穴・土壙等を検出した。古代の竪穴住居は床面まで削平され遺存状況は悪いが、遺物・形態から8世紀後半頃の住居址と推測される。大溝は出土遺物から16世紀前半頃には埋没し始めたと思われる。深く一部クランク状に屈曲する部分がみられ、堀としての機能が推測される。貯蔵穴は台地の落ち際に集中して検出された。出土遺物から弥生時代前期後半から末頃の所産とみられる。深さ2mを測るものがあるなど遺存状況は良好であった。当該期の集落の居住域が台地の西に存在したと推測されるが、遺構面の削平が大きく弥生前期の住居址は1軒のみであった。

調査報告書は2008年度に刊行予定である。



1. 調査地点の位置（12 麦野　0048　1:8000）



2. 調査区全景（南から）

3. 拡張区全景（南から）

0705 博多遺跡群第172次調査（HKT-172）

所在地	博多区冷泉町2-2	調査面積	2,539㎡
調査原因	オフィスビル建設	担当者	池崎譲二・本田浩二郎
調査期間	2007.5.28～2008.5.16	処置	記録保存

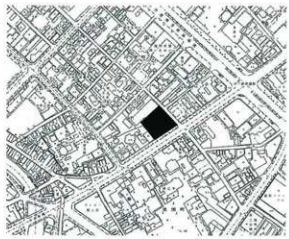
位置と環境　博多遺跡群第172次調査地点は、遺跡範囲内南側砂丘の北側斜面上に位置する。

検出遺構　調査はA～E区の5区に分けて行った。調査区北側となるA・B区では主に10世紀以降の土坑・井戸等や14世紀代の区画溝、15世紀代の土壙墓群等の遺構群が検出された。溝遺構は区画溝と考えられ大量の土師皿が廃棄されていた。砂丘上には弥生時代から古代までの遺物を含む包含層が形成されていた。15世紀以降には長方形区画を短冊形に分割した町屋が形成されており、この街並みは現代まで存続することが確認できた。B区北側には調査区全体を東西方向に横断する溝遺構があり、この溝は中世前半期から近現代まで存続しており周囲の景観を復元するにあたり重要な知見を得ることができた。C～E区では弥生時代の土坑を初現として古代の集落や中世前半期の廃棄土坑・井戸・溝等が多数検出され、遺構が連綿として存続している状況が確認された。特に弥生時代前期後半期の磨製石剣未製品が出土した土坑は博多遺跡群内でも特に早い段階での遺構であり注目される。

出土遺物　遺物は、弥生土器・古式土師器・貿易陶磁器・石器・金属器・人骨・獣骨等がコンテナケースで1750箱分出土した。特にガラス製作に関わる坩堝や未製品などが多く出土しており、調査区付近に製作工房があったことが想定される。

まとめ　B区北側で検出された溝遺構は砂丘の傾斜変換点を利用して掘削されており、溝の南北で遺構の分布や堆積状況が大きく異なり、砂丘地形を大きく改変させながら集落・都市が展開していく状況が確認された。

報告書は2009年度刊行予定である。



1. 調査地点の位置（49　天神　0121　1:8000）

2. 調査区全景（西から）

3. B区検出区画溝（東から）

0706 福岡城跡第59次（FUE-59）・鴻臚館跡第25次調査（KRE-25）

所 在 地　中央区城内１地内　　調査面積　504.5㎡
調査原因　範囲確認　　担 当 者　吉武　学
調査期間　2007.4.1～2008.3.7（実働3ヶ月）　処　　置　埋め戻し保存

位置と環境　博多湾のほぼ中央部に北へ突き出した福崎丘陵の先端部に立地する。7世紀後半～11世紀半ば頃に機能した我が国の外交施設で、福岡城との二重史跡に指定されている。

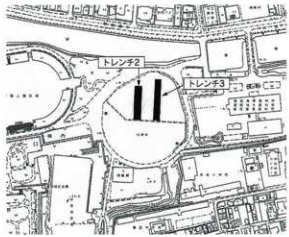
検出遺構　平成18年度から平和台球場跡地北半分を対象とした第Ⅴ期調査を行っており、本年度は二ヶ所のトレンチで調査を実施した。

トレンチ2では、昨年度検出した福岡城三の丸武家屋敷建物跡を破壊しないよう掘り下げて下層の鴻臚館関係遺構の調査を行った。トレンチ中央部では海側に向って落ちる高さ3.5m以上の斜面を確認し、鴻臚館時代には海側が急傾斜の崖面であったことが判った。さらにトレンチ北端部では地表下5mに砂丘を確認し、多量の瓦が面的に広がって出土した。海岸線そのものは更に200～300mほど北に存在すると推定される。崖面と砂丘との間は福岡城遺構の保存のため掘り下げることができないが、約20m離れており、この間にも何らかの鴻臚館の施設が存在する可能性がある。

トレンチ3では近世武家屋敷の区画溝等を確認したが、諸般の都合により調査を中断している。

出土遺物　瓦・陶磁器・須恵器・土師器などがコンテナケース230箱出土した。大半は古代と近世の瓦である。

ま と め　20年に及ぶ発掘調査により、鴻臚館が南北二つの館から成っていたことなど、次第にその姿が明らかになりつつある。第Ⅴ期調査は鴻臚北館の北辺・外郭施設・斜面の造作等について確認調査を行い、海上から見た鴻臚館の景観復元を目的としている。今回の調査成果により、鴻臚館の全容解明に向けてまた一歩前進したと言えよう。



1. 調査地点の位置（60　舞鶴　0191　1:8000）

2. トレンチ2中央部の斜面（北から）

3. トレンチ2北端部の砂丘（南東から）

0707 板付遺跡第71次調査（ITZ-71）

所在地	博多区板付5丁目7-5他	調査面積	540㎡
調査原因	共同住宅建築	担当者	加藤 隆也
調査期間	2007.4.26～2007.6.14	処置	記録保存

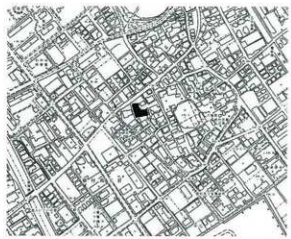
位置と環境　板付遺跡内には、三つの小高い台地（北、中央、南）があり、この台地を中心として周辺には生産域が広がっている。今回の調査地は南台地の北西側裾部にあたる。

検出遺構　調査により、弥生時代の溝、中世後半期以降の建物跡、近世の堀と建物跡などを発見した。弥生時代の溝は南台地の裾を巡るように延びており、今回確認された長さは約20mである。その幅は約1.5m、深さ80cmで、断面形はV字形を呈している。埋土の下層には粗砂が堆積していることから、中央台地を画する外環濠と呼称される輪部から水を引き込むための水路として機能していたと考えられる。この水路には、南台地上の集落内排水溝も連結され、また水田への取・排水溝も敷設されていた。水路内出土遺物は多くないが、弥生時代中期の土器を下限に前期後半頃の遺物がまとまっており、水路の掘削時期がこの時代にまで遡る可能性が考えられる。

出土遺物　主な遺物は、弥生時代土器、中世陶器、近世染付などが出土した。また、旧石器時代遺物にはサヌカイト製の国府型ナイフ形石器が1点出土している。

ま と め　今回の調査では、南台地の西側裾部際まで水田化を進めるにあたり、導水施設を計画的に掘削していたことが明らかとなった。また、調査地を含め南台地全体は本来現在よりも更に小高い地勢であり、中世後半期には地形が大きく改変されており、近世には堀を有する屋敷の存在が明らかとなった。これらの成果は、弥生時代前期における板付南台地周辺の様相を明らかにするとともに、福岡平野中心部の歴史的景観を復原する上でも、貴重な資料となるものである。

報告書は平成20年度に刊行予定である。



1．調査地点の位置（24　板付　0094　1:8000）

2．調査区南側全景（北から）

3．溝検出状況（南東から）

0708 博多遺跡群第173次調査（HKT-173）

所在地	福岡市博多区祇園町2－21	調査面積	645㎡
調査原因	ホテル・事務所ビル建設	担当者	山崎龍雄
調査期間	2007.4.26～9.18	処置	記録保存

位置と環境　調査地は博多遺跡群の南部に位置し、博多浜砂丘上に立地する。現地の標高は約5～6mである。調査地周辺は開発工事に伴って比較的調査が行われている地域で、それらの調査成果から、一帯が弥生時代～近現代に至るまで、遺跡が連続して存在したことが確認されている。

検出遺構　調査地は建設工事に合わせて三区に分けて調査を実施した。遺構面の時期は第1面(一部第2面)は中世前期～近世、第2面(一部第3面)は砂丘面で、弥生時代～古代である。各区の検出遺構を記す。

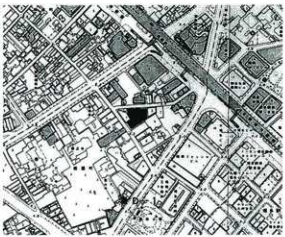
Ⅰ区：第1面は井戸10基(中世6、近世4)、土坑22基、方形竪穴1基、ピット群。第2面は竪穴住居跡3棟、土坑1基、平安時代前期の木棺墓1基、ピット群。

Ⅱ区：第1･2面は井戸4基、土坑10基、ピット群。第3面は砂丘面で、古墳時代から古代の遺構を検出した。検出遺構は古墳時代後期竪穴住居跡1～2棟、土坑3基、ピット群。

Ⅲ区：第1面は井戸（中世前期8・近世4）、土坑6基、ピット群など。第2面は弥生時代甕棺墓5基、土坑1基、古墳時代竪穴住居跡2棟、溝1条、古代溝1条、ピット群など。

出土遺物　弥生土器･甕棺、古墳時代から古代土師器･須恵器、中世から近世の中国産陶磁器･国産陶磁器、土師器などの日常雑器、瓦類、中国銭、貝殻などの自然遺物がコンテナケース177箱出土した。

ま と め　弥生時代中期～近世の遺構を確認した。弥生時代の甕棺墓の検出によって、甕棺墓域が北側の第32次地点から当調査区北側まで続くことを確認した。平安時代前期の墓は木棺墓で、豊富な副葬品を持ち、女性と思われる人骨が残っていた。2008年度報告予定である。



1. 調査地点の位置（36　博多駅・49　天神　0121 1:8000）

2. Ⅱ区で検出した甕棺墓・竪穴住居跡(西から)

3. Ⅰ区で検出の平安時代木棺墓（西から）

0709 元岡・桑原遺跡群第50次調査（MOT-50）

所 在 地　福岡市西区大字桑原字牛坂　　調査面積　811㎡
調査原因　大学造成　　担 当 者　池田祐司
調査期間　2007.4.1～8.27　　処　　置　記録保存

位置と環境　36次調査では経塚古墳に近接する尾根の末端で中近世墓を確認し、原状保存が決定している。この尾根は道路で切断されているが、墓域は切断された対面に広がる。50次調査は残された墓域部分で行った。尾根は幅約60mで、標高は約14mである。現況は竹藪で、墓石は撤去され、一部基礎が残された状態であった。

検出遺構　埋葬施設を45基を確認した。そのうち甕棺18基(内4基は小型)、木棺墓1基、土坑墓26基（多くは火葬墓か）、　胞衣容器（鉄製瓶6基　土瓶2基　壺2基）等がある。

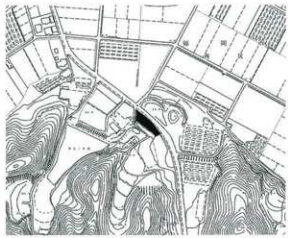
溝SD119は丘陵を横断し、急な弧を描いて曲がる。幅1から2m、深さ1m強を測る。肩が崩れていない部分の壁は急である。SD111は北西側斜面に向かう。尾根へあがる登り口と考える。

出土遺物　甕棺のうち9基、土坑墓2基からは銅銭(ほとんどが寛永通宝)が出土した。甕棺からは銅銭の他に、鉄器、ガラス瓶等が出土している。

溝SD119からは近世陶器が若干、SD111からは白磁片が出土した。

黄褐色粘質土の包含層からは黒曜石片200点強が出土した石鏃が1点あり縄文土器は確認していない。その他、溝、表土から古墳時代の須恵器が出土している。

ま と め　丘陵末端から広がる墓域の縁辺部にあたる。検出した埋葬施設は近世末から近代のものと考えられる。36次調査では墓抗が幾重にも重なった状態で確認されて、中世末からの造営が想定されている。本調査地点は、時期が下るにつれて墓域の拡大にともない造営されたと考えられる。墓域の一部の調査であるため断片的ではあるが、甕棺墓から火葬へと変遷する当地近代における埋葬形態と副葬品を知ることができた。



1. 調査地点の位置（140　元岡　2782　1:8000）

2. 調査区南側（西から）

3. 甕棺126（北東から）

0710 那珂遺跡第116次調査（NAK-116）

所在地	博多区東光寺2丁目88－1番地内	調査面積	55.3㎡
調査原因	小規模店舗	担当者	田中壽夫
調査期間	2007.5.8～5.21	処置	記録保存

位置と環境　那珂遺跡群は、福岡平野の中央部を貫流する那珂川と御笠川・諸岡川に挟まれた台地上に立地する。調査地点は同遺跡群の中央部東縁辺にあたり、この一帯には弥生～古墳時代に関連する各種遺構が高い密度で分布している。なお、那珂川流域で最古期とされる那珂八幡古墳は、本地点から南西へ約300m離れている。

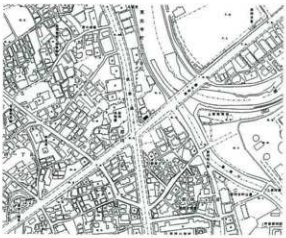
検出遺構　遺構検出面は地表下50～70cm前後の鳥栖ローム層上面（標高7.2～7.4m）である。

遺構は、弥生時代後期後半期の井戸1、終末期の竪穴住居跡1、古代末から中世の井戸1、柱穴49である。いずれも削平を受けており遺存状況はあまり良くない。遺物は各遺構からコンテナケースで7箱分が出土している。

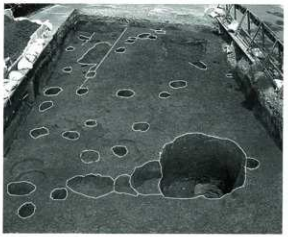
竪穴住居跡は、南東部コーナーを一部確認した。ベッド状遺構を付設している。規模は一辺約5mほどと推定。弥生後期の井戸は直径1.3mで、ほぼ垂直に掘削した深さ3.2m以上の素掘りの井戸である。後期の土器片や木器（鍬、砧等）が埋土下部で出土した。なお、現在の湧水面は標高4.2～4.5mの面である。中世の井戸は、掘方上面は楕円形で、長軸1.8m、短軸1.4m、深さは3.5m以上を測る。土師器坏、皿、瓦質土器（碗）、滑石製石鍋などの破片が出土した。柱穴は、直径20～35cmのものが多く、埋土の違いから大きく三期に分けられ、弥生時代から中世のものと考えられる。

まとめ　当該地は、北東部に隣接する第112次調査地点（平成18年度実施）で確認した弥生時代終末期の竪穴住居群で構成された集落跡の一角にあたる。調査面積は狭小であるが、当該地周辺の集落の構成と規模及び範囲を推定する上で貴重な成果が得られた。

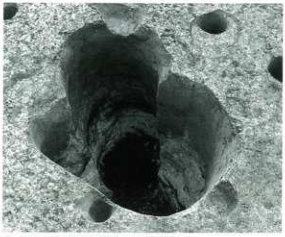
報告書は平成20年度以降に刊行予定である。



1. 調査地点の位置（23　雀居　0085　1:8000）



2. 調査区内遺構検出状況全景（南西から）



3. 弥生および中世の井戸（南東から）

0711 博多遺跡群第174次調査（HKT-174）

所 在 地　博多区店屋町194-1
調査原因　店舗建設
調査期間　2007.4.17
調査面積　8㎡
担 当 者　本田浩二郎
処　　置　記録保存

1．位置と環境

博多遺跡群第174次調査地点は、遺跡範囲北側の博多浜と息浜に挟まれた谷地形内に位置する。周囲で行われた試掘調査・発掘調査では中世末～近世以降の埋立に伴う杭列等が確認されており、比較的新しい段階まで低湿地等の帯水環境であったことがわかる。調査に先立って実施した試掘調査により時期不明な杭列が確認されたことを受け、建物建設予定範囲を対象とした発掘調査を実施した。

2．検出遺構

調査対象範囲内には既存建物地下室および高圧配線が埋設されており、調査区全域の掘り下げが不可能であったため、トレンチ状の調査区を二カ所設定し掘り下げ・遺構検出を行った。

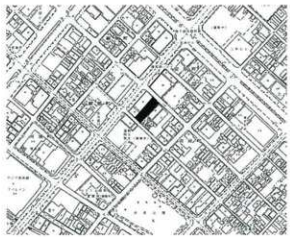
調査の結果、申請地全体が近世以降の埋立範囲内に含まれており、下層にも帯水環境であったことを示す粘質土の堆積が確認された。粘質土層以下の砂層面は北東側に傾斜しており、砂層面上では埋立以前の遺構は確認されなかった。検出した杭列は現在の町割り方向とほぼ同方向を採るものであり、周辺調査と同様に17世紀代以降のものであろう。

3．出土遺物

埋立に使用された造成土内より須恵器坏片が1点出土した。これらの埋立土は博多遺跡群内で調達されたものと考えられ、他の地点からの流入品である。

4．まとめ

調査区付近は「蓮池」と呼称されており、近世段階で埋め立てが行われたことが文献資料から知られている箇所である。土層断面の観察からは、北東側に落ち込む堆積状況が確認されており、調査地点東側に池状の低湿地が存在していたことが伺える。

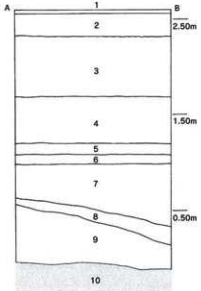


1．調査地点の位置（49　天神　0121 1:8000）

2．調査区掘削状況（南から）

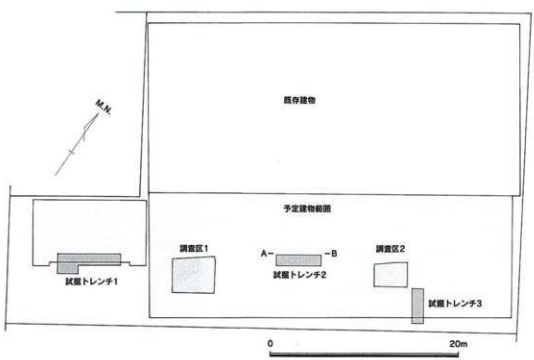
3．土層堆積状況（西から）

4．調査区位置図　S=1/2000



5．調査区土層断面　S=1/40

1．アスファルト　2．バラス
3．現代の整地層（廃材等を多く含む）
4．暗褐色砂質土層（近世の整地層）
5．黄褐色粘質土層（近世の整地層）
6．黒褐色粘質土層　7．褐色粗砂層
8．黒褐色粘質土層（水性堆積層）
9．黒褐色粘質土＋砂質土層
10．暗青灰色粘質土＋砂質土層



6．調査区配置図　S=1/400

0712 免遺跡第3次調査（MEN-3）

所在地	早良区賀茂4丁目地内	調査面積	250㎡
調査原因	河川改修工事	担当者	今井隆博
調査期間	2007.5.14～6.29	処置	記録保存

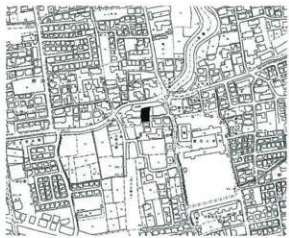
位置と環境　免遺跡は早良平野のほぼ中央部に位置し、金屑川の右岸にある。本調査地点は免、次郎丸高石両遺跡の隣接地にあたる。周辺では低湿地の調査が行われており、弥生時代～古墳時代の堰や柵といった水利施設が確認されている。

検出遺構　本調査区は微高地の端と谷の部分にあたり、包含層の堆積が主で明確な遺構はみられなかった。地表面からの基本層序は、盛土、灰色土、オリーブ黄色土、黄褐色土、黒褐色粘質土、黒褐色砂、砂礫となる。遺物は黒褐色粘質土に多く含まれ、砂層にも少量含まれる。調査区内では自然流路を3条検出した。流路の覆土下部は砂と粘土の互層で、その上に黒褐色粘質土が堆積している。黒褐色粘質土は調査区ほぼ全面を覆っていた。

出土遺物　調査区全面に広がる包含層から土器・石器が出土している。夜臼式土器が中心で、板付式土器が少量共伴する。コンテナケースで約30箱出土した。その他に土製紡錘車3点、石斧、磨製石剣の切先などが出土している。黒曜石片は約500点出土し、石鏃・石錐・掻器・使用痕剥片・残核などがある。

ま と め　周辺の調査と同じく沖積地の調査となったが、杭列や堰といった構築物は確認されなかった。本調査地点は、自然流路の窪みと谷部が徐々に埋没していったものと思われる。土器の大半は小片であるが、投棄されたものやある程度器形を復原できるものも若干みられる。包含層の下層と上層では時期差が見られ、下層は突帯文土器単純期、上層は突帯文土器・板付式土器共伴期に区別できそうである。

調査報告書は2008年度に刊行予定である。



1. 調査地点の位置（83 野芥 0318　1:8000）

2. 1区掘削状況（北から）

3. 遺物出土状況（北から）

0713 東比恵3丁目遺跡第2次調査（HGH-2）

所在地	博多区東比恵3丁目1番地他	調査面積	910.8㎡
調査原因	事務所ビル建設	担当者	加藤良彦
調査期間	2007.5.18～2007.7.28	処置	記録保存

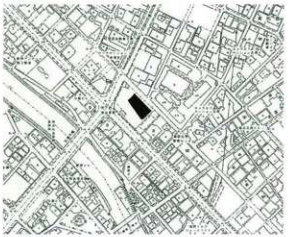
位置と環境　遺跡は福岡平野の中央部、御笠川下流右岸の自然堤防背面の低湿地上に立地し、調査区は、弥生時代中期中頃から後期前半にかけて4面以上の水田面を検出した第1次調査区の西に隣接する。上面遺構の検出面は現地表高4.4mから1.2m下の粗砂層下である。

検出遺構　今検出した遺構は、粗砂層下標高3.2mの灰褐色土上面で幅30cm・高さ5cm程の水田畦畔と水田面が、調査区の北東側に沿って幅2～3m程残存し、以南は12世紀後半代の洪水で流路と化し流失している。この水田面下約60cmの青みを帯びた暗褐色粘質土上面で、11世紀後半～12世紀前半の洪水砂に覆われた水田面と幅1m弱で両側に横木と杭で土留めを行った大畦畔のコーナー部分、幅1m長さ7m、高さ30～40cm程残存した井堰を検出した。検出面の標高は約2.5mである。面の遺存は上面より5m程河川寄りに広がる。この20cm程下面に弥生時代後期前半までの土器片を若干包含する腐植土層の暗褐色粘質土が広がるが畦・足跡は検出されない。

出土遺物　遺物は、洪水砂層を中心に弥生土器・古墳時代須恵器・土師器・中世貿易陶磁器・土師器・瓦器をコンテナケース2箱分、他に杭・板材を検出している。

まとめ　調査区南東側に中世初めの2面の水田の遺存が確認された。東の1次調査区を遺跡の最高所として、当該区は遺跡の西端域であり、洪水の直撃を受ける川辺に近接した地域であること、また、1次調査区の弥生時代水田面は当該区まで広がらない事が判明した。

報告書は2008年刊行予定である。



1. 調査地点の位置（36　博多駅　2776　1:8000）

2. 調査区上面東半部全景（南西から）

3. 下面水田大畦畔土留め（南から）

0714 博多遺跡群第175次調査（HKT-175）

所在地	博多区祇園76－4	調査面積	985㎡
調査原因	ホテル新築工事	担当者	田中壽夫
調査期間	2007.6.1～2008.4.18	処置	記録保存

位置と環境　博多遺跡群は、博多湾に沿って形成された古砂丘上に立地し、東西を御笠川と那珂川に挟まれている。第175次調査地点は、博多遺跡群の東南部に位置しており、最も早く形成された古砂丘頂部から南緩斜面上（標高4.0～5.5m）に立地している。周辺の調査では、弥生時代の甕棺墓や博多1号墳（前方後円墳）を確認しているほか、中世都市博多を物語る多様な遺構や貿易陶磁器等の遺物が多量に出土している。

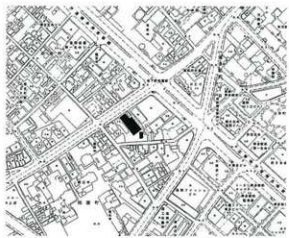
遺構と遺物　発掘調査は便宜上4区に分け、さらに遺構検出面を人為的に3～4面に分けて掘り下げた。第Ⅰ区では江戸時代末から近代にかかる井戸や廃棄土壙による攪乱が顕著であったが、他の区では遺構の遺存状況は比較的良好である。

検出遺構は、古墳時代前期の竪穴住居跡15、奈良時代の土坑8、平安時代後期から鎌倉～室町、戦国期～江戸時代の井戸67以上や各期の土坑80以上、掘立柱建物（推定復元7棟）、建物地行跡1、溝3、排水用溜桝4の他、多数の柱穴等の遺構を確認した。

出土遺物は、古墳時代から戦国期、江戸時代各期の遺構や包含層から土師器、須恵器などの土器、国産陶磁器、宋代を中心とした中国、高麗・朝鮮王朝期の陶磁器の他、銅銭、石鍋、硯などの石製品、獣骨などが出土した。特に奈良時代の唐三彩の緑釉陶器(陶枕、盤、皿等）の出土は注目される。なお、これらの遺物の出土量はコンテナケースに約840箱分である。

まとめ　今回の調査では、復元建物および溝の主軸方位から推定して、当該地区の地割りにあたって異なる三方位の基軸線があったことが想定でき、博多遺跡群南域の古代から近世にいたる町割りの基軸方向の変遷を知る手掛かりを得ることができた。

報告書は平成20年度以降に刊行予定である。



1. 調査地点の位置（49　天神　0121　1:8000）

2. 第Ⅰ区第3面全景（北東から）

3. 第Ⅱ区古墳時代竪穴住居跡SC1400（東から）

0715 大塚遺跡第13次調査（OTS-13）

所 在 地　西区今宿町地内
調査原因　区画整理
調査期間　2007.5.16～2007.7.6
調査面積　1,276㎡
担 当 者　森本幹彦
処　　置　記録保存

位置と環境　調査対象地は、今宿平野の中央南側、標高6.5m前後の低段丘上にあり、国史跡の今宿大塚古墳の約80m北に位置する。高祖山より北に派生する丘陵の北端付近であり、大塚遺跡の北部に当たる。

検出遺構　遺構は調査区東部と西部に集中する傾向にあるが、全体的に密度はそれほど高くない。調査区東部では中世後半と考えられる土坑6基（竪穴状遺構1基含む）、柱穴多数(掘立柱建物3軒、欄列1列以上)を検出した。調査区中央部は西に向けて低くなる緩斜面で、周囲に比べて遺構密度はさらに薄い。時期不明(中世～近世?)の土坑3基、中世後半の大溝4条、古代～中世の柱穴(建物1軒以上)を検出した。中世の大溝群は本来の谷地形を利用して開削された用水路であろう。調査区西部では、平安時代から中世の土坑13基(内7基は墓の可能性がある)、柱穴多数(建物5軒以上)を検出した。建物や土坑は主軸が磁北と合うものが多く、2×5間の総柱建物もみられる含む。

出土遺物　調査区全体でコンテナケース2箱の出土である。明青花、青磁、白磁、李朝青磁、土師皿、瓦質足鍋、耳掻状青銅製品、平安時代の須恵器、内黒土器、平瓦などが遺構に伴う遺物である。この他混入遺物として弥生土器や古墳後期の須恵器が出土している。

ま と め　調査区西部を中心に平安時代末の掘立柱建物群と土坑群があり、周辺の調査地点と一連の分布をなす。建物主軸の統一性や大型建物の存在に注意したい。台地上高所の調査区東部では16世紀前後の掘立柱建物群と土坑群が集中している。弥生～古墳時代については、遺物が少量あるが混入品であり、当該期の集落域からは外れると考えられる。

報告書は2008年度刊行予定である。

1. 調査地点の位置（112　今宿　0625　1:8000）

2. 調査区全景（南から）

3. 大型建物SB7周辺（南から）

0716 釜ヶ谷遺跡第1次調査（KMD-1）

所在地	福岡市早良区曲渕	**調査面積**	1㎡
調査原因	防災緊急対応	**担当者**	宮井善朗・星野恵美
調査期間	2007.5.22	**処置**	記録保存

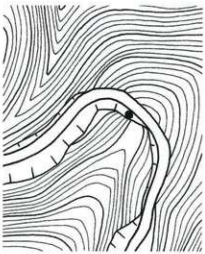
1．位置と環境

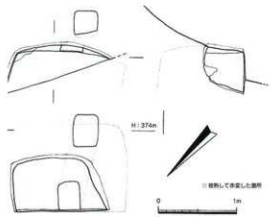
背振山頂から北側に延びる尾根上に位置し、標高373mを測る。釜ヶ谷遺跡は曲渕（国道263号線）と椎原（一般県道136号線）を結ぶ森林基幹道早良線開設工事に伴う踏査で発見した。大雨により道路の法面が崩壊し、道路面から約6m上で焼土と炭化物が露出した状況であった。崩落部分は壁面を削る補修工事を行うため、緊急に発掘調査を行った。調査は高所作業車を用いた。

2．検出遺構

炭窯1基を検出した。大部分は削平を受け、天井部は崩壊する。西側に向かって開口しており、奥壁に煙道が附設する。煙道が中央部に接続すると、窯の幅は約1.4mと復元できる。現状で長さ0.4m、高さ0.6mを測る。炭窯の床面は焼成を受け赤変し、硬化する。隅に稜線をもつことから、方形に近い平面プランであったと思われる。煙道も一辺が40cmを測る方形である。窯本体に接続する煙道部には内部から石を詰めた状況であった。 炭窯はドーム状の天井をもつ、方形プランの地下式であったと推定される。遺物は出土しないため、時期については不明であるが、中世末から近世にかけてのものと思われる。窯の形態から白炭を製造していたものであろう。

1．調査地点の位置（1：25,000・1：2,000）





2．炭窯実測図（1：50）

3．（釜ヶ谷遺跡遠景　西から）

4．（炭窯検出状況　北から）

0717 那珂遺跡群第117次調査（NAK-117）

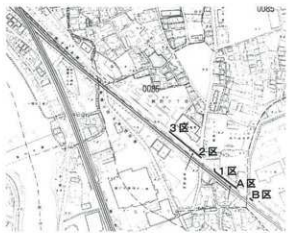
所 在 地	博多区那珂6丁目地内	調査面積	304.85㎡
調査原因	水道管埋設（新設）工事	担 当 者	久住 猛雄
調査期間	2007.6.4～9.28	処　　置	記録保存

位置と環境　那珂遺跡群は、那珂川と御笠川に挟まれた段丘上に立地する。調査地点は遺跡南端部に位置し、南側の段丘は狭くなり五十川遺跡に続く。調査区は那珂の段丘西南縁を幅2mで約240mほど縦断する（南側A・B区のみ幅3.4m）。周辺の標高は8.9～9.2mである。

検出遺構　調査地点は現在道路内であり、地表下－60～90cm前後は近年の盛土であり、旧耕作土などの下部の－80～140cm前後で鳥栖ローム（一部は八女粘土）地山上面となり遺構を検出した。水田開発や近現代の整地工事や多くの撹乱などにより、遺構の遺存度は良好ではない。調査区南半（1区、A区）では、主に7世紀（飛鳥時代）の溝状遺構3、柱穴を検出した。大型柱穴もあり東西に軸を取る。溝は南北正方位の1条と、非正方位の東西溝2条がある。調査区北半（2・3区）も7世紀の遺構が多く、溝状遺構2、土坑（一部は竪穴住居の残欠か）、柱穴を検出した。東西正方位の大型柱穴列があり、隣接する37・51次調査SA09の続きである。また7世紀（前半～中頃）の階段状掘方をもつ土坑（井戸ないし大柱遺構か）がある。7世紀の溝は南北正方位であり、隣接調査区から続く。他に平安時代以降の中世大溝および水路状遺構を検出した。調査区北端では隣接する37・51次地点から続く弥生時代初頭の環濠を検出したが、外側環濠のみを検出し内側環濠は無かった。

出土遺物　飛鳥時代の土師器、須恵器が多い。他に奈良時代～中世の土師器、須恵器、瓦器、輸入陶磁器がある。環濠からは弥生時代早～前期の土器が僅かに出土した。また、炭化柱材1点が柱穴から出土した。コンテナケース6箱である。

ま と め　狭長な調査区であったが、多くの遺構を検出した。7世紀の遺構の多くは正方位を指向し、初期官衙の一部であろう。周囲の調査は要注意である。2008年度に報告書刊行予定である。



1. 調査地点の位置（38・24 塩原・板付　0085　1:8000）

2. 2C区調査状況（南東から；南北溝と大型柱穴）

3. 3B区弥生時代早～前期環濠土層断面（南から）

0718 今宿五郎江遺跡第13次調査（IZG-13）

所 在 地　西区今宿172－4　　調査面積　820㎡
調査原因　土地区画整理　　担 当 者　菅波正人
調査期間　2007.6.1～10.23　　処　置　記録保存

位置と環境　本遺跡は福岡市西部の今宿平野にあり、標高約5mの微高地縁辺部に立地する。現況は水田を造成した宅地である。調査地点の南側隣接地は第10次調査にあたる。遺構は現況の宅地から1.5m下の淡橙色粘質土で検出した。

検出遺構　遺構面の上面には古代の包含層を検出したが、当該期の遺構は検出できなかった。遺構は弥生時代中期末～後期初頭に掘削された溝1条を検出した。この溝はこれまでの調査で確認されている本遺跡を巡る環濠の一部である。本調査地点は環濠の東側部分にあたり、幅約3m、深さ約1～1.2mを測る。また、本調査地点では環濠の陸橋を検出した。陸橋は地山を掘り残したもので、幅約2mを測る。

出土遺物　遺物は環濠の中から弥生土器、木製品、金属製品が出土した（コンテナケース551箱）。木製品には農具、工具、容器類が、金属製品には銅鏃、青銅製鋤先、鋳造鉄斧等がある。この他、古代の包含層から瓦類、越州窯系青磁、緑釉陶器、青銅製印章等が出土した。青銅製印章は平安時代のものと考えられ、「寶」と記している。

ま と め　今回の調査では本遺跡を巡る環濠の一部を検出し、陸橋を確認できたことは集落の構造を考える上で重要な成果と考えられる。環濠以外の遺構は検出できなかったが、古代の包含層が上面を覆っている状況から、後世の攪乱による削平が及んだと考えられる。古代の遺物には瓦や輸入陶磁器類、印章等があり、一般集落とは考えにくいもので、古代の時期の遺跡についても注目される

調査報告書は22年度に刊行予定である。

1.調査地点の位置(112　今宿　0626　1:8000)

2．環濠遺物出土状況（南から）

3．「寶」銘青銅製印章

0719 那珂遺跡第118次調査（NAK-118）

所 在 地　博多区那珂1丁目390-1
調査原因　個人住宅建築
調査期間　2007.6.11～6.27
調査面積　80㎡
担 当 者　濱石 哲也
処　　置　記録保存

位置と環境　那珂遺跡は福岡平野の中央部、御笠川と那珂川に挟まれた洪積丘陵上に立地する。北側の比恵遺跡群と相連なり、主に弥生時代から古代にかけての一大遺跡として知られている。第118次調査地点は遺跡群の中央東側、那珂八幡古墳の東約150mの所に位置する。道路を挟み北側は平成11年度に本発掘を行った第74次調査地点である。

検出遺構　調査地点は南側奥で北側の道路から約1.3m高く、道路に接する部分は削平され北側に傾斜する。10～20㎝の表土を剥いだ直下、標高8.5m前後のローム地山面が遺構検出面となる。しかし防空壕、隣地の塀の構築に伴う切り土などで、遺構が残っていたのは対象地の中央部分に限られ、それも以前建っていた住宅による攪乱が著しかった。調査は東西に反転して行った。検出した遺構は古墳時代後期の竪穴住居跡1基、建物としてはまとめきれない弥生時代および古墳時代後期の柱穴群である。竪穴住居は北東隅部分を検出したのみで、平面は方形状を呈し、貼床を施していた。

出土遺物　弥生土器、土師器、須恵器の破片が、コンテナケース1箱分出土した。

ま と め　今次の調査では古墳時代後期の集落の一角を確認したにとどまる。北側の第74次調査地点は八女粘土まで削平されていたが、残された井戸には今次の竪穴住居とほぼ同時期のものがある。またこれまでの調査などからみて、第118次調査地点は遺跡群における古墳時代後期集落の東縁部分をなすものとみられる。

調査報告書は平成20年度に刊行予定である。

1. 調査地点の位置（38　塩原　0085　1:8000）

2. 西側調査区全景（南東から）

3. 竪穴住居跡（北から）

0720 諸岡B遺跡第21次調査（MRB-21）

所在地	博多区諸岡４丁目181番	調査面積	38.1㎡
調査原因	個人住宅建設	担当者	榎本 義嗣
調査期間	2007.６.14～６.25	処置	記録保存

１．調査に至る経緯

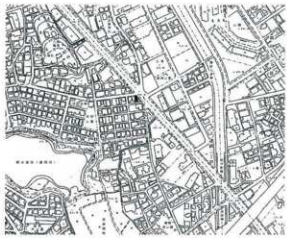
平成19(2007)年５月16日付けで、宮本効彰氏より福岡市教育委員会宛に、博多区諸岡４丁目181番（面積：78.15㎡）における個人専用住宅建設に伴う埋蔵文化財の有無についての照会がなされた。これを受けて、教育委員会埋蔵文化財第１課では、申請地が周知の埋蔵文化財包蔵地である諸岡Ｂ遺跡に隣接することから、同月23日に試掘調査を実施し、全面でピットを確認した。その後、この試掘成果をもとに両者で協議を行った結果、建築工事にあたって鋼管杭を打設する必要があり、地下遺構の破壊が回避できないことから、申請地のうち建物施工部分42.46㎡を対象とした記録保存のための本調査を6月14日より国庫補助事業として実施することになった。なお、実際の調査面積は、周囲の安全対策等により38.1㎡であった。

２．位置と環境

諸岡Ｂ遺跡は、福岡平野を北流する御笠川と那珂川に挟まれた南北方向に長い洪積段丘上に展開する遺跡の一つで、東側に独立した台地上の中位段丘面に位置している。なお、本遺跡は、朝鮮無文土器や南海産貝製腕輪が出土したことで著名である。今回の調査地点は、本遺跡の南東端部に位置する。筑紫通りが、諸岡神社東側から南側の諸岡川に向かって傾斜する箇所に隣接し、沖積地に近い台地縁辺部に占地している。調査前の状況は、家屋解体後の標高約10.5ｍを測る平地であった。

３．層序

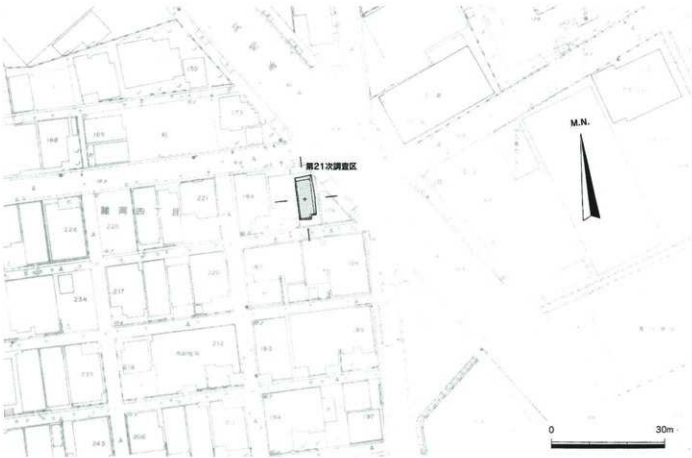
調査区の層序は(７.調査区東壁面土層図)、上層から客土(1･2層)、一部に黒灰褐色土(3層)を挟み、5･6層(土器片を含む暗～黒褐色土層で、層界不明瞭)となるが、南側では、両層より掘り込まれる暗褐色土(4層)が認められ、ピット状を呈するものがある。また、これらの層群の下層には、鳥栖ロームブロック混じりの黒褐色土層(7層)が薄く堆積し、更に地山の淡黄褐色を呈する鳥栖ローム層に至る。土層観察の結果、遺構の大半は7層より掘り込まれることが判明したが、遺構検出は鳥栖ローム層上面で行った。その標高は、北側で9.8m、南側で10.0ｍを測り、緩く北側に傾斜している。



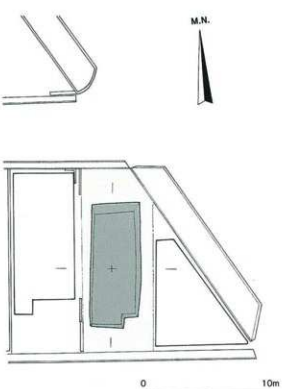
１．調査地点の位置（24　板付　0093　1:8000）

２．調査区全景写真（南から）

３．調査区東壁土層写真（南西から）



4．調査区位置図(1)(1：1,000)



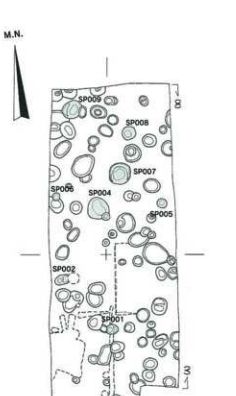
5．調査区位置図(2)(1：300)

4．検出遺構

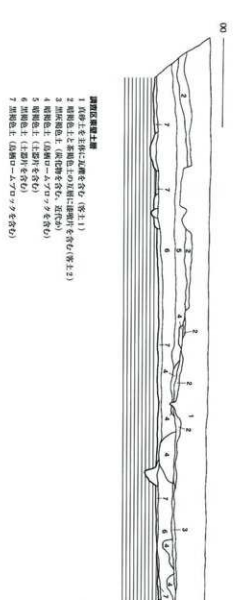
今回の調査で検出した遺構は、全てピット状遺構で、土坑や溝はない。円形もしくは楕円形の平面プランを呈し、総数は80数基を数える。径は約20～70cm、深さは5～30cmを測り、径40cm、深さ10cm前後が主体をなす。覆土の色調は暗褐色土と暗茶褐色土に大別でき、重複遺構では、後者が先行する。これらのピット群は、竪穴住居や掘立柱建物を構成する柱穴の一部と考えられるが、そのまとまりを認識するには至らなかった。

5．出土遺物

弥生土器と考えられる細片や黒曜石剥片等が出土したが、コンテナケース1箱未満と極少量である。遺物が出土した遺構は、SP001～009の9基で、図化し得たものは、調査区南側のSP001から出土した弥生土器甕底部1点のみである(8．SP001出土遺物実測図)。やや厚みのある底部は僅かに上げ底をなし、底径は



6．調査区全体図（1：100）



7．調査区東壁面土層図（1：50）

8．SP001出土遺物実測図（1：3）

7.8cmを測る。外面は指オサエ調整が残るが、全体に器面が風化する。胎土には、白色の砂粒を多量含む。なお、同遺構は、径30cm、深さ35cmを測り、覆土は暗褐色土を呈する。

6．まとめ

調査面積が狭小なため、弥生時代と推定されるピット状遺構の広がりを確認するにとどまった。調査区北側の台地上では、同時代の集落や墓地が検出されており、今回の調査地点はその立地から、集落の縁辺部に相当するものと推測される。

0721 那珂遺跡群第119次調査（NAK-119）

所 在 地　博多区那珂1丁目704
調査原因　共同住宅の建設
調査期間　2007.6.25～7.26
調査面積　156.9㎡
担 当 者　屋山　洋
処　　置　記録保存

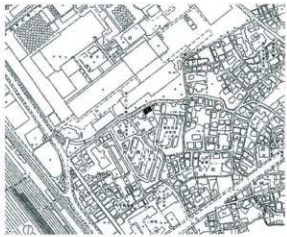
位置と環境　那珂遺跡群は那珂川右岸に沿って南北に延びる低位丘陵上の西側端部に位置する。北側に位置する14次調査では弥生時代から古代の井戸6基、竪穴式住居7軒、掘立柱建物4棟を確認したが、かなり削平を受けており遺存状態は悪い。本調査区も大規模な造成を受けており、調査区東端では隣地と1.5m近い段差がみられる。

検出遺構　井戸1基、溝を2条、土坑1基、柱穴数基を確認した。溝は等高線にほぼ直交しているため排水用の溝の可能性が高く、時期は11世紀から13世紀前後である。井戸は現状で深さ1.2mと浅い。八女粘土層を80cmほど掘り込んでいるが調査中に水は湧かなかった。底面から1mの高さで弥生時代中期の鉢などがまとまって出土した。時期は弥生時代中期後半から後期前半である。

出土遺物　全体でコンテナケース5箱分の遺物が出土した。弥生時代の井戸からは底面から1m程浮いて中期中頃から後半の甕、高坏、鉢、甕棺片が多く出土した他、底面付近から後期前半と思われる土器片も数点出土した。土坑と溝からは器種は不明であるが、白磁片や同安窯系の青磁片が出土した。また、8世紀から9世紀頃の須恵質と土師質の瓦片も出土している。その他に現代の攪乱から古墳時代の土師甕や玉縁の白磁碗片と口禿の白磁皿の破片なども出土している。

まとめ　西側に傾斜した斜面を畑の造成で平坦面を作ったため調査区の東側では大きく削平を受けており、井戸のような深い遺構しか遺存していないが東側隣接地の115次調査の様に弥生時代から古代にかけての遺構が存在したものと思われる。調査区西側も1m弱の削平を受けていると思われるが、古代末の溝は深さ50cmも残っており、古代に一度造成が行われた可能性がある。

調査報告書は2008年度に刊行予定である。



1. 調査地点の位置（38　塩原　0085　1:8000）

2. Ⅰ区全景（東から）

3. SE011

0722 荒平古墳群E群第1次調査（AHK-E-1）

所在地	早良区東入部2丁目16番17号	調査面積	古墳2基
調査原因	特別養護老人ホーム建築	担当者	加藤 隆也
調査期間	2007.7.2～2007.8.18	処置	記録保存

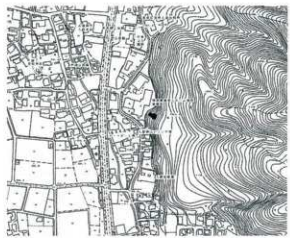
位置と環境　油山（597m）に連なる荒平山（394m）から西側に派生する山麓は、多くの小さい開析谷が入り込み、起伏に富みながら早良平野へと下っていく。今回の調査地点はその山麓の裾部に位置する。荒平古墳群E群では1号、2号墳二基の古墳の存在が知られていた。

検出遺構　2号墳のみの調査として着手したが、調査途中で小型墳一基が新たに見つかり、3号墳として計二基の古墳の調査を行なった。2号墳の玄室は幅2m、長さ3mを測り、奥壁には二石の大型石を用いており、側壁の一部は高さ約2mを残していた。3号墳の玄室平面形は、一辺約1.8mの正方形を呈していた。

出土遺物　2号墳玄室内は、中世に再利用されており、古墳時代遺物はあまり多く見られず、耳環や鉄器、馬具の一部が出土した。3号墳からは玄室内右袖部にてまとまって出土した須恵器を中心に、鉄鏃や滑石製臼玉、ガラス小玉が出土した。2号墳の羨道前面は3号墳の周溝と重なり、多くの遺物が出土した。また、古墳周辺からは、縄文時代早期の押型紋土器、弥生時代中期の丹塗磨研土器片から近世陶磁器までの遺物が出土した。

まとめ　今回の調査では、古墳時代終末期の古墳二基の調査をおこなった。2号墳は、丘陵の尾根線方向に平行して構築されており、羨道入口部には地山中の大型自然石の凹みを利用していることが明らかとなり、3号墳は存在が認識されていなかった古墳であり新知見となった。これらの調査成果は、早良平野最奥部の古墳時代の歴史的景観を復原する上で、貴重な資料となるものである。

報告書は平成20年度に刊行予定である。



1．調査地点の位置（85　入部　0357　1:8000）

2．2号墳全景（北西から）

3．3号墳石室状況（西から）

0723 飯氏遺跡第12次調査（IIJ-12）

所 在 地　西区大字飯氏地内
調査原因　下水道築造工事
調査期間　2007.7.2～7.11
調査面積　60㎡
担 当 者　今井隆博
処　　置　記録保存

位置と環境　飯氏遺跡は糸島平野の東部、高祖山の北西麓に位置する。本調査地点は遺跡の北側中央付近に位置する。周辺では3次・6次調査が行われており、縄文時代晩期の埋蔵や弥生時代の甕棺、古墳時代の住居址が確認されている。

検出遺構　調査区東半部では地山上に堆積した遺物包含層とピット、調査区に平行して伸びる溝(撹乱か？)を検出した。調査区の北壁沿いに包含層と地山がみられ、南壁沿いに溝が伸びる状況である。地表から包含層までの深さは60～70cmで、地山面の標高は約12mである。調査区東端から30m付近で地山の落ちがあり、以西は無遺物の黒色・灰色砂質土の堆積となる。調査区西端では黒褐色粘質土の遺物包含層が試掘で確認されていたが、試掘トレンチから数十cmで遺物の出土はなくなった。湧水のため谷の底は確認できていない。

出土遺物　包含層からの出土遺物は弥生時代中期後半～後期の土器である。摩滅の著しい小片が多く、器形を識別できるものは少ない。コンテナケース4箱分が出土した。

ま と め　幅1mの調査区であったことや雨・湧水のため、十分な成果が得られたとは言い難いが、地山の落ち（谷の肩）を確認できたことは成果の一つと言える。ピットが確認されたことから周辺には遺構が広がるものと思われる。

調査報告書は2008年度に刊行予定である。

1. 調査地点の位置（120 周船寺 0685　1:8000）

2. 1・2区全景（東から）

3. ピット検出状況（南から）

0724 麦野A遺跡第19次調査（MGA19）

所 在 地　博多区麦野5丁目8-27他　　調査面積　374㎡
調査原因　共同住宅建設　　担 当 者　小林義彦
調査期間　2007.7.18～8.9　　処　　置　記録保存

位置と環境　麦野A遺跡は、福岡平野東南部の御笠川と諸岡川に挟まれた麦野台地の北部に位置している。この南北にのびる麦野台地には、幾筋もの開析谷が嵌入して八ッ手状をなしており、その谷を境として便宜的に麦野A・B・C遺跡や南八幡遺跡、雑餉隈遺跡として区分されている。麦野A遺跡第19次調査区は、麦野丘陵東南縁の開析谷に面した東緩斜面上に占地し、200mほど北方の第18・20次調査では弥生時代の貯蔵穴群や壕が検出されている。

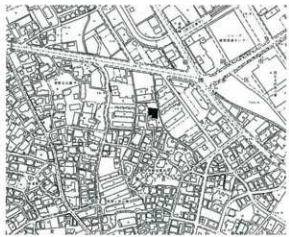
検出遺構　発掘調査では、弥生時代前期末の貯蔵穴1基と古墳時代後期の竪穴住居跡1棟、土壙1基、溝1条のほか近世の溝1条を検出した。

弥生時代の貯蔵穴は深さが1.5m、床面が1.5×2mの楕円形プランである。断面形は床面が大きく膨らむフラスコ状をなし、床面上から小型と大型の壷が各1個体出土した。竪穴住居跡は一辺が3.5mほどのやや小型住居で、南西隅に竈が布設され、煙道が住居外に細くのびている。床面は黄褐色粘土を3～5cmの厚さで敷き固めて貼床としていた。又、北入する開析谷に沿った東縁には断面形が逆台形をした近世の溝が南流している。

出土遺物　貯蔵穴や住居跡などから弥生式土器壷や土師器、須恵器のほかに肥前磁器がコンテナケース2箱ほど出土した。

ま と め　本調査区で検出した遺構は、弥生時代前期後葉の貯蔵穴と古墳時代後期の住居跡および近世の溝を検出した。麦野C遺跡や雑餉隈遺跡を中心とする南部には奈良時代の集落域が拡がっているのに比べて麦野A遺跡の貯蔵穴群の拡がりは興味深い資料である。又、近世の溝の検出は開析谷の水田化が近世に遡り、丘陵裾を削り取るように進行した証左となろう。

発掘報告書は2008年度に刊行予定



1. 調査地点の位置（12　麦野　0048　1:8000）

2. 調査区全景（南から）

3. 1号住居跡（東から）

0725 坂堤遺跡第1次調査（SAK-11）

所在地	東区香椎駅東1丁目地内	調査面積	480㎡
調査原因	道路建設（博多バイパス）	担当者	濱石哲也
調査期間	2007.7.17 ～9.30	処置	記録保存

位置と環境　坂堤遺跡はJR香椎駅の東側約600m、南西に開く狭い谷の突きあたり位置する。東側は坂堤池で、そこから小河川が調査地に接し北側から西側へ流れる。明治30年代の地図では調査地は水田で、坂堤池との間には下原から香椎宮へ続く小道が通っている。この遺跡は、この4月の試掘調査で確認され、新たに坂堤遺跡として登録された。

検出遺構　当初は遺物包含層とみられていたが、調査の結果、古河川とその両岸で遺構を検出した。遺構検出面は現地表から1.5～2m深い標高11.0m前後である。古河川は調査区のやや東寄りを北東から南西に4～6mの幅で流れ、岸からの深さは1m前後。両岸には杭列や水口状遺構が設けられている。古河川両岸の台地上では溝6条（うち1には遺物が多い）、土坑6基、柱穴などを検出した。左岸にはほとんど遺構・遺物がみられない。

出土遺物　出土した遺物には縄文時代の石鏃、中世の白磁などもあるが、7世紀前後の須恵器・土師器などが中心で、全部でコンテナケース16箱となる。

まとめ　今回の調査で検出したのは谷部を流れていた小河川とその両岸に設けられた水利施設などである。河川は7世紀に取水などに利用され、その後も流れを保っていたが、13世紀には完全に埋没したものとみられる。河川の右岸台地上に土坑、柱穴などが多いことからみて、集落はこれより北にあり、今回検出したのはその周縁部分と考えられる。調査区全体は近世以降に造成され、水田が築かれたとみられる。これまで香椎地区では7世紀の遺跡は知られておらず、今回の調査はその嚆矢となるものである。

1. 調査地点の位置（17　浜男　2842　1:8000）

2. 古河川調査状況（東から）

3. 調査区全景（南から）

0726 大塚遺跡第14次調査（OTS-14）

所在地	西区今宿町地内	調査面積	6,200㎡
調査原因	区画整理	担当者	森本 幹彦
調査期間	2007.7.12～2008.2.1	処置	記録保存

位置と環境　調査対象地は、今宿平野の中央南側、国指定史跡・今宿大塚古墳の西側の旧河道と台地上に位置している。大塚遺跡の西部に当たる。標高は台地上の遺構面が7.5m前後、旧河道の谷底が3.5～4.5m前後である。

検出遺構　台地上では弥生時代から中世の集落関連遺構を、谷の西肩付近では古代の製鉄関連遺構を検出した。谷の下層からは弥生土器や土師器を中心とする遺物が出土した。弥生時代終末期は、竪穴住居が4軒以上あるが、一軒は鍛冶炉と竈を備えるものである。古墳時代中期前半では竪穴住居が2軒以上と鉄器の出土した土坑が2基あるほか谷の斜面に一括投棄された小規模な土器溜まりがある。奈良時代前後では製鉄関連の遺構が谷の西肩付近を中心に点在しており、製鉄炉１～2基、横口付炭焼窯1基、焼土坑4基を検出した。

出土遺物　弥生土器、土師器、韓半島系軟質土器、陶邑産初期須恵器、埴輪、鉄器、鉄滓等がコンテナケース約80箱出土した。鉄器は古墳時代中期の鍛造斧や鎌のほか、弥生時代の鍛冶工房から鍛冶関連の鉄片が100点余り出土した。古代の製鉄炉からの鉄滓はコンテナケース40箱程度の出土であるが、炉壁の締め資料が多い。埴輪は大塚古墳から流入したものであるが、円筒形のほかに朝顔形や盾形も出土している。

ま と め　今回の調査では、弥生時代と古代の鉄生産関連の遺構・遺物がまとまってみつかり、今宿五郎江遺跡のような平野の中心となる大規模集落とは異なる性格や役割を有する遺跡であったことが明らかになった。弥生時代の鍛冶工房は糸島地域では初例であり、日本列島で最古級の竈を有していたことからも、非常に重要な調査成果となった。

報告書は2010年度刊行予定である。

1. 調査地点の位置（112　今宿　0625　1:8000）

2. 1区と大塚古墳全景（西から）

3. 鍛冶工房のSC1（南から）

0727 弥永原遺跡第10次調査（YNB-10）

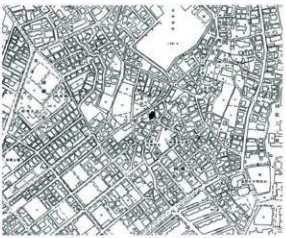
所在地	南区日佐3丁目91－2	調査面積	69.24㎡
調査原因	専用住宅建設	担当者	加藤良彦
調査期間	2007.8.1～2007.8.11	処置	記録保存

位置と環境　調査区は福岡平野の南部、那珂川・御笠川に開析された樹枝状に広がる洪積丘陵群である春日丘陵の西側に派生する細長い支丘上に立地し、このうち幅100m程北西に突出した小支丘の先端部に位置する。周辺域には須玖岡本遺跡をはじめとする奴国の中枢地域として広大な遺跡群が広がる。本遺跡ではこれまで弥生時代中期後半～古墳時代初頭の内行花文鏡や鉄器を副葬した墳墓群や、ガラス勾玉鋳型等が検出されている。基盤層は花崗岩バイラン土の再堆積層であり、その上部に厚さ5cm程の中世包含層が堆積する。標高15.6mを測る。

検出遺構　検出した遺構は古墳時代前期溝2条・土壙2基、古墳時代後期溝3条、15・16世紀代溝1条　他柱穴である。集落の外縁となる溝4条が丘陵に沿って重複して検出され、古墳時代初頭の溝を最古とするが、弥生後期土器も多く混入するため、同期の溝も重複する可能性がある。溝は最大で幅2.4m深さ55cmを測る。これらは中世に削平され、磁北に近い方向の溝1条が切る。

出土遺物　遺物は、溝から弥生時代後期～古墳時代後期の弥生土器・土師器・須恵器が出土した。また、15・16世紀代の溝から少量の朝鮮雑釉陶器・中国製白磁なども出土した。全体でコンテナケース6箱分を検出した。

ま と め　遺跡群内小支丘部での古墳時代集落の外縁部に当たり、各時期の溝が執拗に同方向に重複する。支丘の基部に位置する第7次調査で弥生時代終末期の東西方向の溝が確認されており、この丘尾切断溝とともに一集落のまとまりを示すものと考えられる。



1. 調査地点の位置（26 上日佐 0105　1:8000）

2. 調査区全景（南から）

3. 溝内小型器台出土状況（北から）

0728 博多遺跡第176次調査（HKT-176）

所在地	博多区店屋町135、136	調査面積	207.9㎡
調査原因	事務所ビル建設	担当者	屋山　洋
調査期間	2007.8.16～11.16	処置	記録保存

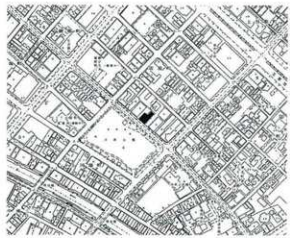
位置と環境　調査地点は博多濱の北西端に位置する。北側隣接地の14次調査では荷揚げ時に船中で割れた陶磁器を一括廃棄したと思われる白磁溜まりが出土した。その他近隣の56次、79次でも白磁などの一括廃棄がみられるため12世紀前半頃には本調査地点付近に船着き場があり、周辺には荷揚げした品物を納める倉庫などが建ち並んでいたものと思われる。

検出遺構　12世紀前半頃と思われる埋め立て層とその上の黄褐色整地層を確認した。埋め立て層の下は海成砂らしき白色粗砂と動植物遺体や土器を含む暗茶褐色土の互層である。黄褐色整地層では20～30㎝ごとに遺構の掘り込みがみられる。調査区内では整地層と同時期の遺構としては井戸1基の他は小型の柱穴のみで倉庫らしき大型の柱穴や土坑は見られない。14~15世紀の遺物は少なく、近世になると全体に井戸と土坑の切り合いが見られるようになる。

出土遺物　埋め立て以前の暗茶褐色土からは馬、牛、鹿、犬等の動物遺存体が散乱した状態で出土する共に多量の箸や折敷、下駄、鼻緒等の木製品、桃の種などが出土しており、波打ち際に塵を廃棄したものを思われる。

ま と め　埋め立て以前の堆積土中からは玉縁口縁の白磁碗が多く出土したが、整地層中の遺構からも完形の玉縁口縁白磁碗が出土しており、これらが輸入されていた12世紀前半頃に埋め立てが行われたと考えられる。調査区内では石垣、護岸や港湾施設等は確認できなかったが、調査区西端に設定したトレンチでは整地層らしき土層は観察できなかった。冷泉公園の東側に面した道路付近が12世紀前半頃に行われた埋め立て地の端であった可能性が高いと考えられる。

調査報告書は2008年度に刊行予定である。



1. 調査地点の位置（49　天神　0121　1:8000）

2. Ⅰ区3面全景（西から）

3. Ⅰ区整地層（西から）

0729 那珂遺跡第120次調査（NAK-120）

所在地	博多区那珂２丁目18番1号	調査面積	128㎡
調査原因	体育館耐震改修その他	担当者	小林義彦
調査期間	2007.8.9～8.28	処置	記録保存

位置と環境　那珂遺跡群第120次調査区は、那珂川右岸を春日市の岡本から北へ長くのびる丘陵の北部に占地する那珂遺跡群の南縁に位置する。春日市の岡本から続くこの台地上には、弥生時代から古墳時代の集落跡や那珂八幡古墳などの墳墓群が拡がっている。第120次調査区の周辺でも甕棺墓や前方後方墳、円墳のほか青銅器の鋳型や古代瓦が出土しており、官衙的施設や寺院跡の存在を示唆している。

検出遺構　発掘調査では、古墳時代後期と古代の集落遺構を検出した。

古墳時代後期の遺構は、竪穴住居跡2棟、掘立柱建物跡2棟＋αと柱穴を検出した。住居跡は4本柱の一辺が5～6mの規模で、うち1棟には東壁に竈を附設していた。掘立柱建物跡は、1×1間と1×2間である。

古代の遺構は、幅が220cm、深さが50～60cmの南北筋の大溝である。溝中から須恵器に混じって軒丸瓦や平瓦片が出土している。

出土遺物　遺物は住居跡や溝から甕や高坏、坏、甑片などの弥生土器や土師器・須恵器のほかに軒丸瓦や平瓦がコンテナケースに7箱出土した。

ま と め　本調査で検出した遺構は、古墳時代後期の住居跡や建物跡と古代の大溝である。これらは周辺の調査成果を補完するもので、那珂遺跡群における集落域の拡がりと消長を窺い知る資料である。また、大溝から出土した軒丸瓦や平瓦は周辺域でも報告されており、那珂丘陵の南縁部に古代寺院等の公的な施設の存在を想起させる資料である。

発掘報告書は2008年度の刊行予定

1. 調査地点の位置（24　板付　0085　1:8000）

2. 調査区全景（北から）

3. 1号住居跡（西から）

0730 博多遺跡群第177次調査（HKT-177）

所在地	博多区御供所町173,155-11番	調査面積	6.48㎡
調査原因	専用住宅建設	担当者	加藤良彦
調査期間	2007.8.20～8.21	処置	記録保存

1. 調査に至る経緯

本調査は、博多区在住の横尾浩二氏により博多区御供所町173,155-11番地内において専用住宅建設工事を計画するにあたって、埋蔵文化財の有無の照会のため平成19年6月21日事前審査願いが埋蔵文化財2課に提出されたことにより始まる。申請面積は93.15㎡、受付番号は19-2-241である。

確認したところ、申請地が博多遺跡群内であり周囲で第62・130次調査が実施されているため、平成19年7月10日試掘調査を実施し、GL下160cmで遺構の存在を確認した。このため、設計変更の協議を行ったが、径50cm35本の杭打ちの施工は不可避となり、事前に緊急調査を実施することとなった。平成19年8月20日より発掘調査を実施し、土留め工事を伴わないため、崩落防止で壁面は階段状に掘り下げ、法面下で幅2m弱を確保するのが精一杯であった。調査は同月21日に終了した。

2. 位置と環境

調査地点は、博多湾岸に形成された砂丘上に立地する、弥生時代から現代まで絶えることのない複合遺跡である博多遺跡群の中央部南東側、鎌倉時代初頭創建の聖福寺前面道路と大博通りの間に位置する。周囲の第62・130次調査では弥生時代中期集落・古墳時代周溝墓・古代・中世集落が検出されている。標高は5.15m、現況は宅地である。

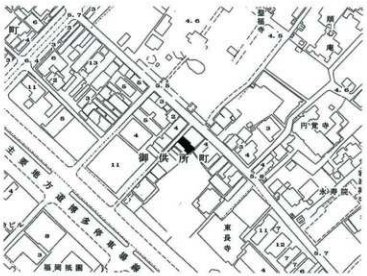


図1　調査地点の位置（42 天神 0121　1/4000）

3. 基本層序

図4は調査区北壁の土層図で、基本層序はGLより下60cm程の客土・旧表土（1～4層）、140cmの暗灰褐色土（11層）、160cmの灰褐色砂質土（12層）、200cmの暗灰褐色混砂粘質土（13層）、220cmの黒灰色混砂粘質土（14層）、230cmの茶褐色砂質土（15層）、240cmの基盤の黄灰色砂層（16層）となる。上面遺構検出は13層上面で行った。12層までを包含層上層、以下を包含層下層とした。

4. 遺構と遺物

検出した遺構は、上部検出面で近世溝2条・埋甕1基、中世土壙1基、GL下2.4m標高2.8mの黄灰色基盤砂層上で柱穴を検出した。（図3）。

遺物は、大溝・包含層から弥生土器・黒耀石剥片、中世土師器・瓦器・貿易陶磁器・銅銭、近世陶磁器・鍛冶滓・羽口などコンテナ4箱分を検出した。

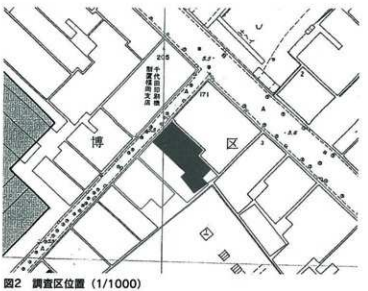


図2　調査区位置（1/1000）

1）.中世土壙SK03（図3）　SK03は唯一の中世遺構で上面南西端で検出した。平面楕円形で95×65cm＋α深27cmを計り、断面船底形で床面は段をなす。

出土遺物（図5）　1は青白磁型作り扁壺の注口部片。外面に陽刻の蕉葉文を施し、注口の上部に径1.5mmの小穴を穿孔。2は黒褐釉の茶入れ。口唇は玉縁。内面肩部下は露胎で灰オリーブ色。胎土は紫灰色で精良。3は土師器の坏。体部は左回転ナデ。内底にタテナデ外底に右回転糸切り板圧痕有り。鈍い黄橙～暗灰褐色。4は土師器皿。体部は回転ナデ。外底は左回転糸切り。鈍い黄橙色。5は土師質の小型土鈴で完形。側面に型造りの接合痕が残る。玉も土製で径10mm。6は鉄製紡錘で紡茎の上下を欠損。紡輪は径44高6mmの傘状、紡茎は径4mm長32mmが残存する。13世紀前半～中頃。2）.その他の出土遺物（図5）　包含層・近世遺構混入で、宋銭7は「聖宋元寶」・8は「熙寧元寶」。

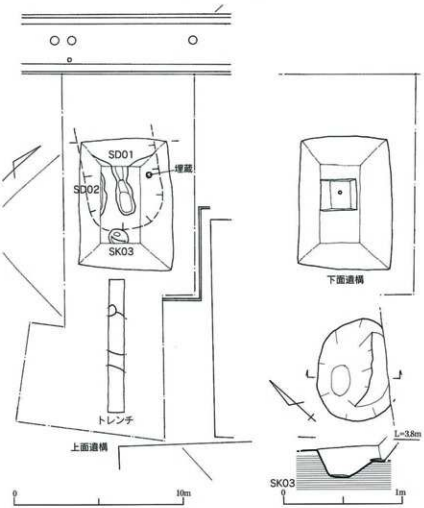


図3　遺構全体図　SK03実測図（1/200 1/40）

図4　北壁土層断面図SK01（南から）

9・10は中世丸瓦。ともに一枚造りで凹面に模骨痕はない。9は凸面縄目叩き後タテナデ、凹面は布目圧痕を端から2段タテヘラナデ、側面もヘラナデ。橙色で二次的に被熱。10は広端幅13.2高7.6厚2.2cm。凸面は縄目叩き後2/3程をタテケズリ後ナデ、凹面は布目圧痕を側面端から1段タテヘラナデ。広端面はヨコケズリ後タテナデ。側面・端面はヘラナデ。暗灰色。12は中世軒丸瓦当片で周縁と外区の連珠文が残る。灰色。11は古代花弁文・押圧文瓦に伴う薄手の平瓦片で厚0.9～1.1cm。凸面は縄目叩き後タテナデ、凹面は幅1.0～1.2cmの模骨と布目圧痕が残る。側面は凹面から4mm程切り破断し分割。灰色、焼成は堅緻。他に2片出土。13は土師器皿。右回転ナデで外底は糸切り。14は土師質鍋で外面はヨコナデ煤が付着、内面はヨコ板ナデ、口縁上面にヨコハケが残る。橙色。15～17は弥生土器。15は甕口縁で内外にヨコナデ、鈍い赤褐色。16は壺底部で外面はタテヘラナデ後緩いケンマ、内面タテヘラナデでヘラ当て痕多数。鈍い黄橙色で胎土は粗い。17は壺口縁で内外をヨコナデ後ケンマ。口唇にハケメ工具で刻目を施す。橙色～鈍い黄橙色を呈す。

3）.下面遺構（図3）　上面調査後重機により、可能な限りの砂層上面の検出を行い、結果1m下面で1.5mのバケット幅・長さ1m弱の検出に止まった。検出されたのは径30cm程の柱穴1穴である。

4).近世溝SD03（図3・4）　調査区内を起点にN-58°-Wに方位をとる幅3m以上深さ1mを測る大溝で、1層上面から掘り込まれ、底面に多量の鍛冶滓・羽口片を廃棄している。18世紀前半。

出土遺物（図8）　18・19は肥前系磁器。18は染付皿。19は色絵油壺。上絵付けで緑・朱の圏線上に朱で菊花弁青で花芯緑で唐草を描く。20は褐釉陶器で碁笥底の皿に同筒?底部が熔着する。21は唐津系輪花?で内外に淡オリーブの透明釉。22は青緑釉の皿で見込みに蛇の目剥ぎ外面に浅黄の透明釉。23は土師質焙烙。両端に三角形の取手が付く。24は土師質土鈴。25は砂石臼転用の砥石。26は花崗岩製の石玉105g。27～30は鍛冶関連で、27は完形の輪羽口。長18内径2.7外径9.1cm1082ｇ。炉壁幅の変色が7.5cm。28は脱炭用のサヤ片で高5.7厚1.7cm。著しい被熱で外側3～4mmがガラス化他は発泡し軽石状。紫灰～黒灰色。29・30は鍛冶滓で29は6.1×4.6×2.5cm52g、30は13.9×10.1×4.0cm448gを測る。これらを含め452点16.1kg出土、他に鉄釘・針金残欠が数点出土した。

5. まとめ

調査区の大半を近世大溝が占めたため、中世遺構は土壙1基のみであったが、南の試掘溝の標高3.5mの面で土壙2基を確認し、溝以南には厚さ70cm程中世遺構面が良好に遺存する。基盤砂層は40m南西の130次で40cm、70m南西の62次調査区で90～110cm下がり、砂丘尾根が聖福寺寄りである事を示している。近世鍛冶関連遺物は元文3（1738）年聖福寺仏殿修理に関連するか。

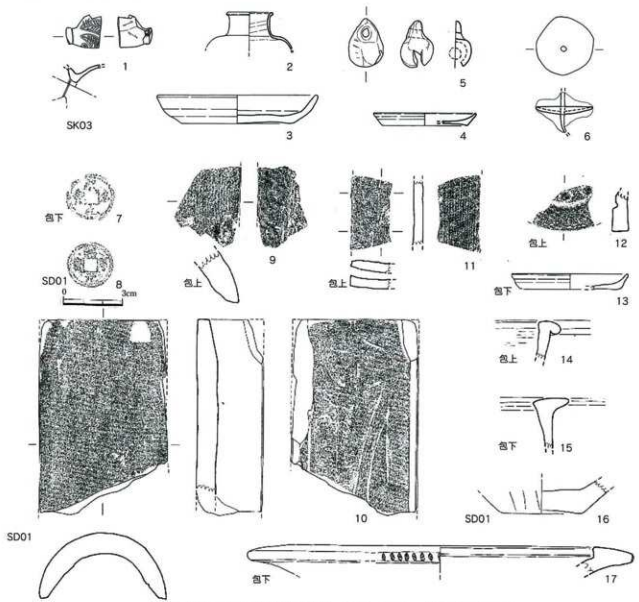


図5　SK03　包含層他出土遺物実測図（1/3、7・8・=1/2、9～12=1/4）

図6　上面遺構全景（南東から）

図7　上面遺構全景（北東から）

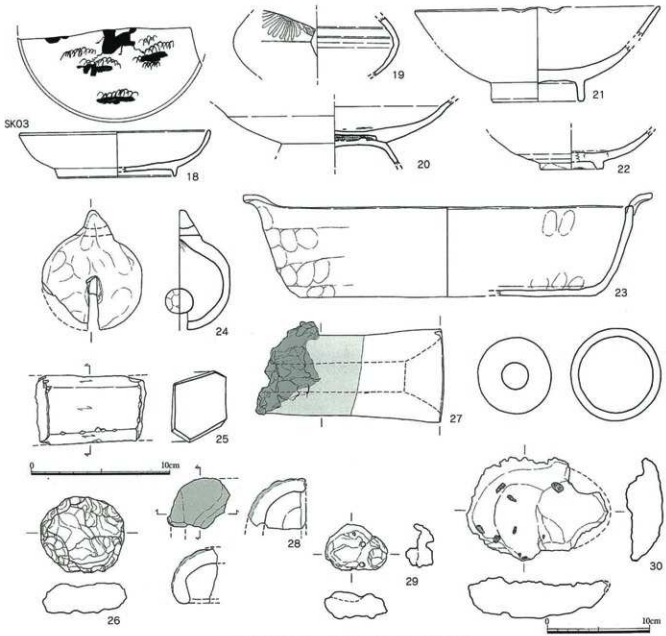


図8　SD01出土遺物実測図（1/3、27～30：1/4）

0731 麦野C遺跡第11次調査（MGC-11）

所在地	博多区竹丘町2丁目3-2・13	調査面積	294㎡
調査原因	社屋建設	担当者	小林義彦
調査期間	2007.8.23～9.25	処置	記録保存

位置と環境　麦野C遺跡は、福岡平野東南部の御笠川と諸岡川に挟まれた麦野台地上に位置している。この南北にのびる麦野台地には、幾筋もの開析谷が嵌入して複雑な地形を形成しており、その開析谷を境として麦野A・B・C遺跡や南八幡遺跡として区分されている。麦野C遺跡第11次調査区は、麦野台地の南縁部に位置し、北接する麦野B遺跡第1次調査では奈良時代の住居跡が、西隣の南八幡遺跡では、弥生時代後期～古墳時代の住居跡や建物跡が検出されている。

検出遺構　発掘調査では、奈良時代後半の竪穴住居跡3棟、土壙6基、土壙墓2基と建物跡2＋αを検出した。このうち南西隅の33号住居跡は、西壁の中央部には黄灰色粘土で厚く築かれた竈が附設され、煙道は壁外にのびていた。床面は厚い貼床で、竈周辺には須恵器坏や甕片が散乱していた。31号住居跡からは須恵器坏や高坏と鉄斧が出土した。又、34・38号土壙からは骨片が出土しており、土壙墓と考えられるが時期は不詳。一方、建物跡は1×1間のもの2棟ある。

出土遺物　竪穴住居跡や土壙から須恵器坏や高坏、甕のほかに土師器甕、甑、竈（移動式）のほか平瓦や鉄斧、骨片などがコンテナケース8箱ほど出土した。

ま と め　本調査区で検出した遺構は、主に奈良時代後半の竪穴住居跡を中心とする集落遺構である。この麦野台地の南部域には、南八幡遺跡等の一部を除いて奈良時代の集落域が中心的に拡がっており、本調査区例もそれを裏付けるものであった。又、南側は東から舁入する開析谷で大きく削平されていることが予想されたが、住居跡の検出は谷頭まで集落域が展開していたことを示すものである。

発掘報告書は2008年度に刊行予定

1. 調査地点の位置（12　麦野　0050　1:8000）

2. 調査区東側全景（南から）

3. 33号住居跡（竈から）

0732 名島城跡第５次調査（NZE-5）

所 在 地　東区区名島1丁目2410-1外
調査原因　重要遺跡確認調査
調査期間　2007.8.27～11.22
調査面積　338㎡
担 当 者　榎本 義嗣
処　　置　埋め戻し保存

位置と環境　名島城は、豊臣秀吉による九州平定後の天正16(1588)年、小早川隆景が築城した織豊期の城郭で、慶長5(1600)年に筑前国に移封された黒田長政が福岡城の築城を開始する翌年までの10数年間、小早川・黒田両氏の居城となった。

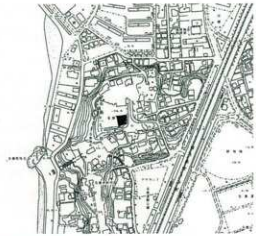
今回は、多々良川河口の博多湾に突出した東西方向の丘陵西端に築かれた本丸のうち、南東隅部を調査対象とした。調査前は家屋解体後の平地で、標高24.5mを測る。なお、当丘陵は、第三紀層風化土を基盤とし、戦後の宅地造成時に約1mの客土がなされている。

検出遺構　まず、地表下の造成土および旧耕作土を除去した標高約23.4mの黄褐色土上面を遺構面とした。この層は基盤土上層に認められる厚さ10～20cmの近世整地層で、調査区の大半に広がり、少量ながら近世瓦を含む。ただし、この面には、戦前の果樹植え付け時の規則的な周溝状の撹乱がおよび、また、樹根やシミ状の落ち込みが認められた他、明確に近世と考えられる遺構は未検出であった。畑地造成時の削平によるものと推測される。

本丸東端部に該当する調査区北東部では、同整地層下に西から東に急傾斜する旧表土層(SX081)が認められた。築城前の丘陵斜面を示すものと考えられ、この斜面上には厚さ1m以上の盛土や整地がなされる。また、この盛土群をカットする直線的な掘り込み(SX071)が南北方向に伸びる。

出土遺物　三巴文軒丸瓦、飾り瓦を含む近世瓦や国産陶磁器等の遺物がコンテナケース5箱あるが、大半は旧耕作土からの出土である。

ま と め　SX071は本丸東側石垣の背面掘り込み肩と推測され、石垣の遺存を含め、来年度の調査に期待がもたれる。調査報告書は2009年度以降に刊行予定である。



1．調査地点の位置（32 名島 0115 1:8000）

2．調査区全景（北から）

3．SX081検出状況（西から）

0733 諸岡B遺跡第22次調査（MRB-22）

所在地	博多区諸岡2丁目7-4,7-5番	調査面積	118.145㎡
調査原因	専用住宅建設	担当者	加藤良彦
調査期間	2007.9.03～9.21	処置	記録保存

1．調査に至る経緯

本調査は、博多区在住の大和博明氏により博多区諸岡2丁目7-4,7-5番地内において専用住宅建設を計画するにあたって、埋蔵文化財の有無の照会のため平成19年7月17日事前審査願いが埋蔵文化財2課に提出されたことにより始まる。申請面積は439.63㎡、受付番号は19-2-300である。確認したところ、申請地が諸岡B遺跡内であり、諸岡古墳群A-1号墳に隣接するため、平成19年7月19日試掘調査を実施し、GL下25cmで遺構の存在を確認した。設計変更の協議を行ったが、遺構面まで浅く、施工上杭打ち工事は避けられないとの事で、建物部分に関して事前に緊急調査を実施することとなった。平成19年9月3日より発掘調査を実施し、排土処理の関係から南北で調査区を二分し反転して行った。9月11日に北半部を終了し、同月21日に南半部を終了した。

2．位置と環境

調査地点は、福岡平野の中央部、諸岡川左岸150×600m程の独立洪積台地上に立地する諸岡B遺跡の中央部に位置する。周辺域は板付・那珂比恵・井尻・須玖岡本遺跡等をはじめとする、国内有数の弥生時代の中枢地域として広大な遺跡群が広がり、本遺跡もこの遺跡群に含まれ、近隣では南に中世地下式土壙等が検出された1次調査区が近接し、西に諸岡古墳群A-1号墳が隣接する。現地標高は10.5m、現況は宅地である。

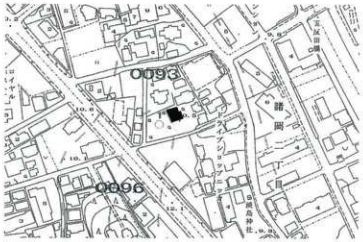


図1　調査地点の位置（24 板付 0093　1/4000）

3．基本層序

25cm程の表土直下が桃灰～黄白色の八女粘土の基盤層となり、1.5m近く削平されている可能性が高く、包含層は遺存しない。

4．遺構と遺物

検出した遺構は、16～17世紀前半代の掘立柱建物2棟・瓦質の埋甕1基・溝1条、18世紀～近代の溝4条・土壙1基・溜井3基・瓦質の埋甕1基他柱穴を検出した。遺構面の標高は約10.3mである（図3）。遺物は、遺物は古墳時代須恵器・中世土師器・瓦器・貿易陶磁器が若干近世遺構に混入して検出され、近世陶磁器を中心にコンテナ3箱分を検出した。

1）．掘立柱建物SB01（図4）　調査区の北東に位置し、近世溝SD11の下から検出される。4間6.8m分検出され、建物は北東側に広がる。方位はN-48°-Wで溝SD04・11に並行する。柱間は1.4～2.1mで均等ではない。堀方は径22～52cm、深さ5～36cmを測る。覆土は灰褐色土で、遺物の出土は無いが溝に先行する17世紀以前と考えられる。

図2　調査区位置（1/1000）

2）．掘立柱建物SB02（図4）　調査区の南西に位置し、近世溝SD04の下から検出される。2間分3.3m検出され、建物は西側に広がる。方位はN-22°-Wで磁北に近い。柱間は1.60～1.65mで均等。掘方は径20～27cm、深さ7～22cmを測る。遺物の出土は無いが磁北に近い溝SD05と共に中世まで遡る可能性が高い。

3）．溝SD05（図4）　調査区中央北に位置し、幅0.7m、深さ0.12m、長さ5mにわたって検出され、近世土壙SK02に切られる。覆土は暗灰褐色土で地山土小ブロックを2/3含む。遺物の出土は無いが近世遺構とは方向を異とし磁北に近く、近世以前の可能性が高い。

4）．埋甕SK01（図4）　調査区北中央部で検出した。平面隅丸方形で85×73cm、深30cmを測る堀方に径56cmの平底の瓦質甕を、暗赤褐色土で固定したもので、使用後同じ土で埋め戻している。

出土遺物（図5）　5は埋甕内より出土した唐津系陶器溝縁皿で、口径13cm。内面から外面下位まで灰オリーブの透明釉。胎土は褐味を帯びた灰オリーブで粗い。6は瓦質の埋甕で底径40.5cm。外面はタテハケ後ヨコナデ。内面はヨコハケ内底はカキメに仕上げる。17世紀前半。

5）．その他の遺物　撹乱・近世遺構混入で、1は白磁皿Ⅵ類で底径3cm。2は白磁Ⅳ類碗で底径5.8cm。3は瓦器?で底径5.6cm。粗い研磨で内外銀化する。4は須恵器甕胴部片。他に2片出土。

5．まとめ

16～17世紀前半代に1mを越える著しい削平が行われており、以前の遺構は遺存しない。少量の11・12世紀代の遺物が検出されるが、時期が明確な遺構は埋甕SK01で17世紀前半。他に16～17世紀代の遺構、溝SD05と掘立柱建物SB02は磁北に近い方位を、掘立柱建物SB01は地形に沿う北西方向に方位をとり、近世遺構と同方向で前者より後出する可能性が高い。これらを切って18世紀以降の排水溝が地形に沿って掘削され畑作がなされている。南部には雨水を貯水する溜井が掘削され、畑作に供される。

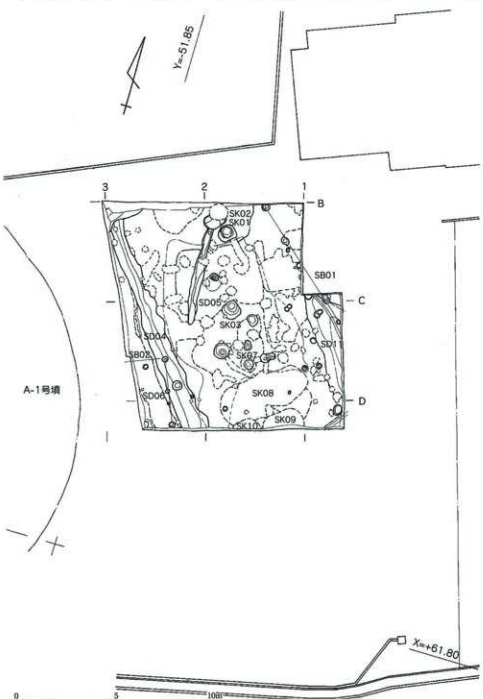


図3　遺構全体図（1/200）

近代にはこれらが客土で整地され、再び居住地に改変されている。また、古墳時代須恵器が小片で3点確認されたものの、A-1号墳の間近まで近世・近代の溝が掘削され、これらが近代に客土で埋没後、50cm程表土が堆積しており、1号墳の裾の大部分は近代以降の盛土と思われる。墳形も歪で、古墳としても大幅な改変を受けている可能性が高い。

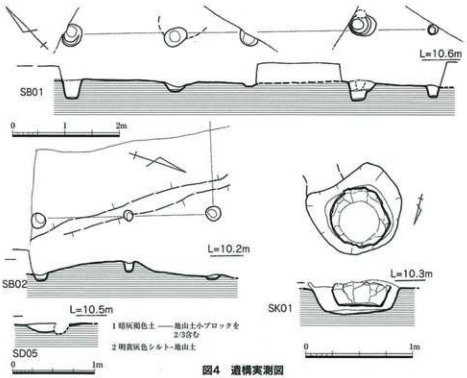


図4　遺構実測図

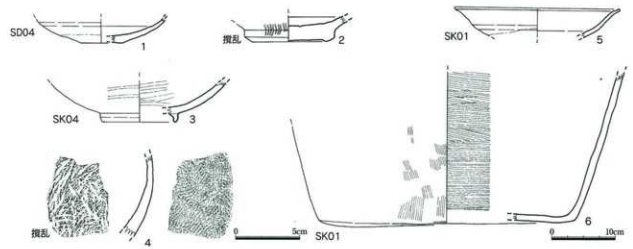


図5　遺物実測図（1/3・6=1/6）

図6　調査区北半部全景（南東から）

図7　A-1号出土全景（南から）

0734 井尻B遺跡第30次調査（IGB-30）

所在地	南区井尻5丁目143-17	調査面積	129㎡
調査原因	倉庫建築	担当者	加藤 隆也
調査期間	2007.9.4～2007.9.28	処置	記録保存

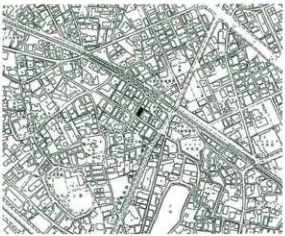
位置と環境　井尻B遺跡は、福岡平野のほぼ中央部に位置し、北流する那珂川と御笠川の間に位置する須玖丘陵上にあたる。調査地周辺の調査では、旧石器時代のナイフ形石器から中世遺物まで幅広い時代の遺物が見られる。特に弥生時代中期から古墳時代初頭にかけての集落群が密に確認されており、鏡や鏃の鋳型の出土が特筆される。

検出遺構　確認された最も古い遺構は、縄文時代と思われる落とし穴である。1基のみであり、規模はやや小さいが、深さは80cmを測り、黒褐色土で埋まっていた。出土遺物はない。その次の時代は、弥生時代後期後半以降の土壙と竪穴住居群である。平面形が長方形の土壙が埋没した後、竪穴住居が掘削されている。土壙の性格は不明であるが、埋土の上層から甕がつぶれた状態で出土している。竪穴住居は、4基確認され調査区の西側で重なって確認された。調査区西側は、地山が緩やかに低くなっていることから、遺構の遺存が良好であったと考えられる。調査区東側では、略方形の掘方をもつ掘立柱建物群が確認された。建物の方向は正方位に規制されており、柱間も2mを超えるものである。掘削時代を示す遺物は出土していないが、周辺の調査に見られる7、8世紀の建物群につらなるものと考えられる。

出土遺物　弥生時代から古代までの遺物が出土した。総量はコンテナ4箱である。

ま と め　今回の調査地点は、井尻B遺跡の東端に位置していたが、既調査で普遍的に見られる各時代遺構が良好に遺存しており、その東側端にまで遺跡が展開していることが明らかとなった。井尻廃寺に関連する遺物や中世の遺構は、今回の調査では確認されなかった。

報告書は平成20年度に刊行予定である。



1．調査地点の位置（25　井尻　0090　1:8000）

2．調査区東半全景（南西から）

3．調査区西半全景（北東から）

0735 有田遺跡群第226次調査（ART-226）

所在地	早良区小田部2丁目139外	調査面積	810㎡
調査原因	スポーツクラブ建築	担当者	今井隆博
調査期間	2007.9.19～11.22	処置	記録保存

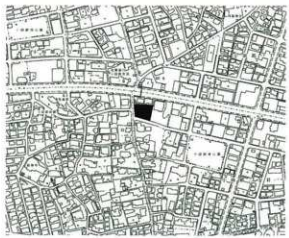
位置と環境　有田遺跡群は早良平野の北側、室見川と金屑川に挟まれた独立中位段丘上にある。今回の調査地点は北側の台地が分岐する付け根付近に位置する。

検出遺構　厚さ10～60cmの客土の下でロームを検出した。遺構面の標高はおよそ11mである。検出した遺構は竪穴住居址5基、土坑2基、掘立柱建物5軒、ピット多数である。住居址の内訳は、約4×5mのやや いびつな方形住居1、一辺2.5mほどの方形住居2、方形住居の一角だけが残ったもの2である。いずれも遺物が少なく明確な時期は不明だが、弥生後期頃であろうか。調査区北東隅では掘立柱建物を2軒検出した。SB39(3×3間あるいは二辺に庇をもつ2×2間)とSB43(2×4間)で、ともに総柱建物である。SB43は回廊状の遺構の可能性もある。SB39とSB43はほぼ同じ主軸で、柱1つ分だけ南北にずれて重なっている。SB43の柱穴でSB39の柱穴を切るものもある。建物の時期は古代と思われる。

出土遺物　弥生土器・土師器・須恵器で、コンテナケース3箱である。ほとんどが小片である。

ま と め　調査区の西側・南側の遺構密度はうすく、住居址の深さから判断するとかなり削平を受けているようである。過去の調査から弥生時代の集落が検出されることは予想していたが、大型の掘立柱建物が確認されたことは大きな成果といえよう。本地点の周辺は比較的調査が多く行われているが、今回の調査で付近の様相をさらに明らかにすることができた。

調査報告書は2008年度に刊行予定である。



1. 調査地点の位置（82 原 0309　1:8000）

2. 調査区全景（東から）

3. SB39・43完掘状況（西から）

0736 箱崎遺跡第58次調査（HKZ-58）

所在地	東区馬出5丁目504-1の一部	調査面積	13.0㎡
調査原因	専用住宅建設	担当者	本田浩二郎
調査期間	2007.9.25	処置	記録保存

1. 位置と環境

箱崎遺跡第58次調査地点は、遺跡範囲の南東部に位置する。現況は宅地で、現地表面の標高は3.70m前後を測る。試掘調査の結果、GL-100cmで柱穴などの遺構が確認された。予定された基礎工事による埋蔵文化財への影響は避けられないため、記録保存のための発掘調査を行うこととなった。調査対象面積69.5㎡の大部分が近代以降の工事によって攪乱されており遺構は消失していた。調査は遺構が残る北東側約10㎡の範囲について行った。試掘の成果を基にGL-100cmまでの近世以降の整地層・盛土層を除去し、暗黄褐色砂層面上で遺構検出を行った。

2. 遺構

遺構検出の結果、土坑4基・柱穴1基を確認し調査を行った。これらの遺構の時期は出土遺物より近世の時期と考えられる。遺構検出を行った暗黄褐色砂層面は北東側に緩やかな傾斜を持つ。この暗黄褐色砂層は基盤層の砂丘層ではなく包含層となっていたため、一部について基盤層の確認および包含層の遺物検出のため掘り下げを行った。掘り下げの結果、GL-185cmで白色砂層の基盤砂層面を検出した。調査範囲が狭小なため砂丘面での遺構は確認できなかった。

3. 遺物

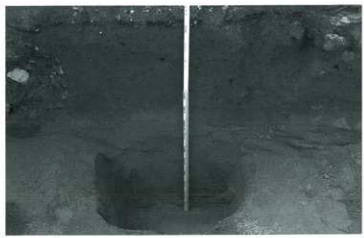
調査ではコンテナケース1箱分の遺物が出土した。遺物のほとんどが近世以降の陶器類となるが、砂丘面上に形成された包含層からは中世前半期の白磁・瓦器椀や9世紀代と考えられる須恵器片が出土した。いずれも小破片での出土となる。

4. まとめ

調査対象範囲が狭小なため明確な遺構の確認はできなかった。箱崎遺跡の西側については今回のような包含層が形成される箇所が確認されているため埋没地形の復元が急務となる。

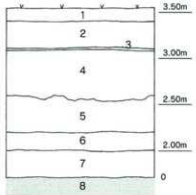
1. 調査地点の位置（34　箱崎　2639　1:8000）

2. 完掘状況（北西から）



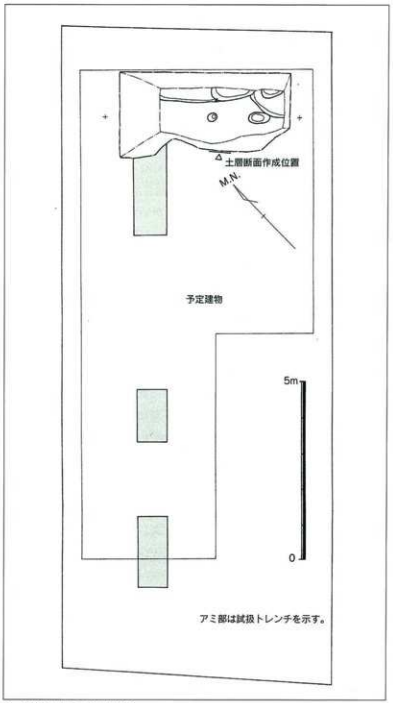
3. 調査区土層断面（北東から）

4. 調査区位置図　S=1/1000



5. 調査区土層断面　S=1/40

6. 遺構検出状況（北西から）



7. 遺構配置図　S=1/100

1. 表土（廃材含む）
2. 整地土（既存建物建設時の整地土層）
3. 黒褐色土（旧表土）
4. 褐色砂（風成砂層、中世～近世の遺物を含む）
5. 暗黄褐色砂（遺構検出面）
6. 暗灰白色砂（遺物包含層、古代の遺物などを含む。東側方向からの流入土層か）
7. 灰白色砂
8. 白色砂層（基盤層）

0737 香椎A遺跡第4次調査（KSA-4）

所 在 地　東区香椎2丁目地内
調査原因　道路建設（博多バイパス）
調査期間　2007.10.1～継続中
調査面積　3,200㎡（平成19年度）
担 当 者　濱石哲也
処　　置　記録保存

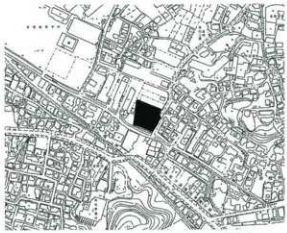
位置と環境　香椎A遺跡は香椎2～3丁目を中心に広がる遺跡で、東の老山から西の博多湾に向う丘陵上に立地する。第4次調査地は遺跡の西端近くに位置しており、香椎宮の北西約500m、JR香椎駅の南東約600mの所にあたる。標高は4.0m前後、南側に隣接して流れる香椎川に向かいわずかに傾斜する。

検出遺構　遺構検出面は浅いところでは現地表下の約20cmで現れる。検出した遺構は掘立柱建物6棟以上、井戸4基、土坑90基、溝56条、木棺墓・土坑墓7基、製鉄関係遺構3基、それに多数のピットなどである。建物は床面積が40㎡をこえる大型のものが2棟みられる。井戸は板組みと石組みがあり、板組みの1基と石組みは大型である。溝はおもに南北、または東西に走るが、中央部には西側を囲繞する幅2.5mの溝もみられる。墓には木棺墓、土坑墓があり、うち1基は人骨が残り中国製青磁を副葬していた。他は土師器杯皿を副葬するものが多い。また鍛冶炉と見られる遺構がある。

出土遺物　土師器（杯・皿が主）、土師質土器、須恵質土器、陶磁器、滑石製品、瓦、硯、銅銭、銅鈴、木製品などあわせてパンケース90箱分が出土した。日常生活用具の類の量が多い。

ま と め　今次の調査で検出した遺構は、弥生時代中期の土坑とピットを除き、中世に属する。おもに屋敷地を区画する溝や堀、その屋敷地内の掘立柱建物、井戸、墓、土坑、工房などである。13世紀後半に敷地の造成が行われ、大型の掘立柱建物や板組みの井戸、墓などが築かれ、その後いったん廃絶し、16世紀になって中央部の溝、石組みの井戸などを伴う屋敷地が新たに設けられたものと考えられる。現在なお調査中。

調査報告書は平成21年度に刊行予定である。



1. 調査地点の位置（17　浜男　0069　1:8000）

2. 東調査区全景（南から）

3. 西調査区全景（南から）

0738 上籠遺跡第1次調査（KAG-1）

所在地	西区戸切2丁目地内	調査面積	203㎡
調査原因	道路建設	担当者	加藤 隆也
調査期間	2007.9.28～2007.11.7	処置	記録保存

位置と環境　上籠遺跡は、今回の道路改良工事に伴い試掘を行ない、新しく発見された。遺跡は、早良平野のほぼ中央部西寄りに位置する。早良平野は東側を油山山塊から延びる飯倉丘陵によって福岡平野と、西側を背振山塊から延びる長垂丘陵によって今宿平野と画されている。平野最深部の内野付近を要部とし、室見川を中心河川として開析され、博多湾に向かって扇状に展開する複合扇状地の平野であり、平野部では幾つかの小河川の開析による沖積扇状地を形成している。本遺跡は室見川中流西岸の沖積微高地上に立地しており、西側には戸切巡り町遺跡、北側には橋本榎田遺跡が位置している。

検出遺構　調査地内の微高地高所部は削平が著しく、遺構の遺存状況は極めて悪かった。検出遺構としては溝、不定形土壙などがある。多くの遺物の出土が見られたのは、低地へ緩やかに傾斜する微高地肩部に堆積したものである。基本層順は上から盛土、旧耕作土、床土、灰茶褐色遺物包含層、暗茶褐色粘質土、洪水砂となる。

出土遺物　遺物包含層には、弥生時代から中世までの遺物が混ざっているが、その下層の暗茶褐色粘質土には古墳時代中期の高杯、小型丸底壷がまとまって見つかった。出土遺物の総量はコンテナ8箱である。

ま と め　今回の調査は、狭小な調査区であったが、弥生時代の微高地の縁辺を巡ると考えられる溝、古墳時代の水際祭祀に伴う遺物が見つかり、新発見遺跡の性格を明らかにする貴重な成果を得ることができた。

報告書は2008年度に刊行予定である。

1. 調査地点の位置（92　戸切　2844　1:8000）

2. 第2区東側全景（北東から）

3. 第4区全景（北東から）

0739 戸切巡り町遺跡第1次調査（TRM-1）

所 在 地　西区戸切2丁目地内　　調査面積　403㎡
調査原因　道路建設　　担 当 者　加藤 隆也
調査期間　2008.1.7～2008.3.18　　処　　置　記録保存

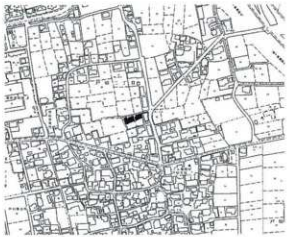
位置と環境　巡り町遺跡は、早良平野のほぼ中央部西よりに位置する。早良平野は、東側を油山山塊から延びる飯倉丘陵によって福岡平野と、西側を背振山塊から延びる長垂丘陵によって今宿平野と画されている。平野最深部の内野付近を要部とし、室見川を中心河川として開析され、博多湾に向かって扇状に展開する複合扇状地の平野であり、平野部では幾つかの小河川の開析による沖積扇状地を形成している。本遺跡は室見川中流西岸の沖積微高地上に立地しており、西側には兵庫遺跡、東側には上籠遺跡が位置している。

検出遺構　遺跡の基本層序は、約20cmの耕作土と床土下には茶褐色砂質土の古墳時代遺物を含む遺物包含層が見られ、それらの土壌を除去した面が黄褐色シルトと黄褐色粗砂を基盤とする安定面となる。その上面にて柱穴、土壙などの遺構が検出された。

出土遺物　調査地内の微高地高所部は削平が著しく、遺構の遺存状況は極めて悪かった。調査区西側は北西方向に緩やかに谷に向けて傾斜している。その上面には、弥生時代前期後半の土器を多く含む黒褐色粘質土が堆積していた。検出された不定形土壙からは、弥生時代土器から中世陶磁器(細片)までの遺物が出土した。総量はコンテナ5箱である。

ま と め　今回の調査地点は検出された遺構の密度は決して高いものではないが、谷を埋める土層中には弥生時代前期後半頃の遺物が見られ、また古墳時代の遺物包含層が基盤層の上面を広く覆うことから、当該期の集落の存在がうかがえる。今回の調査は第1次調査であり、今後の調査成果により集落構造などが明らかになることを期待したい。

報告書は2008年度に刊行予定である。



1. 調査地点の位置（92　戸切　0403　1:8000）

2. 調査区東半全景（北東から）

3. 調査区西半前景（北東から）

0740 兵庫遺跡第1次調査（HYG-1）

所在地	西区戸切2丁目地内	調査面積	727㎡
調査原因	道路建設	担当者	加藤 隆也
調査期間	2007.11.1～2008.3.18	処置	記録保存

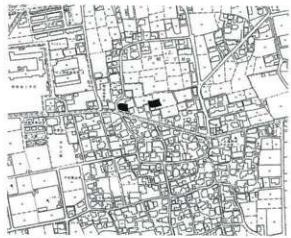
位置と環境　兵庫遺跡は、今回の道路改良工事に伴い試掘を行ない、新しく発見された。遺跡は、早良平野の中央部やや西寄りに位置する。早良平野は東側を油山山塊から延びる飯倉丘陵によって福岡平野と、西側を背振山塊から延びる長垂丘陵によって今宿平野と画されている。平野最深部の内野付近を要部とし、室見川を中心河川として開析され、博多湾に向かって扇状に展開する複合扇状地の平野であり、平野部では幾つかの小河川の開析による沖積扇状地を形成している。本遺跡は室見川中流西岸の沖積微高地上に立地しており、東側には戸切巡り町遺跡、西側には戸切遺跡が位置している。

検出遺構　出土遺構の主体を成すのは、弥生時代前期末中期初頭のものである。当該期の遺構は壁立建物、掘立柱建物、木製品の水づけ遺構等である。また、微高地間の谷部には多くの遺物が含まれており、生産域の存在がうかがわれる。それ以外には古墳時代の溝、古代末の条里と深く関係すると考えられる溝が検出された。

出土遺物　弥生時代の土器や木製遺物から中世陶磁器（細片）までの遺物が出土した。総量はコンテナケース28箱である。

まとめ　今回の調査は、第1次調査であるが、弥生時代の土器、石器、木器の出土とともに多くの遺構がみつかった。特に小型の壁立建物の検出は、福岡平野で数例見られるのみで、現在室見川周辺では確認例が少なく注目される。また、鍬・鋤・石斧柄など木製品群や今山産の太型蛤刃石斧や多量の黒曜石チップなど、弥生時代の生活状況を復元する上で貴重な資料が出土し、戸切の歴史を明らかにする大きな第一歩となった。

報告書は平成20年度に刊行予定である。



1．調査地点の位置（92　戸切　2845　1:8000）

2．第1区西側全景（北東から）

3．第2区西側全景（北東から）

0741 元岡・桑原遺跡群第51次調査（MOT-51）

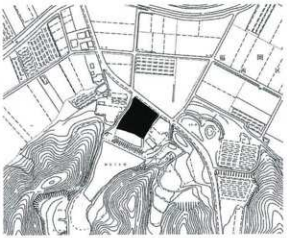
所 在 地　西区大字桑原字金糞　　調査面積　6,888㎡
調査原因　大学用地造成　　担 当 者　池田祐司
調査期間　2007.8.29～2008.10.3　　処　　置　記録保存

位置と環境　北東に開く谷底に位置する。同じ谷の南側斜面で行った49次調査では、6世紀代の集落、奈良時代の建物群を中心とする遺構を多く検出している。今回は谷底から北側斜面を対象として実施した。遺構面は調整池の造成で削平を受けている。上流の24次調査では古代の製鉄炉が検出している。

検出遺構　調査区の北側には谷を流れる河川、包含層を検出し、谷底では建物群等の遺構を確認した。河川は上層に黒褐色粘質土、下層は粗砂が堆積する。掘立柱建物は谷中央の平地で2×2間の総柱建物2棟、2×3間の掘立柱建物柱1棟を検出した。柱穴からは、柱材が残っていたものがある。南側緩斜面では2×2間の総柱建物、2軒の6世紀後半代の竪穴住居を確認した。

出土遺物　河川からは6世紀代の須恵器、土師器、木器が多く出土した。木器は鋤、三又鍬等の農具、ねずみ返し、柱材等の建築材、他に鏝などがある。最下層からは弥生時代後期を主体とする土器が出土した。竪穴住居跡からは6世紀後半の須恵器、土師器が出土している。北側斜面の河川上には遺物包含層が堆積し、Ⅰ層からは近世の遺物が少量、2層上部では須恵器、土師器、越州窯系青磁、白磁、石鍋等の古代末の遺物、下部からは8、9世紀代の須恵器が出土した。河川堆積上のⅢ層では8世紀代から下部では7世紀代の土器が多く出土した。

ま と め　弥生時代後期は遺物のみで、遺構は確認できていない。古墳時代では、河川から出土した建築材が注目される。平地で検出した掘立柱建物との関連も興味深い。古代には河川はほぼ埋まる。南側斜面に集落が営まれ、谷部が耕地であった可能性がある。谷底で建物群を検出し、南側斜面からの遺構の広がりを確認できた。



1. 調査地点の位置（140　元岡　2782　1:8000）

2. 調査区西側全景（南から）

3. 木器出土状況

0742 香椎A遺跡第5次調査（KSA-5）

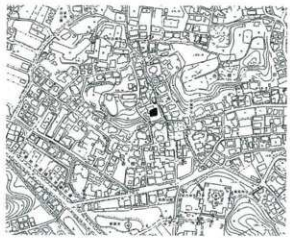
所 在 地　東区香椎4丁目1147外　　**調査面積**　36.8㎡
調査原因　共同住宅　　**担 当 者**　宮井善朗　米倉秀紀　上角智希
調査期間　2007.10.23～10.24　　**処　　置**　記録保存

位置と環境　香椎A遺跡は香椎宮の北側丘陵に位置する。調査地点は、遺跡のほぼ中央部、香椎宮北側に位置し、住宅内に残った高台に立地する。調査地点北側の丘陵先端部には4次調査地点が位置する。

検出遺構　表土直下で黒褐色の包含層を検出し、それを剥いだところで土師器皿の集中を見た。精査したところ廃棄土坑と判明した。調査区全体から極めて遺存のよい柱穴を多数検出し、特に土坑周囲には密に分布している。

出土遺物　土坑から多量の土師器皿のほか少量の青磁、白磁等の陶磁器が出土した。また柱穴からも完形の土師器皿、銅銭などが出土しており、地鎮などが行われた可能性が考えられる。遺物総量は調査面積に比べると多く、コンテナケース2箱に達した。

ま と め　今回は小範囲の調査であったが、香椎宮周辺の中世集落の一端をかいま見ることができたといえよう。特にその立地から見て、かなり上位階層の館の可能性もある。
調査報告書は未定である。



1. 調査地点の位置（17　浜男　0069　1:8000）

2. 調査区全景（北西から）

3. 柱穴遺物出土状況

0743 藤崎遺跡第36次調査（FUA-36）

所 在 地　早良区藤崎1丁目3-37
調査原因　集合住宅建設
調査期間　2007.10.1～10.29
調査面積　187.0㎡
担 当 者　阿部泰之
処　　置　記録保存

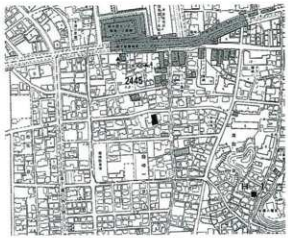
位置と環境　藤崎遺跡は、博多湾に生ずるいわゆる左転海流によって形成された砂丘上に立地する。第36次調査区は遺跡推定範囲の南西端部に位置する。

検出遺構　今回の調査で検出された遺構は、竪穴住居2軒・溝3条・土壙1基・ピット多数である。竪穴住居は方形で主柱穴は4基、内1基は竈を有する。溝は断面U字形で、削平のためか断続的に延長を検出した。

出土遺物　今回の調査で出土した遺物は、竪穴住居から土師器甕・タコツボ・坩、溝から土師器皿・白磁碗・皿、土壙から龍泉窯系青磁碗などが出土した。コンテナケースで5箱分である。

ま と め　今回の調査では、竪穴住居・溝・土壙等を検出した。竪穴住居は床面まで削平され遺存状況は悪いが、遺物・形態から6世紀末から7世紀初頭頃の住居址と推測される。溝は出土遺物から12世紀後半頃には埋没し始めたと思われる。3条の内2条は切り合うが、2条並行する部分がみられ、周辺の調査結果などから区画溝としての機能が推測される。土壙は調査区東端で検出し東半分は調査区外となった。削平が大きく残りは深さ20cm程度であったが、出土遺物から時期は溝よりも新しく13世紀頃と推測される。遺構面とした細砂層の下は海成砂とみられる中砂～粗砂層で、藤崎遺跡が位置する砂丘はさらに南に延び、それに伴って遺構も南および西へ伸びるものと推測される。

調査報告書は2008年度に刊行予定である。



1. 調査地点の位置（81　室見　0307　1:8000）

2. 調査区東側全景（北から）

3. 住居址SC01（東から）

0744 諸岡B遺跡第23次調査（MRB-23）

所在地	博多区諸岡4丁目地内	調査面積	145㎡
調査原因	緑地保全地区広場整備	担当者	小林義彦
調査期間	2007.10.15～10.22	処置	記録保存

位置と環境　諸岡B遺跡は、福岡中央部の那珂川と諸岡川に挟まれた独立丘陵上に占地している。この丘陵の西南方には奴国王墓のある須玖岡本遺跡があり、諸岡川を挟んだ東方の微高地上には稲作初現の地とされる板付遺跡がある。

この諸岡丘陵の尾根上には、4基の小円墳があり、最頂部に位置する円墳(3号墳)の西側ではゴホウラ製貝輪を装着した甕棺墓が、また丘陵の東側斜面では、旧石器時代の遺物包含層をはじめ、甕棺墓や朝鮮半島の無文土器のほか地下式横穴などが検出されている。

第23次調査区は、丘頂部の3号墳の北側墳裾下に位置し、神社の開削によって墳裾より1m余り削平されている。

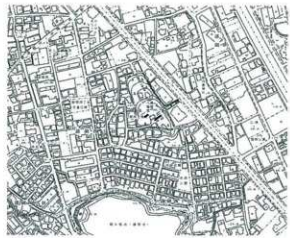
検出遺構　発掘調査では、弥生時代の墓地を検出した。

墓地は、甕棺墓6基と木棺墓1基、土壙墓1基からなる。このうち甕棺墓は、成人棺が4基、中型棺と小児棺が各1基である。成人棺のうち3基は上甕に鉢と甕を用いた合口式甕棺墓で、そのほかは木蓋単口墓である。一方、木棺墓は小口壁と側壁に板材を嵌め込み、棺外は地山土で固く裏込めをしている。甕棺墓は中期後葉で、木棺墓や土壙墓は前期後葉～中期初頭の可能性もある。

出土遺物　遺物は大型甕や壷などの弥生式土器がコンテナケース19箱ほど出土した。

ま と め　本調査区では、甕棺墓と木棺墓、土壙墓を検出したが、副葬品を有するものはなかった。しかしながら、ゴホウラ製貝輪を装着した甕棺墓と一群を構成しており、丘陵の東南裾に拡がる一群とは占地の在り方や副葬遺物からやや優位性が窺われよう。

発掘報告書は2008年度に刊行予定。



1．調査地点の位置（24　板付　0093　1:8000）

2．I区東側全景（北から）

3．1号甕棺墓埋納状況（北から）

0745 比恵遺跡群第112次調査（HIE-112）

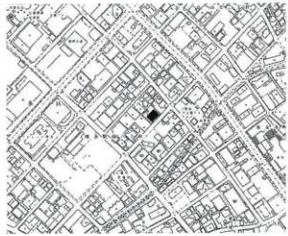
所在地	博多区博多駅南6丁目85-1・2	調査面積	354.3㎡
調査原因	共同住宅建設	担当者	加藤良彦
調査期間	2007.10.15～2007.11.30	処置	記録保存

位置と環境　調査区は比恵・那珂群遺跡が立地する洪積丘陵の中央近く、両遺跡群を分断する北東から開析する谷の奥部北側、県指定史跡比恵環溝集落の南に位置する。地表面標高は6.8mを測る。古代・古墳時代後期の包含層下の八女粘土上が検出面となり、標高は5.4mを測り、南東に緩傾斜する。周辺では第9・10・61・82・88次調査などがあり、昭和初期の区画整理での削平が深く、弥生時代中期から古墳時代初頭の豪族居館の環溝・井戸など深い遺構しか遺存しない。

検出遺構　遺構は弥生時代後期不整形土壙2基、終末～古墳時代初頭溝1条・土壙3基・不整形土壙4基、古墳時代後期溝1条・井戸1基・土壙4基・不整形土壙2基他柱穴、古代井戸3基・不整形土壙4基他柱穴などがある。主に4時期の集落が重複し、平安前期以降には水田化し、昭和初期の区画整理の客土により宅地化されている。

出土遺物　遺物は、弥生時代後期～古墳時代土器を中心に、各遺構から旧石器・弥生土器・石器・鋼鎌・土師器・須恵器・瓦などコンテナケース28箱分検出している。

ま と め　弥生時代終末～古墳時代初頭の溝は幅2.5m深さ50cm程の大溝で、谷に並行に調査区内を直進する。不整形土壙はこの大溝に切られ、覆土は黒灰色粘質土に地山土ブロックを多量に含んだもので、粘土採掘壙を埋め戻したものの可能性がある。幅1.5mの7世紀初頭～前半の溝も谷に並行し、底面に厚く中砂が堆積し、水路として東西両側の河川をつないでいる可能性がある。底面は径10cm強の偶蹄類の足跡で著しい凹凸となっており、牛の通り道となっている可能性がある。報告書は2008度に刊行予定である。



1. 調査地点の位置（37 東光寺 0127　1:8000）

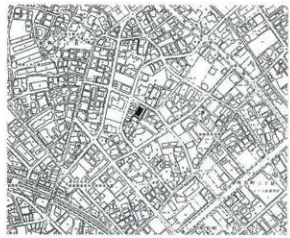
2. 調査区東半部全景（南から）

3. 満底面足跡（南から）

0746 麦野C遺跡第12次調査（MGC-12）

所 在 地　博多区麦野6丁目3-2・13　　調査面積　294㎡
調査原因　共同住宅建設　　担 当 者　小林義彦
調査期間　2007.11.1～11.20　　処　　置　記録保存

位置と環境　麦野C遺跡は、福岡平野の東南部、御笠川と諸岡川に挟まれた麦野台地に位置している。この南北にのびる麦野台地には、幾つもの開析谷が嵌入して八ッ手状をなしており、この谷を境として麦野A・B・C遺跡や南八幡遺跡として区分されている。第12次調査区は、この麦野C遺跡の北部に位置し、台地が北へ向かって砂州状に突き出した東縁部に占地している。すぐ東には7～9次調査区があり、古代の住居跡や掘立柱建物跡などが検出されている。



1．調査地点の位置（12　麦野　0050　1:8000）

検出遺構　発掘調査では、弥生時代と近世の集落跡に伴う遺構を検出した。

弥生時代の遺構は、貯蔵穴1基。床面は200～250cmの楕円形プランをなし、フラスコ状に膨らんだ壁面は入り口に向かって窄まる。

近世の遺構は、井戸跡1基、溝1条、土壙7基と柱穴を検出した。このうち井戸跡は、深さが250cmの素堀りで井側は布設されていない。底から土鍋や石臼、染付碗が出土した。又、土壙の中には小口壁に板材を嵌め込んだ痕跡を残すものがあり、木棺墓の可能性も考えられる。

2．調査区西側全景（東から）

出土遺物　遺物は、弥生式土器や土師器、須恵器、肥前磁器、石臼などがコンテナケース4箱出土。

ま と め　本調査区での特筆すべき遺構には、弥生時代の貯蔵穴と近世の井戸跡がある。元来、貯蔵穴は、幾基かのまとまって展開するのが一般的であり、周辺域に拡がっていることが想起される。又、近世の素堀りの井戸跡は、井筒を埋置することが一般的な中で少ない資料である。奈良時代の集落域が主体的に拡がる麦野～雑餉隈丘陵において、弥生時代と近世の遺構からなる本調査区の知見は貴重である。

調査報告書は2007年度に刊行。

3．10号井戸跡土層断面（南から）

0747 田村遺跡第22次調査（TMR－22）

所在地	早良区田村4丁目地内	調査面積	495.95㎡
調査原因	道路建設	担当者	阿部泰之
調査期間	2007.10.31～2008.1.31	処置	記録保存

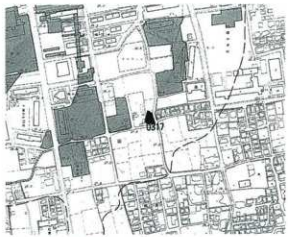
位置と環境　田村遺跡は、室見川によって形成された沖積平野である早良平野に立地する。第22次調査区は遺跡推定範囲の南東端部に位置する。今回の調査は平成18年度実施の第21次調査で未調査となっていた部分の調査である。

検出遺構　今回の調査で検出された遺構は、溝1条・土壙1基・掘立柱建物1棟・ピットである。溝は非常に浅く深さ5cmに満たない部分もある。土壙は径約80cmの略円形で断面形は碗形である。掘立柱建物は柱筋が若干不整だが1×2間の建物となろう。柱穴は径30cm前後と小さく浅い。調査区南部は砂礫が堆積し旧河川となる。旧河川の河床は暗褐色シルトとなるが、この層から後期～晩期にかけての縄文土器片がコンテナケース1/5箱程度出土した。

出土遺物　今回の調査で出土した遺物は、溝から土師器皿・黒色土器A類碗・白磁碗などが出土した。コンテナケースで5箱分である。

ま と め　今回の調査では、溝1条・土壙1基・掘立柱建物1棟・ピット等を検出した。溝は第21次調査区検出の溝に接続するもので流水の跡が観察され水路とみられる。出土遺物から10世紀後半頃まで機能していたものとおもわれる。水路は条里に沿っており旧河川から北に導水し水田の灌漑に利用されたと考えられる。旧河川河床出土の縄文土器片は小片で磨滅し時期の特定は難しい。散漫な出土状況から上流からの流れ込みとみられる。

調査報告書は2009年度に刊行予定である。



1. 調査地点の位置（84　重留　0317　1:8000）

2. 調査区全景（南から）

3. 土師器小皿出土状況（西から）

0748 博多遺跡群第178次調査（HKT-178）

所在地	福岡市博多区冷泉町46番	調査面積	65㎡
調査原因	ホテル建設	担当者	山崎龍雄
調査期間	2007.10.13～10.31	処置	記録保存

位置と環境　調査地は遺跡群が立地する博多湾岸の三列の砂丘のうち、最も内陸側砂丘の南側に位置する。当地点は1993年に調査した第79次調査の南東側の国体道路に挟まれた未調査区域である。調査地周辺は遺跡群内でも良く調査が行われている地域で弥生時代甕棺墓群なども調査されている。

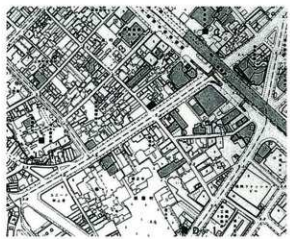
検出遺構　重機によって地表から－1.3mまで掘取りし、遺構確認を行った。調査面は2面である。

第1面は標高3.7m前後で12～14世紀初めの時期。検出遺構は井戸2基、倉庫と思われる方形竪穴1基、一括廃棄された土師器溜まり1基、土壙墓1基、多数の土坑、柱穴など。

第2面は基盤の砂丘面で標高3.5m前後で古代8世紀以降の時期。検出遺構は土坑、柱穴などで、第1面の遺構の間で検出した。

出土遺物　古代～近世の遺物がコンテナケースで44箱出土した。主な出土品は古代の土師器・須恵器、中世の土師器・瓦器・瓦質土器・輸入陶磁器・国産陶器、近世の国産陶磁器、輸入中国銭を含む金属製品・骨角製品などである。

ま と め　当初の予想より遺構の残りは良く、またこの地点での基盤の砂丘面が予想より上面にあることが確認出来た。遺構の時期は8～14世紀までで、第79次調査とほぼ同じである。地下室と思われる大型土坑の上面には14世紀前半頃の土師器一括遺構があり、土坑は廃絶後ある程度埋まった後に、儀礼に使われた土師器の捨て場であることが分かった。2008年度報告予定である。



1. 調査地点の位置（36・49　博多駅・天神　0121　1:8000）

2. 調査区第1面全景（北西から）

3. 大量に廃棄された土師器（北西から）

0749 箱崎遺跡第59次調査（HKZ-59）

所 在 地　福岡市東区箱崎3丁目2412-1　　調査面積　156.4㎡
調査原因　一部専用住宅兼共同住宅　　担 当 者　山崎龍雄
調査期間　2007.11.5～12.15　　処　　置　記録保存

位置と環境　調査地は箱崎遺跡の北端部に位置する。両側を道路で挟まれた南北に細長い敷地で、南側は道路拡幅に伴って調査が行われた第10次調査区に隣接する。箱崎地区は元々筥崎宮の門前町として古い町並みを保っていたが、平成11年から始まった筥崎土地区画整理事業や道路整備事業によって景観が大きく変貌している。

検出遺構　遺構面は黄褐色の砂丘面で地表下0.8～0.9mで検出した。遺構面の標高は2.6mを測る。検出遺構の時期は中世前期12世紀～近世にかけてである。

中世：木棺墓2基、土壙墓1基、土坑6基、溝3条、根石を持つ掘立柱建物1棟、柱穴・ピット

近世：大型土坑1基

出土遺物　古墳時代後期～近世迄の遺物がコンテナケース23箱出土した。種類としては須恵器、土師器、中国産陶磁器、国産陶磁器、土師質土器、瓦質土器、瓦器、瓦、銭貨、鉄製品、動物骨、貝殻などがある。

ま と め　遺跡の北端部であるが、この地点でも遺構が濃密に広がることが確認出来た。遺構は更に北側に広がる可能性がある。建物や溝は現在の箱崎地区の町割りに沿うものである。中世墓3基は12～13世紀で、いずれも土師器や中国産白磁、青磁などを多数副葬しており、当地域の有力者の墓と考える。2008年度報告予定である。

1．調査地点の位置（34　箱崎　2639　1:8000）

2．調査区南側全景（東から）

3．人骨を残す木棺墓検出状況（東から）

0750 徳永B遺跡第２次調査（TOB-2）

所在地	福岡市西大字徳永198、213	調査面積	682.5㎡
調査原因	伊都土地区画整理	担当者	木下博文
調査期間	2007.11.14～2008.2.25	処置	記録保存

位置と環境

徳永Ｂ遺跡は高祖山から派生する南北の丘陵上に所在する。付近一帯は山の鼻1号・2号墳を含めた古墳時代の首長墓群が形成されている。今宿バイパス建設に伴う1次調査では中国製青磁が出土し、中世の遺構が確認されている。

検出遺構

縄文時代中期の阿高式土器一括廃棄、古墳時代中期の竪穴住居１棟、古代と見られる焼土坑2基・掘立柱建物1棟・鉄滓廃棄土坑1基、平安時代前期の土師器椀廃棄土坑1基、平安後期の土坑、中世のピット多数を検出した。

出土遺物

縄文時代中期の阿高式土器深鉢片一括、古墳時代の土師器、黒色土器、土師器椀・皿、中国製青磁、滑石製の錘・用途不明品、黒曜石製鏃、鉄滓などが出土した。コンテナケース11箱分になる。

ま と め

阿高式土器の出土は、周辺地域では初例であり、当該地域での生業活動が縄文中期に遡る事が確認されたのは大きな成果である。後世の遺構埋土に混入している縄文土器片に並木式土器片1点が含まれており、一型式古くなる可能性がある。

断続的ではあるものの古墳時代から中世までの居住遺構が営まれ、焼土坑・鉄滓廃棄土坑といった生産遺構も含まれており、土地利用変遷が明確にできる良好な成果が挙げられた。

調査報告書は2011年度に刊行予定である。

1.調査地点の位置(120　周船寺　2585　1:8000)

2．調査区東半部全景（南から）

3．阿高式土器出土状況（東から）

0751 博多遺跡群第179次調査（HKT-179）

所在地	博多区下川端町177,178-1,173,172番地内	調査面積	546.2㎡
調査原因	共同住宅・立体駐車場建設	担当者	久住 猛雄
調査期間	2007.11.15～2008.5.18	処置	記録保存

位置と環境　調査地点は博多遺跡群の北西側にあたり、遺跡群北部の「息ノ濱」砂丘の南西側斜面に位置する。付近の現標高は4.3～4.4mを測る。

検出遺構　調査区は、Ⅰ区（北側共同住宅部分）とⅡ区（南側立体駐車場部分）に分かれる。2面の調査を行ったが、Ⅰ区西側は1面下で調査面を設定し、Ⅰ区2面下部も調査した範囲がある。

Ⅰ区1面は、近世包含層を除去した標高2.0m前後で設定した（Ⅰ区東側1面は基礎による撹乱が深く、1.7～1.8m）。Ⅰ区1面は、西側で両側側溝を伴う南北の道路遺構を検出した。それより東側では、柱穴・礎石列、石積基礎土坑、石敷溝、方形土坑（多くは道路に直交・平行する）や井戸など多数の遺構を検出した。Ⅱ区1面は近世包含層を除去した2.0～2.1mで設定した。Ⅰ区と異なり小柱穴が多数密集する。Ⅱ区南西隅では東西溝と道路遺構を検出したが、これはⅠ区西側の道路と直交する。Ⅱ区では遺構・下部包含層ともに銅銭の出土が目立つ。Ⅰ・Ⅱ区ともに1面は、近世井戸などを除き14世紀中頃～16世紀である。Ⅰ区西側は、道路遺構下面の標高1.55m前後で調査面を設定した。13世紀後半頃の道路とそれに伴う街区を検出した。Ⅰ区2面は、標高1.1～1.3mの砂層上面としたが、この下部の黄色砂層中に東西方向の石列があり、2面下部の面（1.0m前後）も一部調査した。Ⅰ区2面は、12～13世紀の井戸、土坑、柱穴群を検出した。

出土遺物　総量374箱が出土。12～16世紀の土器、輸入陶磁器、国産陶器が大部分であるが、獣骨、銅銭（500枚以上あり）、銅製品、鉄製品、鋳造関係遺物、石製品など多様な遺物がある。

ま と め　12世紀中頃の石列を伴う整地地業による街場の成立や13世紀以降の道路・街区の成立と整備過程（片側側溝→両側へ、道路広幅化）が注目される。2009年度に報告書作成予定である。

1. 調査地点の位置（49　天神　0121　1:8000）

2. 1面全景（東から；写真上がⅠ区西側道路遺構）

3. Ⅰ区2面全景（東から；写真左半に東西石列）

0752 大橋E遺跡第11次調査（OHE-11）

所在地	南区大橋4丁目地内	調査面積	380㎡
調査原因	道路新設	担当者	小林義彦
調査期間	2007.11.20～2008.1.21	処置	記録保存

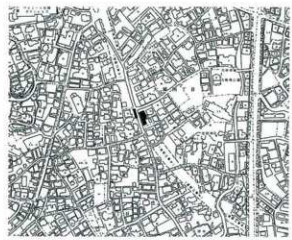
位置と環境　大橋E遺跡は、那珂川左岸の中流域に拡がる沖積地の微高地上に立地し、第11次調査区はこの大橋E遺跡の中央部に位置している。大橋E遺跡では、これまでに10地点で発掘調査が実施されており、弥生時代から中世の集落跡が発見されており、西方へ250mの距離には三宅廃寺跡がある。また、本調査区を挟んだ南北域で第9次調査（A・B区）が行われており、南に位置するA区では、中世の溝と掘立柱建物跡が、北のB区では南北が約13m～18m、東西が26mの屋敷地と考えられる近世の区画溝が検出されている。

検出遺構　発掘調査では、1条の溝遺構と4基の土壙のほかに多数の柱穴を検出した。しかしながら、土壙を除いては近世以降の開削によって台地は大きく削平されている。また、柱穴の中には柱痕跡を残すものもあるが、建物や欄列などのひとつの遺構としてまとまるものはなかった。

出土遺物　遺物は、須恵器や土師器のほかに瓦器、陶器などがコンテナケース1箱分出土した。

ま と め　本調査区では、中世から近世の溝遺構と土壙を検出したが、密度的には比較的疎らな在り方を示しており、遺構の拡がりや機能は明確にはできなかった。但し、本調査区を挟んだ南北の第7・9次調査区では、溝を矩形に巡らした屋敷地跡や掘立柱建物跡等が検出されており、本調査区の遺構群は屋敷地を中心とする集落域の一翼を構成していたものと考えられる。

発掘報告書は2009年度に刊行予定。



1．調査地点の位置（39　三宅　2382　1:8000）

2．調査区全景（南から）

3．2～4号土壙（北から）

0753 有田遺跡群第227次調査（ART-227）

所在地	早良区小田部1丁目387-1	調査面積	81㎡
調査原因	個人専用住宅建築	担当者	今井隆博
調査期間	2007.11.21～12.5	処置	記録保存

位置と環境　有田遺跡群は早良平野の北側、室見川と金屋川に挟まれた独立中位段丘上にある。この段丘は北側が八手状に広がる形状をしており、今回の調査地点は左から3番目と4番目の丘陵が分岐する付け根付近に位置している。周辺では34次・163次・193次・201次調査などが行われており、古墳時代～古代の住居址・溝などが確認されている。

検出遺構　調査前は畑で、標高は約8.3mであった。地表面より－20～50cmでロームを確認し、この面を遺構面とした。北に向かって低くなる地形である。遺構面の標高は南側で8.1m、北側で7.7mであった。検出した遺構は、東西に平行して延びる溝3条（SD01～03）、東西方向の溝と斜めに交わる溝1条（SD04）、ピットである。SD02・03とSD04との切り合いは不明。大半の遺構の覆土は暗褐色で、有田・小田部の弥生・古墳時代の遺構の覆土に比べて色が明るく、ややしまりが弱い。SD01～03は幅約70cm、深さは5～20cmであった。SD04の幅は約40cm、深さは5～10cmである。近世以降の溝と思われる。

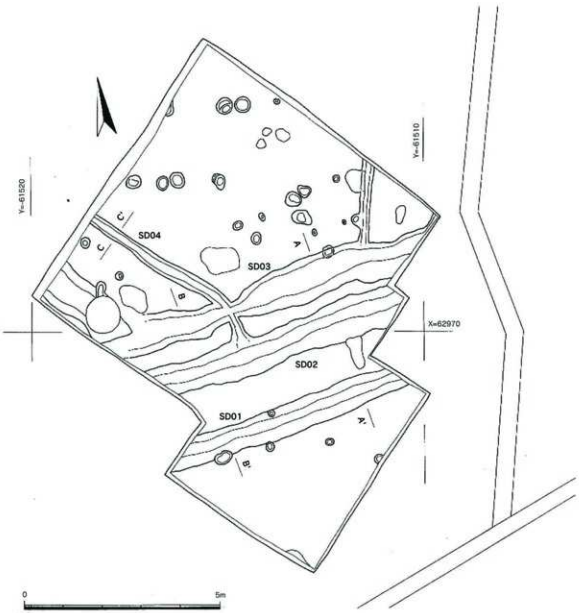
出土遺物　SD02から銅銭2枚（ともに寛永通宝）と陶磁器片が出土した。銅銭は遺存状態が悪く拓本では不鮮明なため、X線写真のみを掲載した。陶磁器片は小片で図化していない。遺物総量はコンテナケース1箱である。

ま と め　周辺の調査では古墳時代の集落や古墳も確認されているが、本地点では近世以前の明確な遺構は確認できなかった。東西方向の溝は近世以降のもので、畑の畝の可能性もある。

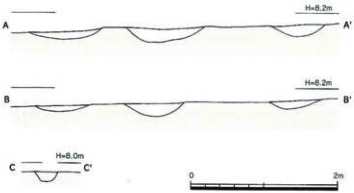
1. 調査地点の位置（82 原 0309　1:8000）

2. 調査区南側全景（東から）

3. 調査区北側全景（南東から）



4. 調査区全体図（1/100）



5. SD 01・02・03・04 断面図（1/60）

6. SD 01 出土遺物（1/1）

0754 博多遺跡群第180次調査（HKT-180）

所在地	博多区祇園町343.346.348.351.354	調査面積	134.83㎡
調査原因	共同住宅建設	担当者	加藤良彦
調査期間	2007.12.10～2008.2.19	処置	記録保存

位置と環境　調査区は博多遺跡群の南部、最奥部の砂丘列の北西側緩斜面に位置し、現況は宅地で地表標高は5.6mを測る。1m程の撹乱層を除去後調査第1面とし、さらに1.2m下方の砂層上面まで4面にわたる調査を実施した。周辺では第133次調査区が西に、172次調査区が北に隣接し、他多数の調査区がある。

検出遺構　遺構には、第1面で幅5m程の北西方向に延びる土器小片・貝殻片・粘土粒を多く含む14世紀初頭前後の硬化面、第4面で奈良時代の土壙2基・溝1条と古墳時代前期土壙3基などがある。また全面にわたって11世紀～16世紀の井戸9基・土壙28基・溝4条を検出した。調査面積の大部分を井戸が占め、11・12世紀代が中心となる。

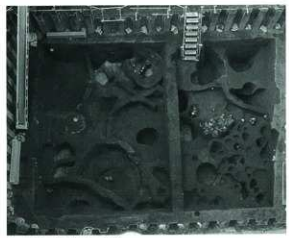
出土遺物　遺物は、銅製巡方・ガラス坩堝・ガラス玉・灯盞・吉州窯天目他、古墳時代初頭～14世紀初頭前後の土師器・須恵器・貿易陶磁器・瓦等があり、各遺構・包含層から90箱分検出した。

ま と め　最下面の砂層上で奈良時代の土壙・溝と、巡方・まとまった須恵器等、奈良時代が一つの盛期となるが、大部分を後代の井戸堀方に切られる。最盛期は11・12世紀代で、135㎡弱の面積に径5m以上の9基もの井戸が集中しており、北東側の175次調査区も同じ状況である。第1面の幅5m程の帯状の硬化面は路面の可能性があり、砂丘稜線に直交する方向で、172次調査区の土器廃棄溝とも直交関係にあり、14世紀初頭前後で時期的にも近い。また、ガラス関係遺物も172次調査区が多量で、これと一連のものである。

調査報告書は2008度に刊行予定である。

1. 調査地点の位置（49 天神 0121　1:8000）

2. 第1面硬化面（南東から）



3. 第3面全景（東から）

0755 麦野A遺跡第20次調査（MGA-20）

所在地	博多区麦野3丁目10番11	調査面積	515.5㎡
調査原因	共同住宅建設	担当者	榎本 義嗣
調査期間	2007.12.4～2008.2.12	処置	記録保存

位置と環境　麦野A遺跡は、福岡平野を北流する御笠川と那珂川に挟まれた洪積段丘上に展開する遺跡で、本調査地点は、同遺跡の東端部緩斜面に立地する。遺構面である鳥栖ローム層は、調査区西側約2/3では、表土直下で確認できるが、東側では傾斜し、その上層に黒褐色粘性土が自然堆積する。遺構面の標高は、西側で15.4m、東側で12.8mを測る。

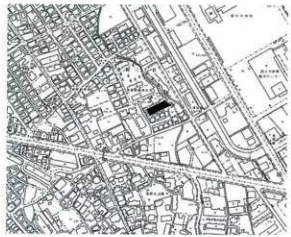
検出遺構　今回の調査で検出した主な遺構は、縄文時代と考えられる落とし穴、弥生時代の竪穴住居・貯蔵穴・土坑、古代の竪穴住居、中世の土坑・溝・井戸・ピット等である。

このうち、落とし穴3基は、一辺１m前後を測る隅丸長方形を呈し、黒褐色土が均一に堆積する。2基の底面には小ピットが認められた。また、円形プランの貯蔵穴は、断面フラスコ形を呈し、弥生時代前期中頃に位置付けられる。古代の方形竪穴住居は、1辺約4mで、幅広の壁溝が巡る。中世遺構のうち、溝（SD008）よび井戸は戦国期の所産である。SD008は北西－南東方向に直線的に延びる幅3.5m、深さ1.7mの大溝で、断面は逆台形を呈する。径1.5mの円形素掘り井戸は、深さ4m以上を測り、底面では湧水が著しい。大溝と同時期と考えられる。

出土遺物　弥生土器や古代の須恵器、戦国期の土師質土器、瓦質土器、朝鮮王朝陶器、明代白磁等がコンテナケースにして8箱出土した。

ま と め　北側の第18次調査区で確認されている弥生時代前期の貯蔵穴群の分布範囲を把握することができた。また、戦国期のSD008は、周辺調査成果から、本調査区を東辺とする南北約1町、東西1.5町程度の方形区画に復元することができ、城館の周囲を巡る空堀の可能性が高い。

調査報告書は2008年度に刊行予定である。



1．調査地点の位置（12 麦野 0048 1:8000）

2．調査区西側全景（西から）

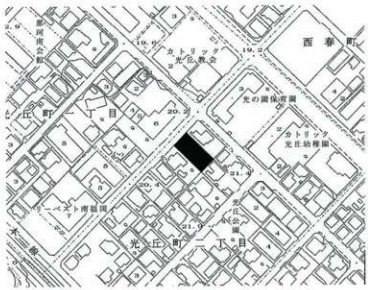
3．SD008（北西から）

0756　中ノ原遺跡第２次調査（NHH-2）

所 在 地　博多区光丘町２丁目６番　　調査面積　18.2㎡
調査原因　専用住宅建設　　担 当 者　上角智希
調査期間　2007.11.27　　処　　置　記録保存

調査に至る経緯

平成19年11月７日に上記地内における専用住宅建設の届出があった。敷地の地面が道路よりも約140cm高いため、11月20日に手掘りで試掘を行ったところ、南側－10cm、北側－60cmで鳥栖ロームを検出した。そのため、原因者と協議を行い、ベタ基礎の工事ではあるが、現地表に10cmの盛土を行うこととし、それでもなお遺跡に影響がある部分については発掘調査を行うことになった。発掘調査は11月27日に行った。ほかの部分については、基礎工事の際に工事立会を行い、遺跡への影響がないことを確認した。



調査地の現況（北から）（13　雑餉隈　2816　1:4000）

位置と環境

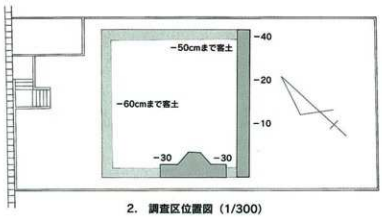
中ノ原遺跡は、雑餉隈遺跡の東側の丘陵に立地し、その間に小さな谷を挟む。南北に細長い丘陵のほぼ中央に第2次調査地点が位置する。なお、第1次調査は遺跡の北端で実施されているが、当時は雑餉隈遺跡に含まれていたため、雑餉隈遺跡第2・3次調査（同じ敷地内）と名付けられた（市報409集、『中南部（4）』、1994年）。奈良時代の竪穴住居址10軒が検出されている。

検出遺構と出土遺物

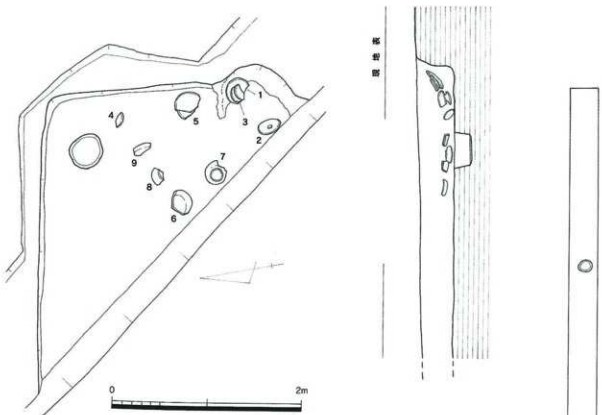
トレンチ2ヶ所を調査し、竪穴住居址１軒（SC01）と柱穴2基を検出した。

SC01では、竈を検出した。竈は灰色粘土でつくられているが、住居の廃棄の際に破壊されており、掘り下げ中に周辺から灰色粘土のブロックが出土した。また、竈内の位置から完形の須恵器の坏蓋が出土し、竈祭祀が行われたものと思われる。竈が東壁の中央に設置されたと仮定するならば、東壁の長さは約4.6mに復元される。現存の深さは40cm弱である。

狭い調査面積ながら、図化可能な須恵器が9点出土した（遺構図内の土器の番号は遺物実測図の遺物番号を示す）。器種は坏蓋、坏、高皿である。焼きが若干あまく灰色を呈するものが多く、5の高皿は皿部がひずんでいる。これらの遺物より、SC01の時期は奈良時代に位置づけられる。



2. 調査区位置図（1/300）



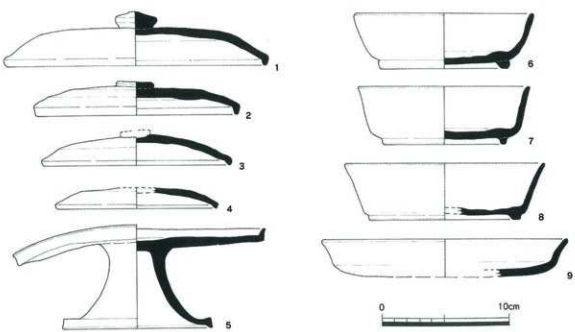
3. SCO1　実測図（1/40）

4. 遺構位置図（1/100）

まとめ

本調査では、奈良時代の竪穴住居址１軒を検出した。住居の竈内から完形の須恵器坏蓋が出土し、竈祭祀に伴うものと考えられる。須恵器の質はあまり良好でなく、生活必需品以外の遺物は出土しない。これは雑餉隈遺跡周辺の当該時期の住居に概してあてはまる特徴である。

本遺跡一帯は古くからの住宅街であるため、これまで調査事例が少ない。しかし、地表直下に鳥栖ロームが残っている場所があり、今後、建替えの際に発掘調査が必要になる事例が出てこよう。



5. SC01　出土遺物（1/3）

6. 調査地の現況（北から）

7. SC01（西から）

0757 西新町遺跡第22次調査（NSJ－22）

所 在 地　早良区西新6丁目1－10
調査原因　体育館解体
調査期間　2007.11.28～2008.2.28
調査面積　約1257㎡
担 当 者　下原　幸裕（福岡県教育庁）
処　　置　記録保存

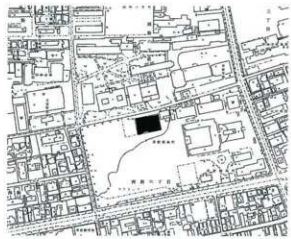
位置と環境　西新町遺跡は早良平野の北東部に位置し、博多湾の沿岸に形成された砂丘上に立地する。遺跡の標高は海抜2.5m程度で、わずかに海側に向かって傾斜する。

検出遺構　体育館建設時の基礎が一部遺構面まで達しており、破壊を受けた遺構も少なくない。遺構は、弥生時代末の竪穴住居跡8軒、古墳時代初頭の竪穴住居跡2軒、近世から近代にかけての土坑約50基、井戸2基、溝12条、ピットなどである。弥生時代の住居は方形ないし長方形を呈し、多数の土器や、砥石・石斧片などが出土した。古墳時代初頭の2軒は、いずれも竈を設けている。近世以降の遺構の中には、寛永通宝1枚が入った壺が正置されたピットもあり、胞衣埋納遺構である可能性も考えられる。

出土遺物　竪穴住居跡からは多数の弥生土器や土師器が出土したが、甕や高杯が主体である。古墳時代の住居からは、細かな格子叩きを施した韓半島系土器が出土し、竈の採用とともに注目される。また、住居内で石錘未製品が出土したが、包含層からも同時期のイイダコ壺や土錘などが出土している。近世以降の遺構からは陶器・磁器・土師器などの日用雑器のほか、寛永通宝やキセルの吸口なども出土した。このほか、高取焼や窯道具（ハマ・トチンなど）も比較的多く出土し、遺跡の南300mほどに位置する高取焼東皿山窯と関わる遺物として注目される。

まとめ　今回の調査で確認した竪穴住居群は、過去の調査で発見された集落の縁辺部に相当する。おそらく集落は調査地南側の運動場部分に広く分布するものと推定される。近世以降に関しては、南北や東西に走る溝を検出しており、多少の区画を伴う宅地が存在した可能性もある。

調査報告書は平成20年度に刊行予定である。



1．調査地点の位置（72　荒江0240　1：8000）

2．住居2 遺物出土状況（北西から）

3．住居8 竈検出状況（北西から）

0758 名子遺跡第3次調査（NAO-3）

所在地	東区名子1丁目地内	調査面積	730㎡
調査原因	道路改良工事	担当者	今井隆博
調査期間	2007.12.5～2008.2.1	処置	記録保存

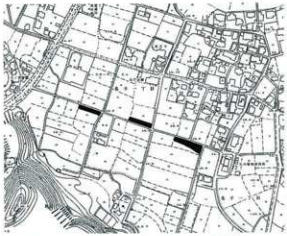
位置と環境　名子遺跡は多々良川・須恵川・宇美川などの沖積作用により形成された粕屋平野に位置し、城ノ越山の麓、丘陵に挟まれた猪野川による狭い沖積地に立地する。周辺には江辻遺跡、蒲田部木原遺跡、三角縁神獣鏡が出土した天神森古墳などがある。

検出遺構　3ヶ所の調査区を西から1・2・3区とした。1区・2区からは縄文時代後期の遺構を検出した。1区では径1～2mの土坑4基を検出したが、性格は不明である。2区は包含層とともに、焼土を伴う住居址と思われるものや貯蔵穴、土坑、柱穴を検出した。3区では弥生時代前期～中期の溝と土坑を検出した。土坑からは前期の土器がまとまって出土している。溝の遺物は前期土器が中心であるが、上層では中期土器を含んでいる。

出土遺物　1・2区では阿高系から磨消縄文の土器が出土した。2区の包含層からは石斧・石鏃など石器も多くみられる。3区からは弥生時代前期の土器を中心に前期～中期の土器が出土した。遺物総量はコンテナケース30箱分で、大半は2区出土の縄文土器である。

ま と め　本地点は包蔵地外であったが、今回の調査で名子周辺の沖積地には縄文～弥生時代の遺跡が広がることが確認された。現況は平坦な水田だが、旧地形は猪野川により形成された谷が南北方向に走っており、微高地部分に遺跡が残っているものと思われる。旧地形では高所にあたる2区に縄文時代の集落が広がり、1区西側の県道付近には河川が流れていたようである。3区で検出した溝は灌漑用水路であろうか。周囲の低地部分には水田が営まれていた可能性がある。

調査報告書は2009年度に刊行予定である。



1．調査地点の位置（8　土井　2829　1:8000）

2．2区全景（西から）

3．縄文土器出土状況（西から）

0759 今宿地区古墳群第４次詳細分布調査

所 在 地　西区今宿　　調査面積
調査原因　保存目的（分布調査）　　担 当 者　菅波正人
調査期間　2007.12.6～2008.3.31　　処　　置　現状保存

位置と環境　今宿平野の後背地となる高祖山山麓から丘陵末端にかけて複雑に開析された尾根には、古墳時代後期の群集墳が形成される。また、丘陵末端の段丘には古墳時代前期以降の前方後円墳が築造される。今宿地区にはこれまで350基を超える古墳が確認され、市内でも有数の古墳の群集する地域とされる。今回の調査は平成16年度から継続して実施している、踏査による古墳の分布調査と既存の古墳の公共座標の記録を目的とするものである。記録はGPSを使用し、古墳の所在地の公共座標を測定し、分布図を作成して、現況での遺存状況の写真撮影を行った。

検出遺構　今回踏査した地域は鋤崎古墳が位置する今宿地区古墳群の東側丘陵部に当たり、既存の踏査でも比較的古墳の分布が散漫な場所でもある。踏査により、新規に12基の円墳を確認した。

ま と め　今回の調査で平成16年度より実施されてきた分布調査はひとまず終了した。これまでの調査で新規に153基の古墳が確認され、既存のものと合わせて、503基の古墳が分布するという成果が得られた。また、古墳群の現状を確認できたことで、今後の古墳の保存に向けての一助となると考えられる。従来指摘されていたように、丘陵先端に前期から継続して造られた前方後円墳は6世紀中ごろ以降、山麓部の造られるようになり規模も小型化していく。群集墳についてはそれに呼応するように形成が始まっていく。個別の群集墳については詳細は触れられないが、今宿地区の中でも古墳の立地や分布の在り方には相違が見られ、古墳群の形成を考える上でも興味深いものがある。

分布調査報告書は21年度に刊行予定である。

1.調査地点の位置(112　今宿　1:40000)

2．調査風景（西から）

3．油坂古墳Ａ群１号墳石室（南から）

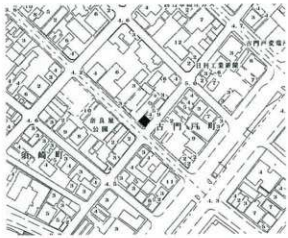
0760 博多遺跡群第181次調査（HKT-181）

所 在 地　博多区古門戸町3-6
調査原因　個人住宅
調査期間　2007.12.20
調査面積　19.8㎡
担 当 者　宮井善朗　上角智希
処　　置　慎重工事

位置と環境　博多遺跡群第181次調査地点は、遺跡群の北西隅付近に位置する。北隣には音二郎稲荷があり、周辺には122次、78次調査地点などが位置する。

調査の経緯　2007年11月19日付で、匠永工務店株式会社より、上記地点における個人住宅建築に先立って事前照会が行われた。建築計画によると、小規模の杭が40本程度入る設計で、本調査が必要と判断された。しかし周囲の状況から遺構面は現GL-2m以下と推定され、また工法上土留めを行わないとのことなので、安全上発掘調査は不可能と判断した。かわりに安全に留意しつつできるだけ広面積に試掘を行い。地下の状況を把握することにつとめた。ただし、指導事項としては慎重工事とし、後日調査可能な状況で再開発が計画された際には、発掘調査を行う旨申請者に回答した。なお、下記のような遺物が出土したため、発見届を提出し、また収蔵のため調査番号を付し、ここに報告するものである。

検出遺構　試掘トレンチはFig.1･2の通り、反転しながら2箇所に設定した。トレンチ1は井戸の類の大形の土坑を掘りぬいたものと思われる。盛り土の下位から暗褐色土が堆積する。遺構自体は近世以降か。-3mまで掘ったが地山に当たらない。-240cm（標高約2.5m）で、銅鏡と白磁が重なった状態で出土した。まぎれこみか、大形土坑に切られた別遺構かは不明。トレンチ2ではGL-140cm程度から遺構の切りあいを確認できる。ただし、中世の層は周囲の状況から推定しても、GL-2m程度からと考えられる。-320cm（標高約1.5m）で、黄白色の地山砂層に達し、この面にも遺構が認められる。



1. 調査地点の位置（49　天神　0121　1:8000）

2. トレンチ2

3. 出土遺物

出土遺物（Fig.3・4）

銅鏡と白磁皿が重なった状況で出土した。白磁皿は銅鏡の鏡背側に口縁を接し、鏡縁にはめ込まれたような状況であった。1は白磁である。口径7.9cm、器高2.6cmを測る。口縁は丸く、体部が開く。見込みの釉を輪状にかき取る。外面は体部下半から高台にかけて露胎である。2は銅鏡である。白磁との間に内容物が合った可能性があるが、まだ鏡背の付着物の分析を終えておらず、付着物の除去、洗浄も終えていない。したがってX線写真をもとに現在判明していることのみ報告する。径9.2cm、鏡縁の高さ0.9cmを測る。鏡縁は直立し、鏡面は凸面を呈する。鏡背は外区と内区に分けられ、外区は2条の圏線が巡る。文様は内区のみに描かれ、下方より流水文、その上に老松文を描く。鶴など鳥文の存否は不明である。

まとめ

出土した遺物の時期は15世紀代と考えられる。出土遺構は不明であるが、出土状況から見て、原状を大きく改変されているとは考えにくい。ここで調査区周辺の、該期の状況を概観してみる。181次調査区のすぐ北側の165次調査区では、G.L.-1.5m（標高3.2m）で15～16世紀の整地面、G.L.-2.2m（標高2.5m）で14世紀の整地面が検出されている。また南側の78次調査では標高2.4～2.6mの第2面で14世紀～15世紀の遺構が検出されている。181次地点では遺物は標高2.5mほどで検出されており、これは周囲での14～15世紀の遺構面の標高として矛盾ない。息浜西部は、前述したものをはじめ周辺調査の各報告書でも指摘されているように、12世紀ごろから都市化が始まり、13世紀に海岸線に沿って元寇防塁が築かれ（68次、103次、111次）、以後これに沿った街区が形成され、都市化が進む。今回出土の遺物も、この歴史的経緯の中に収まるもの考えられる。

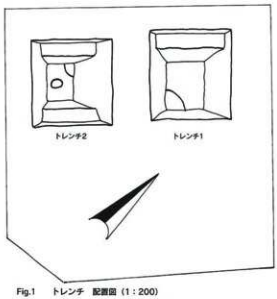


Fig.1　トレンチ　配置図（1：200）

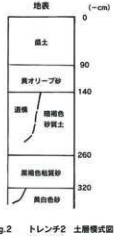


Fig.2　トレンチ2　土層模式図
（1：100）

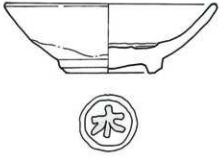


Fig.3　出土遺物（1：2）

Fig.4　出土鏡X線写真

0761 比恵遺跡群第113次調査（HIE-113）

所在地	博多区博多駅南4丁目122番2	調査面積	158.18㎡
調査原因	共同住宅建設	担当者	屋山　洋
調査期間	2008.1.10～2.18	処置	記録保存

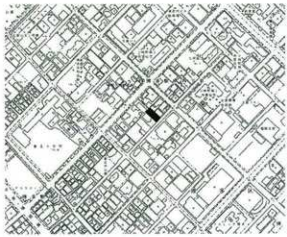
位置と環境　比恵遺跡群は那珂川の右岸に沿う低丘陵上に位置する。調査地点は丘陵の中央部に位置し、南側隣接地の5次調査では竪穴式住居や掘立柱建物群、溝など弥生時代中期から古代にかけての遺構が密に出土している。また北側100m付近から西側の春住小学校付近にかけては6世紀後半の3本柵に囲まれた掘立柱倉庫群が分布しており日本書紀にみられる那津官家の関連施設と考えられている。

検出遺構　本調査地点は南側の5次調査地点より遺構検出面の標高が50～70cmほど低く、削平を受けているためか竪穴式住居などの遺構は出土していない。検出した遺構は弥生時代が大型掘立柱建物の柱穴に土坑を多数と柱穴群。古墳時代後期から古代の遺構として溝と柱穴群、あとは近世の溝を確認した。弥生時代の大型掘立柱建物は遺構のほとんどが調査区外に延びているため建物の規模は不明であるが、周囲の調査からすると1×2間程度の建物と思われる。柱穴は2m×1.2mの長方形で検出面からの深さは1.5m、柱の太さは30cm前後で柱間は芯々で約4mを測る。古墳時代後期から古代の溝は幅70cm、検出面からの深さ50cmを測る。

出土遺物　遺物はコンテナケースで30箱出土した。大型掘立柱建物からは径15cmの丸太を半裁した礎板が出土している。柱穴や土坑から出土した土器はほとんどが細片で時期が不明なものが多いが、時期がわかるものとしては弥生時代後期後半の遺物が多く出土している。

ま と め　調査区中央に近世の溝があるなど後世の削平を大きく受けている。本調査区で出土した遺構の多くは弥生時代で、柱間が4mを測るような大型の掘立柱建物が出土した。

調査報告書は2008年度に刊行予定である。



1. 調査地点の位置（37　東光寺　0127　1:8000）

2. Ⅱ区全景（北西から）

3. 大型掘立柱建物礎板出土状況

0762 箱崎遺跡第60次調査（HKZ-60）

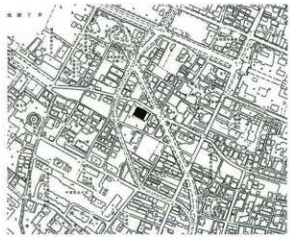
所 在 地　東区箱崎5丁目510番地内　　調査面積　630㎡
調査原因　墓地改葬　　担 当 者　小林義彦
調査期間　2008.1.21～3.27　　処　　置　記録保存

位置と環境　箱崎遺跡は、博多湾の東部に注ぎ込む宇美川下流の左岸に拡がる砂丘上に立地する。第60次調査区は、この箱崎遺跡の南西部に位置し、調査地から南へ100mほどの距離には筥崎宮がある。調査地周辺では、南接する馬出東浜線の新設（第27・28・37次調査）やJR九州鹿児島線の立体交差事業（第20・22・26・30・40次調査）等に伴う調査で11世紀～17世紀の建物跡や埋葬遺構等が検出されており、門前町「箱崎」の様相が明らかになりつつある。

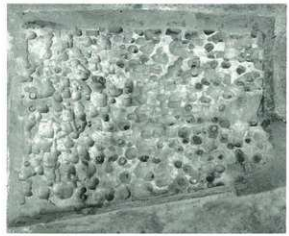
検出遺構　発掘調査では、中世の溝と近世の墳墓遺構を検出した。中世の溝は、溝幅が300～350cm、深さが50～80cmの大溝で、南北方向に直線的に延びている。近世の墳墓は、陶器甕と桶棺を用いたものがある。このうち甕は厚めの板石で覆って蓋としている。一方、桶棺は棺底の一部を残して朽ちているが、館内には六道銭のほか鋏や毛抜き、陶器皿、土師器小皿を副葬し、小箱に納めたものもある。また、56号墓は一辺が75cm×80cmの箱棺で四隅を角釘で留めていた。

出土遺物　陶器甕や桶棺の中には、鉄鋏や毛抜き、銅銭、陶器の皿や小碗のほか土師器小皿が1～4枚棺底に副葬されていた。また、大溝や包含層からは龍泉窯系青白磁などの輸入磁器などがコンテナケース22箱ほど出土した。

ま と め　本調査区で検出した遺構は、1条の大溝を除いて近世の墳墓が主体を占める。墳墓は陶器甕と桶棺で近世墓地の特徴を示しているが、墓碑が伴わず明確な時期は明らかにし難いが、概ね18世紀後半～幕末頃と考えられる。また、中世の遺構の希薄さは古砂丘の縁辺に位置する占地的条件の制約に規制されたものであろう。この傾向は周辺の調査でも示唆されている。



1. 調査地点の位置（34　箱崎　2639　1:8000）



2. 調査区全景（西から）

3. 43号墓遺物出土状況（東から）

0763 元岡・桑原遺跡群第52次調査（MOT-52）

所在地	福岡市西区元岡字二叉	調査面積	3,000㎡
調査原因	大学移転用地造成	担当者	常松幹雄
調査期間	2008.1.21～継続中	処置	記録保存

位置と環境　52次調査区は、平成16年度に開始した42次調査区（調査継続中）の北側約3,000㎡にあたり、調整池の建設が予定されている。旧地形は糸島半島の東に位置する今津湾の最奥部に面した丘陵の南斜面に立地する。南には三雲・井原遺跡群、南東には古代山城の怡土城が見渡せる。

検出遺構　検出遺構は調査区の東西にはしる旧河川の上流部と両者にはさまれた中州の柱穴群である。

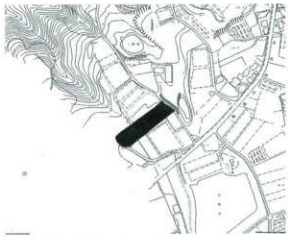
西側河川は前原市域の台地部に立地する泊遺跡群から流れ出た小河川と合流し、土器や石器など多量の遺物を包含している。また河川の下層では多量の木製品が含まれている。

42次調査区で検出された西側河川下流域では川幅が20m程度であるのに比して、50m上流ではおよそ10mに狭まっている。西側河川の東岸と中州の間には半月形のテラスが確認された。テラスの周囲ではとくに木製品の分布密度がたかい。

河川に堆積した土器は弥生中期後半から古墳時代前期を主体とし、とくに西側河川の上流域ではⅠ型式段階後半の須恵器を含んでいる。これらの包含層は河川上流を覆っており、泊遺跡群側から5世紀代以降に整地が行われた可能性がある。

出土遺物　出土遺物は土器類のほか石錘や石包丁、砥石、擦石などの石器類がある。木製品には三叉鍬や鋤などの農具、竪杵、臼、刳り抜きの桶、鉄斧の柄などがある。その量はコンテナケースで約1,000箱にのぼる。

ま と め　52次調査と並行して調査を継続している42次調査区にかけて多量の丹塗り土器が出土しており周辺域で祭祀が継続して行われたことを示している。



1. 調査地点の位置（140　元岡　2782　1:8000）

2. 調査区全景（南から）

3. 西側河川木製品出土状況（南から）

0764 四箇古川遺跡第3次調査（SHK-3）

所在地	早良区四箇4丁目地内	調査面積	600.0㎡
調査原因	道路建設	担当者	阿部泰之
調査期間	2008.2.4～3.31	処置	記録保存

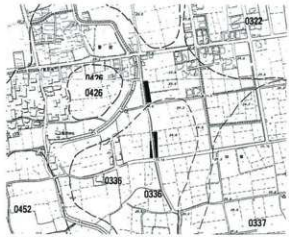
位置と環境　調査地点は早良平野の南部に位置する。周辺の現況は住宅地から離れた水田地帯である。遺構検出面は拳大～人頭大の円礫を多く含むシルト～砂礫層で北に向かって標高を下げる。

検出遺構　今回の調査で検出した遺構は、掘立柱建物2棟・竪穴住居1軒、溝1ないし2条、土壙3基、ピット多数である。

出土遺物　出土遺物は溝から弥生土器が、浅い凹み状の土壙から縄文土器が出土した。遺物の総量はコンテナケースで7箱分である。

ま と め　今回の調査では、縄文時代から弥生時代にかけての遺構を検出した。縄文時代の遺構は北調査区で検出した浅い凹み状の土壙で、遺物からは後期に遡る可能性もあるが晩期の遺構と推測される。弥生時代の遺構は南調査区で検出された溝と竪穴住居である。掘立柱建物は遺物僅少で時期は不明だが、形態からみて弥生時代の所産とみられる。何れも時期は前期後半～末頃とみられ、住居址は特徴的な中央土壙とそれに付随するピットからいわゆる松菊里型の竪穴住居とみられる。遺跡群の中心は調査地の南～南西側で、弥生時代前期の集落が広がる可能性が指摘される。

調査報告書は2009年度に刊行予定である。



1. 調査地点の位置（85　入部　0336　1:8000）

2. 南側調査区全景（南から）

3. 松菊里型円形住居（南より）

0765 井尻B遺跡第31次調査（IZB-31）

所 在 地　南区井尻5丁目160番6
調査原因　専用住宅の建て替え
調査期間　2008.3.3～3.21
調査面積　103.5㎡
担 当 者　屋山　洋
処　　置　記録保存

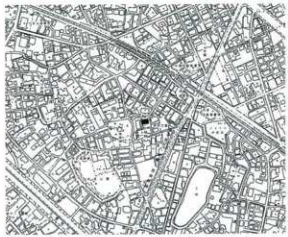
位置と環境　井尻B遺跡は那珂川の右岸に沿う低台地上に位置する。井尻駅南側の2次調査で細石刃等の旧石器が出土しているが、その後の縄文時代は遺構・遺物共に少ない。弥生時代中期から遺構がまとまって出土し始め、後期後半から古墳時代初頭には台地全体に集落が広がる。その後遺構は少なくなるが、7世紀後半になると遺跡の北半で多量の瓦と溝や大型掘立柱建物などの遺構が見られるようになり、寺院もしくは官衙が存在したものと考えられている。

検出遺構　現地表下70cmで黄褐色ローム層に達する。畑の造成時に削平を受けており遺構の遺存状態は不良である。弥生時代後期後半の竪穴式住居3軒と柱穴群、弥生時代後期から古墳時代の可能性がある溝1条、須恵器の大甕片が出土した古墳時代の土坑1基を確認した。竪穴式住居2軒は周溝のみの遺存であるが、残り1軒は短辺にベットを持ち、井尻B遺跡では弥生時代終末に多く見られるタイプの住居である。

出土遺物　調査区全体でケース1箱の遺物が出土した。そのうちほとんどが竪穴式住居と溝からの出土である。竪穴式住居からは弥生時代後期後半の甕や高坏片等が出土し、竪穴式住居を切る土坑からは須恵器大甕片が出土した。調査区南西隅で検出した溝からは弥生時代後期の甕棺がまとまって出土している。

ま と め　弥生時代後期から古墳時代の集落である。弥生時代後期から古墳時代と思われる溝は調査区の隅に位置しており、北側の縁を確認しただけで幅や深さは不明であるが、南側100mに位置する2次調査では5世紀末の円墳である井尻B1号墳が確認されており、おなじく古墳か方形周溝墓の周溝である可能性も考えられる。

調査報告書は2009年度に刊行予定である。



1. 調査地点の位置（25　井尻　0090　1:8000）

2. 調査Ⅰ区全景（西から）

3. 竪穴式住居床面（西から）

0766 五十川遺跡第16次調査（GJK-16）

所在地	南区五十川2丁目590番4	調査面積	115.2㎡
調査原因	個人住宅建設	担当者	榎本 義嗣
調査期間	2008.3.3～3.21	処置	記録保存

位置と環境　五十川遺跡は、福岡平野を北流する御笠川と那珂川に挟まれた洪積段丘上に展開する遺跡で、本調査地点は、同遺跡北西部の西側緩斜面に立地する。表土および客土下に遺構面である鳥栖ローム層が認められ、その標高は、東側で9.0m、西側で8.6mを測る。

今回の調査で検出した主な遺構は、弥生時代の溝、戦国時代の溝・土坑・ピット等である。

弥生時代の溝は、幅0.7m、深さ0.8mを測り、断面「Y」字形を呈する東西方向のものである。調査区南端で確認したため、大半は北側の肩部のみの検出にとどまり、また、東西両端部が調査区外に延長するため、全容は不明である。遺物は少量であるが、突帯文土器甕が出土しており、早期から前期の所産と考えられる。

戦国時代の溝は、調査区北側を東西方向に延伸し、調査区外へ延びる。幅3.7m、深さ1.0mで、断面は逆台形をなす。土層から数度の掘り直しが認められる。

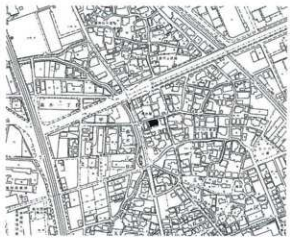
また、少数の土坑やピットは、出土遺物が少量であるが、戦国期の溝の覆土と類似した色調であることから、同時期と推定される。

弥生土器甕や戦国期の土師質土器鍋、瓦質土器擂鉢、朝鮮王朝陶器、明代龍泉窯系青磁等がコンテナケースにして2箱出土した。

出土遺物　人為的な掘削である弥生時代の溝は、土層堆積状況から水路ではなく、環濠と想定される。また、戦国期の溝は、掘削時期や規模から城館等を

まとめ　取り囲む堀であると推定されるが、周辺調査例が少ないことから、双方の溝とも詳細を把握するには至っていない。該期の貴重な資料である両溝の全容や機能、溝内部の構造等の解明については、今後の調査に期したい。

調査報告書は2009年度以降に刊行予定である。



1. 調査地点の位置（24　板付　0088 1:8000）

2. 調査区西側全景（東から）

3. 弥生時代の溝（西から）

0767 野間B遺跡第4次調査（NOB-4）

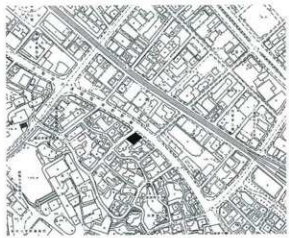
所在地	南区向野2丁目17-2	調査面積	210.35㎡
調査原因	専用住宅建設	担当者	加藤良彦
調査期間	2008.3.4～2008.3.27	処置	記録保存

位置と環境　調査区は野間B遺跡が立地する丘陵から北東に延びる支丘の先端部付近に立地する。現況は宅地で、現地表高で10.9～11.3mを測る。前面道路から南西に幅9m程は10～40cm程の表土・客土下で明黄褐色の古第三紀層岩盤・再堆積層が地山となり、標高は10.8mを測る。包含層は遺存しない。以西は幅13m以上にわたって水成堆積層が複雑に堆積する。周辺では丘陵上で第1～3次調査が実施され、弥生住居・古墳後期円墳等が調査されたのみである。

検出遺構　検出した遺構は、8世紀初頭に整地され8世紀前半まで使用された道路状遺構1条と、8世紀初頭以前に掘削された大溝2条である。

出土遺物　遺物は、8世紀初頭～8世紀前半までの須恵器・土師器・瓦・丸太材、近世～近代陶磁器などコンテナケース2箱分検出している。

まとめ　8世紀初頭以前に、幅20m以上にわたって丘陵を切り通し、山側に幅15m以上深さ3m程の大溝SD01を掘削する。多量の粗砂が流入し大半が埋没した段階で、この北東側（裾側）に並行して幅6m深さ2.5mの大溝SD02を掘削する。方位はN－40°－Wである。ともに路面は北東側に設置したと考えられるが、削平され遺存しない。このSD02がシルト・粘質土で緩やかに埋没した8世紀初頭、直上を厚さ30cm程の地山粘土による客土で整地し、幅5m程の路面に改変する。上面には暗灰褐色粘質土が堆積し、8世紀前半の須恵器が包含される。大宰府水城西門と鴻臚館東門とを結ぶ官道の推定位置に近く、前後する二つの大溝の埋没・道路付け替えが8世紀初頭であり、最初の切り通し開削時期は水城築城時と同時期の可能性もある。



1. 調査地点の位置（38　塩原　0130　1:8000）

2. 道路状遺構（北東から）

3. SD01・02調査グリッド（北西から）

0768 元岡・桑原遺跡群第53次調査（MOT-53）

所 在 地　福岡市西区大字桑原字金糞　　調査面積　770㎡
調査原因　大学造成　　担 当 者　池田祐司
調査期間　2008.2.19～4.9　　処　　置　記録保存

位置と環境　金糞池が存在する谷の南東側の尾根末端には経塚古墳がある。調査地点はその北西向き斜面に位置し、谷が平地に向かって広がる裾部にあたる。49次調査区で検出した遺構の続きである。現況は水田で調査区の南東側は耕地造成による削平を受けている。標高は5.4m～3.6mである。

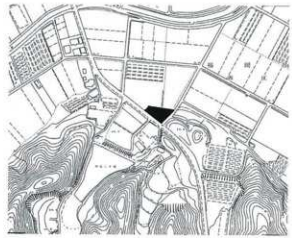
検出遺構　南東半の台地部で掘立柱建物5棟を検出した。北西、北東側が削平されていることを考慮すれば、さらに数棟が存在したと考えられる。建物は重なり具合から、少なくとも三時期におよぶ。

北西側は谷底への斜面となり、8世紀代の遺物包含層が堆積する。またこの包含層を切るSK005内には三方を矢板で囲む構造があり、井戸状を呈す。

出土遺物　掘立柱建物の柱穴からは若干の土師器と8世紀代の須恵器が出土した。包含層からは須恵器、土師器、鉄滓のほか、巡方、馬の歯が出土している。8世紀代の包含層の下は黒色粘質土、砂礫層となり、布留式の甕が1点出土している。井戸状の遺構からは黒色土器、土師器、須恵器、伊都城瓦等が出土している。

ま と め　掘立柱建物の時期は、堀方から8世紀代の須恵器が少量ながら出土していること、近接する遺物包含層のから8世紀代を想定している。

2×2間の総柱建物の存在、巡方の出土は、検出遺構が49次地点と同様に官衙的性格を持つことを類推させる。



1. 調査地点の位置（140　元岡　2782　1:8000）

2. 調査区全景（西から）

3. SK005（北西から）

0769 大塚遺跡第15次調査（OTS-15）

所 在 地　西区今宿町地内
調査原因　区画整理
調査期間　2008.2.28～2008.4.25
調査面積　1,830㎡
担 当 者　森本幹彦
処　　置　記録保存

位置と環境　調査対象地は、今宿平野の中央南側、国史跡・今宿大塚古墳の西側の台地上に位置しており、14次調査地点の隣接地になる。大塚遺跡の西縁辺部である。遺構面の標高は南部が8m前後、北部が5.5m前後である。調査区北端は高祖山から伸びる尾根の先端近くとみられる。

検出遺構　主な遺構は、弥生時代終末期前後の竪穴住居2軒、古墳時代中期前半の竪穴住居3軒、掘立柱建物1軒、古代の焼土坑4基、古代～中世の掘立柱建物柱穴多数、中世の方形竪穴状遺構1基である。また、14次調査でみつかっていた横口付炭焼窯の煙道を検出することができた。炭窯の全長は11mに及ぶ。焼土坑は炭焼窯の1種とみられるが、2基が14次調査の製鉄炉に近在しており、セット関係にあるとみられる。中世の方形竪穴状遺構は床面の柱穴や土層の観察から内部に木室が構築された地下式の蔵とみられる。使用後は人為的に埋め戻されている。

出土遺物　土師器を中心としてコンテナケース10箱程度が出土した。古墳時代中期では製塩土器とみられる小型土器が10点余り出土している。また、格子目タタキの韓半島系軟質甕が竈内部などから出土しており、注目される。

ま と め　台地中央部は攪乱が著しく、遺構はほとんど残っていなかったが、台地縁辺部を中心として14次調査と連続する遺構の分布を確認することができた。古墳時代中期までの遺構は台地の西半を中心に分布しており、北部ではみられないが、古代から中世の遺構は台地の東部を中心に、台地先端付近まで分布している。古代の製鉄関連遺構は奈良時代のものが多いと考えているが、横口付炭焼窯については7世紀に遡る可能性が出土遺物などからも窺える。

報告書は2010年度刊行予定である。

1. 調査地点の位置（112　今宿　0625　1:8000）

2. 調査区と大塚古墳全景（西から）

3. 横口付炭焼窯（北から）

Ⅵ　平成19年度刊行報告書一覧

集	書　名	副題等	調査番号	編　集
970	麦野Ｃ遺跡５	－麦野Ｃ遺跡第12次調査報告－	0746	小林 義彦
971	有田・小田部４５		7829	力武 卓治
972	飯倉Ｆ遺跡２	－飯倉Ｆ遺跡第4次・第5次調査報告－	0607・0649	阿部 泰之
973	井尻Ｂ遺跡１７	－井尻Ｂ遺跡第27次調査報告-	0629	小林 義彦
974	井尻Ｂ遺跡１８	－井尻Ｂ遺跡第28次調査報告-	0658	赤坂 亨
975	井相田Ｃ遺跡６	－井相田Ｃ遺跡第７次調査報告-	0608	屋山 洋
976	蒲田部木原遺跡群８	－蒲田部木原遺跡群第10次調査報告－	0556	中村 啓太郎
977	蒲田部木原遺跡群９	－蒲田部木原遺跡第11次調査報告－	0640	阿部 泰之
978	五十川遺跡４	－五十川遺跡群第15次調査報告－	0610	荒牧 宏行
979	重留村下遺跡４	－重留村下遺跡群第５次調査報告－	0621	加藤 良彦
980	戸切遺跡１	－戸切遺跡群第２次調査報告－	0605	加藤 良彦
981	那珂４８	－那珂遺跡群　第112次調査の報告－	0602	加藤 隆也
982	那珂４９	－那珂遺跡群第113次調査報告－	0618	荒牧 宏行
983	那珂５０	―那珂遺跡群第115次調査の報告―	0661	久住 猛雄
984	西新町遺跡１０	－第19次調査報告－	0632	今井 隆博
985	西新町遺跡１１	－第21次調査報告－	0643	今井 隆博
986	野多目Ｂ遺跡２	－野多目Ｂ遺跡群第２次調査報告－	0653	赤坂 亨
987	野芥遺跡５	－野芥遺跡群第12次調査報告－	0360	加藤 良彦
988	博多１１８	－博多遺跡群第157次調査報告－	0660	荒牧 宏行
989	博多１１９	－博多遺跡群第158次調査報告－	0564	星野 惠美
990	博多１２０	－博多遺跡群第160次調査報告－	0601	赤坂 亨
991	博多１２１	－博多遺跡群第163次調査報告－	0623	榎本 義嗣
992	博多１２２	－博多遺跡群第164次調査報告－	0639	赤坂 亨
993	博多１２３	－博多遺跡群第165次調査報告－	0642	屋山 洋
994	博多１２４	－博多遺跡群第167次調査報告－	0647	小林 義彦

集	書　名	副題等	調査番号	編　集
995	博多125	－博多遺跡群第168次調査報告－	0664	蔵冨士 寛
996	箱崎32	－箱崎遺跡　第53次調査－	0648	蔵冨士 寛
997	箱崎33	－箱崎遺跡第52次調査の報告－	0626	久住 猛雄
998	箱崎34	－箱崎遺跡第54次調査報告－	0650	荒牧 宏行
999	箱崎35	－箱崎遺跡第57次調査報告－	0671	濱石 哲也
1000	比恵50	－比恵遺跡群第106次調査報告－	0622	屋山　洋
1001	比恵51	－比恵遺跡群第１０７次調査報告－	0628	赤坂　亨
1002	比恵52	－比恵遺跡群第109次調査報告－	0644	小林 義彦
1003	比恵53	－比恵遺跡群第110次調査報告－	0645	榎本 義嗣
1004	比恵54	－比恵遺跡群第111次調査報告－	0666	阿部 泰之
1005	福岡城跡15	－城内整備に伴う確認調査および中堀の緊急調査報告－	9353・9561・9617・9751・0064	田中 喜夫
1006	福重植木遺跡２	－第１次・２次調査報告－	7723・0344	池田 祐司
1007	南八幡遺跡群８	－南八幡遺跡群第１５次調査－	0630	蔵冨士 寛
1008	三宅Ｂ遺跡１	－三宅Ｂ遺跡第１次調査報告－	0606	吉武　学
1009	今宿五郎江７	－今宿五郎江遺跡第10次調査報告(1)－	0420	杉山 富雄
1010	女原遺跡３	－第６次調査の報告－	0625	加藤 隆也
1011	元岡・桑原遺跡群11	九州大学統合移転地内埋蔵文化財調査報告書－第23・30・36次調査－	0019・0240・0341	二宮 忠司
1012	元岡・桑原遺跡群12	第７次調査報告	9813	吉留 秀敏
1013	元岡・桑原遺跡群13	－第20次調査の報告２－	0001	菅波 正人
1014	弥永原６	－弥永原遺跡群第９次調査－	0603	蔵冨士 寛
1015	中南部９	－大橋Ｅ遺跡第１０次調査報告、横手遺跡群第１次調査報告－	0366・0430	山崎 龍雄
1016	金武５－金武地区農村振興総合整備統合補助事業関係調査報告５	－城田遺跡第２次調査４・都地遺跡第６次調査・乙石遺跡第３次調査－	0329・0411・0547・0567	宮井善朗・蔵冨士寛・吉留秀敏・池田祐司
1017	吉武遺跡群21	－金武圃場整備事業に伴う吉武遺跡群第14次調査報告、大北遺跡第１次調査報告－	8827・8838	山崎 龍雄
1018	吉武遺跡群22	飯盛吉武圃場整備関係調査報告書14－総集編－	8102・8234・8335・8416・8518・8535・8650・8752・8838	横山 邦継
1019	五十川遺跡５	－五十川遺跡群第10・11次調査報告－	0229・0314	吉武　学
1020	惣永古墳群５	－惣永古墳群Ⅱ群第４次調査報告書－	0222	瀧本 正志
1021	那珂51	－第102次調査報告－	0454	岡三ヒﾞｯｸ
	福岡市埋蔵文化財年報Vol.21	－平成18(2006)年度版－	0604・0619・0620・0624・0634・0635・0657・0667・0668	吉留 秀敏

Ⅶ　平成19年度福岡市新指定文化財

平成19年度の福岡市新指定文化財は、平成20年２月17日開催の福岡市文化財保護審議会において、６件の文化財について答申を得、平成20年３月24日の福岡市公報により告示された。

指定文化財の概要

指定区分	種別	指定名称	員数	所在地	所有者
有形文化財	絵画	楢崎家歴代肖像	5幅	福岡市中央区	楢崎　繁男
	絵画	磯野家歴代肖像 附 磯野家由緒書・磯野家系譜 2 冊	12幅	福岡市中央区	磯野　元子
	書跡	伊達政宗筆「集諺」 附 小河直諒「添書」・黒板勝美鑑定書等関係書類26点	1巻	福岡市中央区	磯野　元子
	古文書	仙厓「金印」考文	1幅	福岡市東区	鍋島　喜代次
	古文書	千利休書状 附 黒板勝美鑑定書1通	1幅	福岡市中央区	磯野　元子
	歴史資料	「人参三臓圓」看板 附 仙厓筆「三臓圓辨」1巻	1枚	福岡市中央区	楢崎　繁男

１．有形文化財「楢崎家歴代肖像」

楢崎家は志摩郡小金村の出身と伝えられ、総本家先祖次郎吉善西（1750年没）は上須崎町往当たりに「紙屋」を開店し、初代次七（1773年没）は同所で薬店「三臓圓」を開いた。基本的に代々次（治）七を名乗り、屋号を「紙屋」、家紋を「丸（まるまる）」と称した。初代善西については『博多津要録』にも須崎町上紙屋善西として、その記事が見られる。また初代治七の開いた「三臓圓」では朝鮮人参の専売を行っており、文化・文政期（1804～1829年）に最も栄えたようである。肖像はいずれも各個性をよく捉えており、絵師が本人を前にして描いた「寿像」と考えられ、江戸期博多商人の事跡を活き活きと伝える貴重な画像資料である。

２．有形文化財「磯野家歴代肖像」

博多鋳物師として知られる磯野家に残る歴代の肖像画である。磯野家は寛永年間の島原の乱で大筒の玉を鋳造することで、藩から功績を評価され、保護を受けることになった。その後小鋤製造の独占権を得るなど、近世博多を代表する商家の地位を確立し、博多年行事も務めた。また11代七平は第２代の福岡市長も勤めている。初代～12代の肖像のうち初代・５代・７代の肖像には亀井南冥の実弟で崇福寺住持である曇栄の賛、３代には聖福寺仙厓の賛がなされている。また２代・８代の肖像は福岡藩お抱え絵師の衣笠守由の手になるものである。本肖像画群には寿像はないものと考えられるが、博多町人を代表する磯野家の事跡を窺う貴重な絵画資料として、歴史的意義を有している。

3．有形文化財「伊達政宗筆『集諷』」

朝鮮に出兵していた伊達政宗が文禄２年（1593）に梁山の陣中で記した謡曲集で、あわせて24曲の中心部分を記したものである。料紙には金・銀泥で松竹梅牡丹や飛鳥を描き、19紙を継いだ本紙の全長は9.34mである。政宗27歳の筆になるもので、諸芸に秀で、能書家としても知られた政宗の一面を垣間見ることができ、美術的な作品としても近世大名の文芸資料としても貴重な作品である。また本資料は元々黒田25騎の小河（おごう）家に伝えられたものである。「添書」を記した直諒の祖小河傳右衛門は朝鮮での功名が名護屋の秀吉にも聞こえた勇将であり、本資料が政宗から直接傳右衛門に与えられたものか、主君黒田長政を経由したものかなどの、伝来の経緯は明らかでないが、近世大名家の関係を示すものとしても重要な作品である。

4．有形文化財「仙厓『金印』考文」

本資料は博多聖福寺第123世仙厓（1750～1837）が、天明４年（1784）に志賀島から発見された「金印」についての見解とその発見者について記したものである。本紙は紙本で右肩に金印の印影が押されている。その内容は「委奴国」を「怡土之縣主」と解し、発見者を「志賀島農民　秀治　喜平」としている。発見者については藩に届出のあった文章として、いわゆる「甚兵衛口上書」が知られているが、本資料はその発見者について新たな知見を提供するものである。

5．有形文化財「千利休書状」

天正６年（1588）に秀吉の勘気に触れて筑紫に配流された、大徳寺117世古渓宗陳（1532～1597）の帰洛がかなうことを報じた書状である。発信者は千利休で、あて先は当時の博多の豪商島井宗室、神屋宗湛である。配流に当たって、宗室・宗湛は現在の奈良屋町に大同庵を建て、古渓和尚を迎えており、旧町名「古渓町」にその名を残している。本資料から当時の堺・博多商人―禅―茶の湯の深い関係と政治・経済・文化の一側面を端的に窺うことができる。

6．有形文化財「『人参三臓圓』看板」

今回新たに指定された「楢崎家肖像」でも触れた、薬店三臓圓で使用された江戸時代の朝鮮人参販売の看板である。材質は楠で全長139.5cm、横幅48.8cm、厚さ3.8cm、である。表裏に同一の銘文が彫られており、現在では大半が剥落しているが、漆と金箔の痕跡がわずかに残っている。上部の金具の痕跡から吊り看板として使用されていたと考えられる。銘文は以下のように彫られており、藩から朝鮮人参の専売が認められたことがわかる。

御免　　調合所

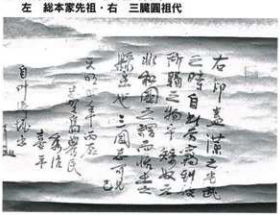
㊊　人参三臓圓

紙屋嗣七　「楢崎」　「種布」

江戸中期には朝鮮人参の国産化が図られており、黒田藩においても鞍手郡犬鳴谷で朝鮮人参の栽培を試みたことが知られている。本資料はこのような朝鮮人参の国産化と専売の実際を示す貴重な資料である。

1. 楢崎家歴代肖像（一部、部分）
左　総本家先祖・右　三観圓祖代

2. 碓野家歴代肖像
左より一代～三代



3. 仙厓「金印」考文

4. 千利休書状

5. 伊達政宗筆「集諺」
奥書

6. 伊達政宗筆「集諺」
巻首

7. 「人参三観圓」看板
左から、裏、表、裏部分拡大

8. 「人参三観圓」看板
附　仙厓筆「三観圓辨」

平成19年度福岡市新指定文化財写真

報告書抄録

ふりがな 書名	ふくおかしまいぞうぶんかざいねんぽう 福岡市埋蔵文化財年報
副書名	平成19（2007）年度版
巻次	22
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	吉留秀敏
編集機関	福岡市教育委員会
所在地	福岡市中央区天神１丁目8-1
発行年月日	平成21年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	° ′ ″	° ′ ″		(㎡)	
はかたいせきぐん 博多遺跡群	はかたくてんやまち 博多区店屋町194-1	40135	0121	33-35-47	130-24-31	2007.4.17	8	店舗建築
かまがたにいせき 釜ヶ谷遺跡	さわらくまがりぶち 早良区曲淵釜ヶ谷	40135	2841	33-29-24	130-18-01	2007.5.22	1	道路工事
もろおかBいせき 諸岡B遺跡	はかたくもろおか 博多区諸岡４丁目181番	40135	0093	33-33-26	130-27-05	2007.6.14～ 2007.6.25	38.1	個人住宅
はかたいせきぐん 博多遺跡群	はかたくごくしまち 博多区御供所町173、155-11	40135	0121	33-35-45	130-24-49	2007.8.20～ 2007.8.21	6.5	共同住宅
もろおかBいせき 諸岡B遺跡	はかたくもろおか 博多区諸岡2丁目7-4、7-5	40135	0093	33-33-34	130-26-60	2007.9.3～ 2007.9.21	118.1	個人住宅
はこざきいせき 箱崎遺跡	ひがしくまいだし 東区馬出5丁目504-1の一部	40135	2639	33-36-53	130-25-15	2007.9.25	13	個人住宅
はかたいせきぐん 有田遺跡群	さわらくこたべ 早良区小田部1丁目387-1	40135	0309	33-34-10	130-20-06	2007.11.21～ 2007.12.5	81	個人住宅
なかのはらいせき 中ノ原遺跡	はかたくひかりがおかまち 博多区光丘町２丁目6	40135	2816	33-32-20	130-28-00	2007.11.27	18.2	個人住宅
はかたいせきぐん 博多遺跡群	はかたくこもんどうろう 博多区古門戸町3-6	40135	0121	33-35-51	130-24-09	2007.12.20	19.8	個人住宅

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
博多遺跡群	散布地＋集落＋都市遺跡	古墳/古代/中世	包含層	須恵器	集落縁辺域
釜ヶ谷遺跡	生産跡	中世/近世	炭焼窯跡	なし	擁壁工事により窯奥部のみ残存
諸岡B遺跡	散布地＋集落	弥生	柱穴	弥生土器＋黒曜石	集落縁辺域
博多遺跡群	散布地＋集落＋都市遺跡	古墳/古代/中世	溝＋土坑	弥生土器＋黒曜石＋土師器＋陶磁器＋銅銭＋鍛冶滓＋羽口＋近世陶磁器類	中世都市の一部と近世鍛冶遺構があり、後者は元文3(1738)年の聖福寺仏殿改修関連か。
諸岡B遺跡	散布地＋集落	古代/中世/近世	建物＋溝＋土坑＋柱穴＋埋甕＋溜井	須恵器＋土師器＋陶磁器	中世～近世集落の一部。古代以前の遺構は削平か。
箱崎遺跡	散布地＋集落	中世	土坑＋柱穴	須恵器＋瓦器＋陶磁器	古代末～中世集落の一部。
有田遺跡群	散布地＋集落	古墳/古代/中世	溝＋柱穴	近世陶磁器＋銅銭	中世末～近世集落の一部でそれ以前の遺構は削平か。
中ノ原遺跡	散布地＋集落	古代	竪穴式住居＋柱穴	須恵器	8世紀代の方形竪穴住居1棟、東壁竈に祭祀跡。
博多遺跡群	散布地＋集落＋都市遺跡	古代/中世	包含層＋井戸	陶磁器＋銅銭	鏡背に白磁皿が密着出土。何らかの儀礼か。

福岡市埋蔵文化財年報
Vol.22
- 平成19(2007)年度版-

発　行　日　平成21年3月31日

編集・発行　福岡市教育委員会文化財部
埋蔵文化財第1課
福岡市中央区天神１丁目8-1

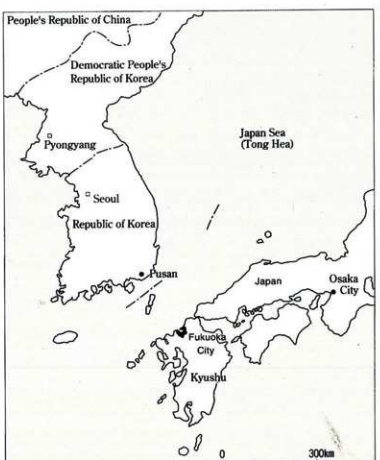
印　　刷　有限会社プリコム
福岡市博多区冷泉町1-20

THE ANNUAL REPORT

OF

THE BURIED CULTURAL RELICS OF FUKUOKA CITY

VOLUME 22



THE BOARDS OF EDUCATION OF FUKUOKA CITY

MARCH 2009

JAPAN